

## 平成 16 年 1 月—平成 16 年 12 月研究業績目録

( 前段：和文業績 )  
( 後段：欧文業績 )院長  
President

## 学術雑誌に発表した総説

篠崎英夫. 変貌する医療 エビデンスに基づく医療安全を目指して. 看護展望 2004;29(1):89.

篠崎英夫. 変貌する医療 地域レベルの医療事故防止 医療安全支援センターと保健所. 看護展望 2004;29(3):89.

篠崎英夫. 変貌する医療 連携の時代と開業医の役割. 看護展望 2004;29(4): 408-409.

篠崎英夫. 変貌する医療 在宅死をどう支援するか. 看護展望 2004;29(5): 520-521.

篠崎英夫. 変貌する医療 いよいよ始まった医師の臨床研修義務化 さて, 看護師は? 看護展望 2004;29(6): 632-633.

篠崎英夫. 変貌する医療 精神医療は地域で. 看護展望 2004;29(7): 89.

篠崎英夫. 変貌する医療 保健所再編. 看護展望 2004;29(8): 856-857.

篠崎英夫. 変貌する医療 地域の医療問題と保健所の機能. 看護展望 2004;29(9): 89.

篠崎英夫. 変貌する医療 子どもの虐待を発見せよ. 看護展望 2004;29(10): 1080-1081.

篠崎英夫. 変貌する医療 在宅介護のゆくえ 介護保険制度の見直しを中心に. 看護展望 2004;29(11): 1192-1193.

篠崎英夫. 変貌する医療 健康問題の変化と看護師・保健師のこれからの役割. 看護展望 2004;29(12): 1304-1305.

篠崎英夫. 変貌する医療 国際保健における看護師への期待. 看護展望 2004;29(13): 89.

## 抄録のある学会報告

篠崎英夫. 21世紀の医療改革ビジョン. 広島医学 2004;57(2): 216.

篠崎英夫. 卒後研修必修化における救命救急センター・救急部の役割をめぐって. 日本救急医学会雑誌 2004;15(9): 318.

次長  
Vice President

## 学術雑誌に発表した総説

武村真治, 林謙治. 欧米諸国の衛生行政組織. 公衆衛生 2004;68(1):125.

林謙治. リーダーシップの養成 —英米の対比から. 公衆衛生 2004;68(1):314.

## 著書

林謙治. 現代女性の性と妊娠・出産の行動およびその伝承について. 毎日新聞社編. 超少子化時代の家族意識. 東京: 毎日新聞社; 2004. p.195-214.

## 抄録のある学会報告

武村真治, 須藤紀子, 兵井伸行, 曾根智史, 林謙治. 全国の保健所・市町村における地域保健行政のパフォーマンスの

実態調査. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):385.

曾根智史, 須藤紀子, 武村真治, 兵井伸行, 林謙治. 米国における公衆衛生行政官のリーダーシップ養成. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):391.

## その他学術報告 (研究調査報告書含む)

林謙治, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」(課題番号: H15-がん予防-079) 平成15年度総括・分担研究報告書; 2004.

## 技術評価部

## Department of Technology Assessment and Biostatistics

## 学術雑誌に発表した原著論文

大坪浩一, 山岡和枝, 横山徹爾, 高橋邦彦, 丹後俊郎. 標準化死亡比の経験的ベイズ推定量による医療資源の死亡に及

ぼす影響に関する研究—福岡県における事例—. 日本公衆衛生雑誌 2004; 51(5): 347-356.

相田潤, 安藤雄一, 青山旬, 丹後俊郎. 経験的 Bayes 値を

用いた市町村別3歳児う蝕有病者率の地域比較および歯科保健水準との関連推定. 口腔衛生学会誌 2004; 54: 566-567.

### 学術雑誌に発表した総説

丹後俊郎. 補完代替医療を科学的に評価する無作為化比較試験. 補完代替医療学 2004; 1: 17-29.

山岡和枝, 丹後俊郎. Evidence Based Nutritionに基づく糖尿病予防のための栄養教育の評価研究. 公衆衛生 2004; 68(5): 384-387.

丹後俊郎. 論文「レセプト傷病分析の原理とシミュレーションによる妥当性の検証」へのコメント. 日本公衆衛生雑誌 2004; 51: 377-378.

森宏之, 藤井信吾, 武谷雄二, 丹後俊郎. 酢酸ブセリンデポー型注射投与による子宮筋腫, 子宮内膜症の治療における血中エストロゲン濃度と有効性および安全性の関連について(前方視的研究). 産科と婦人科 2004; 71: 1099-1111.

山岡和枝. 健康観の国際比較は? 肥満と糖尿病 2004; 3.4: 584-585.

山岡和枝. 健康と国民性. 学際 2004; 12: 39-45.

山岡和枝, 李相倫. 国際比較調査データの安定性についての検証—2003年度韓国・台湾における「健康と文化調査」および「東アジア価値観国際比較調査」データの比較—. 行動計量学 2004; 31(2): 125-135.

### 抄録のある学会報告

渡辺満利子, 山岡和枝, 丹後俊郎. 無作為化比較試験によるII型糖尿病予防のための新しい栄養教育の評価. 第14回日本疫学会学術総会; 2004.1.23; 山形. 同総会講演集. p.205.

Tango T. Linear equations with random variables. 2004年度統計関連学会連合大会; 2004.9.5; 花巻. 同大会講演報告集. p.58.

高橋邦彦, 丹後俊郎. 平面領域同定の検定における評価指標. 2004年度統計関連学会連合大会; 2004.9.5; 花巻. 同大会講演報告集. p.288-289.

西川正子, 丹後俊郎, 小川真樹子. Nonparametric inference of adverse events under informative censoring. 第72回統計関連学会連合大会; 2004.9.36; 花巻. 同大会講演報告集. p.235-236.

山岡和枝, 丹後俊郎. 糖尿病予防のための栄養教育に関するメタ・アナリシス. 2004年度統計関連学会連合大会; 2004.9.36; 花巻. 同大会講演報告集. p.252.

山岡和枝, 吉野諒三. 東アジアの人々の健康感—睡眠障害と健康満足度を中心とした分析—. 日本行動計量学会第32回大会; 2004.9.16; 神奈川. p.50-51.

渡辺満利子, 山岡和枝, 横塚昌子, 諸戸敬子, 丹後俊郎. 動脈硬化予防のための栄養教育の評価. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004; 51(10特別附録): 870.

野村恭子, 山岡和枝, 中尾睦宏, 矢野栄二. 日本, 韓国, 台湾における睡眠障害と健康満足度. 第63回日本公衆衛生学

会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004; 51(10特別附録): 199.

橋本英樹, 山岡和枝, 田宮菜奈子, 矢野栄二. 世帯所得・世帯構造・地域福祉資源と高齢者の非自立状態との関連. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10; 鳥根. p.197.

大坪浩一, 山岡和枝, 横山徹爾, 高橋邦彦, 西川正子, 丹後俊郎. 医療資源の死亡に及ぼす影響をEBSMRで評価する—全国の市区町村を対象とした研究—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004; 51(10特別附録): 441.

大坪浩一. 中心地理論の利用による地域医療計画の策定手法に関する研究. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.5; 熊本. 病院管理 2004; 41(Suppl): 216.

ユ・テイ・ルイン, 吉池信男, 横山徹爾, 齋藤京子, 伊達ちぐさ, 田中平三. Serum uric acid, hypertension and selected lifestyle related factors in Japanese men. 第14回日本疫学会学術総会; 2004.1.23; 山形. 同総会講演集. p.211.

三宅吉博, 佐々木敏, 横山徹爾, 千田金吾, 吾妻安良太, 須田隆文, 工藤翔二, 阪本尚正, 岡本和士, 小橋元, 鷺尾昌一, 稲葉裕, 田中平三, 日本特発性肺腺癌研究グループ. 脂肪酸および肉類摂取と特発性肺腺癌との関連に関する症例対照研究. 第14回日本疫学会学術総会; 2004.1.23; 山形. 同総会講演集. p.185.

岡本和士, 小橋元, 鷺尾昌一, 阪本尚正, 佐々木敏, 三宅吉博, 横山徹爾, 稲葉裕. わが国における1995年から2001年までの既存統計に基づく筋萎縮性側索硬化症の記述疫学特性の検討. 第14回日本疫学会学術総会; 2004.1.23; 山形. 同総会講演集. p.86.

齋藤京子, 横山徹爾, 吉池信男, 伊達ちぐさ, 久代和加子, 中山絢湖, ユ・テイ・ルイン, 松下由実, 松村康弘, 田中平三. ビタミンCは血圧と脳卒中との関係を修飾するか?—交互作用の検討—. 第14回日本疫学会学術総会; 2004.1.23; 山形. 同総会講演集. p.134.

横山徹爾, 横山頭, 加藤抱一, 辻仲利政, 武藤学, 大森泰, 羽田達正, 熊谷義也, 井垣弘康, 横山雅子, 渡辺寛. 少量飲酒に伴うフラッシング反応と食道がんリスク. 第14回日本疫学会学術総会; 2004.1.23; 山形. 同総会講演集. p.52.

横山徹爾. 奨励賞受賞講演: ビタミンCと脳卒中罹患リスクに関するコホート研究. 第14回日本疫学会学術総会; 2004.1.23; 山形. 同総会講演集. p.32-33.

朝蔭孝宏, 羽田達正, 山崎光男, 横山徹爾, 横山頭, 熊谷義也, 武藤学, 加藤抱一, 辻仲利政, 井垣弘康, 大森泰, 渡辺寛. 頭頸部がんのリスクとアルコール代謝酵素の検討. 第63回日本癌学会学術総会; 2004.9.30; 福岡. P-1111.

横山徹爾, 横山頭, 加藤抱一, 井垣弘康, 辻仲利政, 武藤学, 大森泰, 熊谷義也, 渡辺寛. 女性食道癌リスクに及ぼすアルコール代謝酵素遺伝子多型とフラッシング反応および飲酒喫煙食習慣の影響. 第63回日本癌学会学術総会; 2004.10.1; 福岡. P-1609.

横山頭, 熊谷義也, 横山徹爾, 加藤抱一, 辻仲利政, 武藤

学, 大森泰, 井垣弘康, 渡辺寛. 赤血球の MCV と飲酒によるフラッシング反応を用いた食道扁平上皮癌リスクの新しい評価法. 第 63 回日本癌学会学術総会; 2004.10.1; 福岡. P.1608.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

丹後俊郎, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金化学物質リスク研究事業「ダイオキシン類汚染に起因する悪性新生物死亡の超過リスクに関するコホート研究」平成 15 年度研究報告書. 2004.3.

丹後俊郎, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」平成 15 年度研究報告書. 2004.3.

丹後俊郎, 研究代表者. 文部科学省科学研究費補助金(基盤研究 (B))「ごみ焼却施設周辺のダイオキシン類による健康影響を評価する統計モデル」平成 13-15 年度研究成果報告書. 2004.3.

山岡和枝, 吉野諒三. 健康観と関連要因: 東アジア価値観調査結果の分析. 吉野諒三編. 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析 2002 年日本調査報告書 (主任研究者: 吉野諒三) 統計数理研究所研究リポート. No.91, 2004

丹後俊郎, 高橋邦彦. メタ・アナリシスに向けた新たな統計

手法の開発に関する研究—グループ化データにおける回帰直線の傾きの比の信頼区間の構成—. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.24-28.

横山徹爾. 循環器疾患の危険因子・予防因子に関するメタ・アナリシス. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.45-47.

山岡和枝, 丹後俊郎. 糖尿病予防のための栄養教育効果とメタ・アナリシスに関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.48-51.

横山徹爾. 標準抽出方法及びデータ解析手法の検討. 厚生労働省科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民健康・栄養調査における各種指標の設定及び精度に関する研究」(主任研究者: 吉池信男) 平成 15 年度研究報告書. 2004.3. p.5-9.

### Originals

Tango T, Fujita T, Tanihata T, Minowa M, Doi Y, Kato N, Kunikane S, Uchiyama I, Tanaka M and Uehata T. Risk of adverse reproductive outcomes associated with proximity to municipal solid waste incinerators with high dioxin emission levels in Japan. *Journal of Epidemiology* 2004; 14: 83-93.

Nomura K, Yamaoka K, Okano K, Yano E. Investigating an effect of individual risk perception on attitude towards volcano observatory, how do we approach the volcanic gas disaster? *Journal of Human and Ecological Risk Assessment* 2004;10:595-604.

Issiki A, Nakao M, Yamaoka K, Yano E. Application of symptom checklist for screening major depression by annual health examinations: a cross validity study in the workplace, *Journal of medical screening*, 2004;11(3) :207-209.

Miyake Y, Yokoyama T, Yura A, Iki M, Shimizu T. Ecological association of water hardness with prevalence of childhood atopic dermatitis in a Japanese urban area. *Env Res.* 2004 Jan;94:33-37.

Kobashi G, Washio M, Okamoto K, Sasaki S, Yokoyama T, Miyake Y, Sakamoto N, Ohta K, Inaba Y, Tanaka H, and Japan Collaborative Epidemiological Study Group for Evaluation of OPLL Risk. High body mass index after age 20 and diabetes mellitus are independent risk factors for ossification of the posterior longitudinal ligament of the

spine (OPLL) in Japanese; A case-control study in multiple hospitals. *Spine* 2004 Apr; 29(9):1006-10.

Washio M, Kobashi G, Okamoto K, Sasaki S, Yokoyama T, Miyake Y, Sakamoto N, Ohta K, Inaba Y, Tanaka H, and Japan Collaborative Epidemiological Study Group for Evaluation of Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament of the Spine (OPLL) Risk. Sleeping habit and other life styles in the prime of life and risk for ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine (OPLL): a case-control study in Japan. *J Epidemiol* 2004 July;14:168-173.

Okamoto K, Kobashi G, Washio M, Sasaki S, Yokoyama T, Miyake Y, Sakamoto N, Ohta K, Inaba Y, Tanaka H, and Japan Collaborative Epidemiological Study Group for Evaluation of Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament of the Spine (OPLL) Risk. Dietary habits and risk of OPLL; findings from a case-control study in Japan. *J Bone Mineral Metab* 2004;22:612-7.

Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Chida K, Azuma A, Suda T, Kudoh S, Sakamoto N, Okamoto K, Kobashi G, Washio M, Inaba Y, Tanaka H, Japan Idiopathic Pulmonary Fibrosis Study Group. Vegetable, fruit, and cereal intake and risk of idiopathic pulmonary fibrosis in Japan. *Ann Nutr Metab* 2004 Nov;48(6):390-397.

### Proceedings with abstracts

Yamaoka K, Yoshino R, Zheng Y, Lee S. Evaluation of

health status and related factors in cross cultural settings. 36th International Institute of Sociology; July 8 2004; Beijing. (CD)

Yamaoka K, Tango T. Meta-analysis of the effects of dietary education on prevention of type 2 diabetes mellitus, 17th International Biometric Conference; July 11-16; Cairns, Australia. p. 417 (in CD)

Tango T. A novel system of linear equations with random variables. 17th International Biometric Conference; July 11-16; Cairns, Australia. p. 244 (in CD)

Nishikawa M, Tango T, M.Ogawa. Estimation of

probabilities of adverse events under informative dropouts. In: Abstracts of the 164th Annual meeting of American Statistical Association, Joint Statistical Meeting; August 8-12; Toronto, Canada. ASA Proceedings CD-ROM. p.417-419.

Tango T, Takahashi K. A flexible scan statistic for detecting arbitrarily shaped clusters. Joint Statistical Meetings August 8-12; Toronto, Canada. ASA Proceedings CD-ROM. p.14.

Takahashi K, Tango T. How to evaluate tests for identifying spatial clusters. Joint Statistical Meetings; August 8-12; Toronto, Canada. ASA Proceedings CD-ROM. p.14.

## 政策科学部

### Department of Policy Sciences

#### 学術雑誌に発表した総説

長谷川敏彦. 医療安全管理の実践 7. リスクマネジメント. 病院 2004;63(1):74-80.

石川雅彦, 前沢政次. プライマリ・ケアにおける薬剤コントロール—抗凝固剤・抗血小板剤の継続・中止に関して. 治療 2004;86:175-7.

石川雅彦, 前沢政次. プライマリ・ケアにおける無症候性腹部大動脈瘤のマネジメント. JIM 2004;14:238-40.

石川雅彦, 前沢政次, 森本典雄. プライマリ・ケアにおける上肢のだるさ・しびれ・腫脹のマネジメント. 総合臨床 2004;53:202-5.

石川雅彦, 前沢政次. 男性乳癌—簡便な触診だけで診断しうる悪性腫瘍. 治療 2004;86:189-90.

石川雅彦, 前沢政次. 動脈疾患による腸管虚血に対する大建中湯の効果. 漢方医学 2004;28:120-2.

石川雅彦, 前沢政次. 卒前医学教育におけるプライマリ・ケア実習. 医学教育 2004;35:327-30.

#### 著書

長谷川敏彦. 予防医学. 社団法人日本社会福祉士会, 社団法人日本医療社会事業協会, 編. 保健医療ソーシャルワーク実践 1 第2章 医療と社会・経済 第8節. 東京;中央法規出版株式会社:2004. p. 192-207.

石川雅彦. PBL チュートリアル の現状と課題. 高橋優三, 鈴木康之 (監修). 新しい医学教育の流れ 岐阜 (平成 15 年度版). 東京;医学教育開発研究センター (MEDC):2004.

#### 抄録のある学会報告

雑賀公美子, 大野ゆう子, 杉山裕美, 津熊秀明, 大島明, 長谷川敏彦. 肺がん外科手術例における治療機関別手術件数と予後との関係. 第 14 回日本疫学会学術総会;2004.1.22-24;山形. Journal of Epidemiology; 14(1 Suppl.): 106.

長谷川敏彦. 糖尿病診療の変革 疫学・医療経済より. 第 38 回糖尿病学の進歩;2004.2.6;福岡.

浅野昌彦, 長谷川敏彦. 都道府県版健康日本 21 の目標値分

析. 第 75 回日本衛生学会総会;2004.3.29;新潟.

長谷川敏彦. 施設基準はどうあるべきか—循環器診療の質を担保する—. 第 85 回日本循環器学会総会・学術総会;2004.3.27-29;東京.

長谷川敏彦. 医療政策の現状と展望「医療政策の課題」. 第 92 回日本泌尿器科学会総会;2004.4.10-13;大阪.

長谷川敏彦. 医療の質と診療症例の Volume. 日本胸部外科学会指定施設協議会学術集会;2004.6.5;新潟.

長谷川敏彦. 仕組みとしてのプライマリ・ケアのあり方を考える—諸外国の実情とわが国の課題—日本プライマリ・ケア学会;2004.6.5-6;神奈川. 日本プライマリ・ケア学会誌 2004.12;27(4):351-357.

長谷川敏彦. 臨床指標の新たな展開. 第 6 回医療マネジメント学会学術総会;2004.6.19;香川.

長谷川敏彦. 医療の質をどう保証するか. 第 42 回病院管理学会;2004.11.5;熊本.

長谷川敏彦. 質・安全の改善と効率を求めて. 第 42 回日本社会保険医学総会;2004.11.11;熊本.

長谷川敏彦. 医療安全管理の新たな展開. 医療マネジメント学会第 5 回リスクマネジメント・セミナー;2004.11.6;東京.

長谷川敏彦. 臨床指標—医療安全・質の向上に向けての新しい指標. 医療マネジメント学会第 3 回九州・山口連合大会;2004.11.19-20;長崎.

長谷川敏彦. 東方医学に期待されるもの—医療行政の立場から. 第 22 回日本東方医学会;2004.11.13-14;東京. 第 22 回日本東方医学会抄録集. p. 15. (シンポジウム)

石川雅彦, 前沢政次. 大動脈瘤—総合外来で留意すべき疾患. 第 12 回日本総合診療医学会学術大会;2004.2.21-22;川崎.

石川雅彦, 前沢政次. 頭重感を契機に発見された胸部大動脈瘤の 1 例. 第 39 回北海道プライマリ・ケア研究会;2004.3.21;札幌.

石川雅彦, 前沢政次. 呑気症に対する漢方薬の治療経験. 第 55 回日本東洋医学会学術総会;2004.6.25-27;横浜.

石川雅彦, 前沢政次. 卒前プライマリ・ケア実習と卒後の生

涯学習—大学総合診療部における実践—。第36回日本医学教育学会総会；2004.7.30-31；高知。

### その他学術報告（研究調査報告書含む）

長谷川敏彦，主任研究者。厚生労働科学研究統計情報高度利用総合研究事業「患者調査における患者数推定法と施設層化法の改善についての考察」（課題番号：H16-統計-001）。平成16年度研究報告書，2004。

長谷川敏彦，主任研究者。医療技術評価総合研究事業「臨床指標を用いた医療の質向上に関する国際共同研究」（課題番号：H16-医療-005）。平成16年度研究報告書，2004。

長谷川敏彦，主任研究者。医療技術評価総合研究事業「政府の役割と質・安全・公平から見た地域医療システム運営の評価手法と改善誘因の研究」（課題番号：H16-医療-017）。平成16年度研究報告書，2004。

長谷川敏彦，主任研究者。厚生労働科学特別研究事業「医師需給と医学教育に関する研究」（課題番号：H16-特別-031）平成16年度研究報告書，2004。

石川雅彦，診療科分析。厚生労働科学特別研究事業「医師需給と医学教育に関する研究」（主任研究者：長谷川敏彦，課題番号：H16-特別-031）平成16年度研究報告書，2004。

種田憲一郎，医療の質と医師需給。厚生労働科学特別研究事業「医師需給と医学教育に関する研究」（主任研究者：長谷川敏彦，課題番号：H16-特別-031）平成16年度研究報告書，2004。

長谷川敏彦，主任研究者。健康科学総合研究事業「健康日本21計画の改善と改定に関する研究」（課題番号：H16-健康-001）平成16年度研究報告書，2004。

長谷川敏彦。平成16年度統計数理研究所共同研究課題「21世紀型保健医療指標の開発（2）」（主任研究者：大野ゆう子）統計数理研究所共同研究レポート166。東京：統計数理研究所；2004。

長谷川敏彦。精神医療改革におけるモデルの研究。厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「新たな精神病床算定式に基づく，早期退院と社会復帰促進のための精神保健福祉システムに関する研究」（主任研究者：竹島正，課題番号：H16-特別-010）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。調査手法とその成果への国際的比較検証。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療事故の全国的発生頻度に関する研究」（主任研究者：堺秀人，課題番号：H15-医療-007）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。データ収集フロー整備 統計分析。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「手術成績予測法を用いた外科治療室改善システムの開発」（主任研究者：二

村雄次，課題番号：H16-医療-032）平成16年度報告書，2004。

石川雅彦，統計分析。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「手術成績予測法を用いた外科治療室改善システムの開発」（主任研究者：二村雄次，課題番号：H16-医療-032）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。疾病分類の妥当性に関する研究。循環器病研究委託事業「循環器病政策医療ネットワークにおける医療の質的評価」（主任研究者：矢野周作，課題番号：14指-2）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。研究費配分に影響する因子・意志決定モデル。厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「わが国の疾病負荷（disease burden）等に基づく保健医療研究分野の優先順位付けに関する研究」（主任研究者：佐藤敏彦，課題番号：H16-政策-017）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。医療行政とEBMについての教材作成。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「臨床研修病院における患者安全向上に寄与するEBM教育企画の開発に関する研究」（主任研究者：小泉俊三，課題番号：H16-医療-060）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。調査の企画・実施及び解析。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療質の確保のためのコアとなる職種横断的資質に関する研究」（主任研究者：平尾智広，課題番号：H16-医療-043）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。健康格差の分析。厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康関連指標を用いた健康寿命の都道府県較差の原因に関する研究」（主任研究者：平尾智広，課題番号：H16-健康-034）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。臨床指標の抽出、妥当性の検討、分析。厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「主な医療行為に対するクリティカルパスの臨床評価指標及び経営管理指標を用いた評価方法の開発と医療機関経営に与える影響に関する研究」（主任研究者：向原茂明，課題番号：H16-政策-028）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。海外調査。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「診療ガイドラインの評価と活用に関する研究」（主任研究者：長谷川友紀，課題番号：H16-医療-065）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。教育パッケージの試行。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「コア・コンペタンシーに基づいた医療安全教育について」（主任研究者：長谷川友紀，課題番号：H16-医療-038）平成16年度報告書，2004。

長谷川敏彦。世界の健康増進政策。第4回「栄養とエイジング」国際会議，2004。

### Originals

Kitamura Y, Ohno Y, Kasahara S, Murata K, Sugiyama H, Hasegawa T. Statistical estimation of the number of breast cancer patients with disabilities resulting from surgery. *Breast Cancer*. 2004;4; 12(2): 1304.

### Proceedings with Abstracts

Hasegawa T. Healthy Japan 21: New perspective policy in Japan for 21st century. *International Meeting on Korean Society on Health Education and Promotion*; August 31 2004; Seoul, Korea. (特別講演)

## 経営科学部

## Department of Management Science

## 学術雑誌に発表した原著論文

岡本悦司. 連結可能匿名化のための暗号手法. 日本公衆衛生雑誌 2004;51:445-451.

熊川寿郎. バランススト・スコアカードによる新しい医療リスクマネジメントシステムの構築. 医療バランススト・スコアカード研究 2004; 1(1): 77-83.

## 学術雑誌に発表した総説

岡本悦司. コストデータの日米比較——臨床研究への活用可能性の視点から. 臨床研究・生物統計研究会誌 2004;24:19-29.

岡本悦司. 行政における薬剤疫学. 医薬ジャーナル 2004;40:92-95.

岡本悦司. 医療制度改革の流れ—病院機能分化への努力. 作業療法ジャーナル 2004;38:455-462.

## 著書

小山秀夫. 訪問看護ステーションのマネジメント A to Z. 東京: 医学書院; 2004.

小山秀夫. 病院のDON 看護管理で病院がよみがえる. 東京: 医学書院; 2004.

岡本悦司. 保健医療論. 岡本悦司, 小橋元, 坂田清美, 佐藤敏彦, 横山英世, 編. subnote 保健医療論・公衆衛生学. 東京: メディックメディア; 2004. p.2-136.

岡本悦司. 福祉・介護制度. 木村美恵子, 徳留信寛, 圓藤吟史, 編. 公衆衛生学. 京都: 化学同人; 2004. p.167-72.

岡本悦司. 日本における喫煙と経済. 望月友美子, 山口直人, Samet JM, 編. ニッポンのタバコ政策への提言. 東京: インクス社; 2004. p.172-180.

## 抄録のある学会報告

杉森裕樹, 吉田勝美, 小山秀夫, 森脇久隆, 中村丁次, 川島由起子ら. Protein energy malnutrition 患者の食事・栄養サービス (NCM) に関する研究—公的病院連合加盟病院における実態調査—. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.56; 熊本. 病院管理 2004; 41(Suppl): 161.

杉山みち子, 五味郁子, 三橋扶佐子, 森脇久隆, 吉田勝美, 小山秀夫ら. 栄養食事指導の実態と効果分析に関する研究 (第1報) 一般病院における栄養食事指導の実態. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.56; 熊本. 病院管理 2004; 41(Suppl): 218.

三橋扶佐子, 杉山みち子, 五味郁子, 森脇久隆, 吉田勝美, 小山秀夫ら. 栄養食事指導の実態と効果分析に関する研究 (第2報) 一療養型病床群における栄養食事指導の実態—. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.56; 熊本. 病院管理 2004; 41(Suppl): 219.

柳澤直子, 小山秀夫. MB賞ヘルスケア部門受賞組織にみる経営品質の取り組み. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.56; 熊本. 病院管理 2004; 41(Suppl): 296.

岡本悦司. 要介護認定における「掘り起こし」評価手法の提案. 日本計画行政学会第27回全国大会; 2004.9.18-19. 研究報告要旨集.<藤沢: 慶応義塾大学; 2004> p.227.

岡本悦司. レセプトによる傷病別医療費・日数の年間変動の分析. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):207.

岡本悦司, 久保田潔, 大橋靖雄, 津谷喜一郎. 薬剤疫学研究と倫理タスクフォース活動報告—薬剤疫学研究における各種指針の適用. 第10回日本薬剤疫学会学術総会; 2004.11.13-14; 福岡. 薬剤疫学 2004;9(Suppl):S3233.

岡本悦司, 木村真也. 調剤レセプトを活用した医薬品使用実態データベース化の試み. 第10回日本薬剤疫学会学術総会; 2004.11.13-14; 福岡. 薬剤疫学 2004;9(Suppl):S54-55.

古田愛子, 菊池美佐子, 堀口京子, 佐野廣子, 金沢千恵子, 神田律子, 熊川寿郎. バランススト・スコアカードを導入したリスクマネジメント. 第8回日本看護管理学会; 2004.8.21; 宇都宮. 第8回日本看護管理学会年次大会講演抄録集 2004. p.212-3.

熊川寿郎. バランススト・スコアカードによる病院経営—戦略的診療情報管理のヒント—. 第86回近畿病歴管理セミナー; 2004.10.29; 愛知 (刈谷総合病院). 第86回近畿病歴管理セミナー記録集 2004. p.10-6.

## その他学術報告 (研究調査報告書含む)

小山秀夫, 主任研究者. 長寿科学総合研究事業「高齢者保健・医療・福祉サービス提供機関におけるマネジメントに関する実態分析並びに理論構築に関する研究」(課題番号: H13-長寿-025) 平成15年度総合研究報告書. 2004.

小山秀夫, 主任研究者. 長寿科学総合研究事業「高齢者保健・医療・福祉サービス提供期間におけるマネジメントに関する実態分析並びに理論構築に関する研究」(課題番号: H13-長寿-025) 平成15年度総括研究報告書. 2004.

小山秀夫, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「病院経営品質測定技法に関する研究」(課題番号: H14-医療-018) 平成15年度研究報告書. 2004.

小山秀夫, 主任研究者. 成育医療研究委託費成育医療研究委託事業「NICUの後方医療に関する研究」(課題番号: 15公4) 平成15年度研究報告書. 2004. p. 48-51.

岡本悦司, 主任研究者. 南アルプス市旧甲西町地区レセプト分析結果——糖尿病医療費を中心に. 山梨県国民健康保険団体連合会. 平成15年度総括報告書. 2004.

岡本悦司. レセプト傷病分析の原理手法ならびに個人情報保護の技術に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金政策科

学推進研究事業「レセプト情報の利活用と個人情報保護のあり方に関する研究」(主任研究者:小林廉毅, 課題番号:H15-

政策-016) 平成 15 年度総括研究報告書, 2004. p.58-76.

### Originals

Okamoto E, Hata E. Estimation of disease-specific costs in health insurance claims: A comparison of three methods. *Japanese Journal of Public Health* 2004;51:926-37.

Health Association;2004.

Okamoto E. Smoking and Economics in Japan. In: Mochizuki Y, Yamaguchi N, Samet JM, editors. *Tobacco Free Japan — Recommendations for Tobacco Control Policy*. Tokyo: Inks;2004. p.191-200.

### Book

Okamoto E. *Public Health of Japan*. Tokyo: Japan Public

## 人材育成部

### Department of Human Resources Development

### 著書

兵井伸行. 国際協力. 奥山則子, 著者代表. *地域看護学概論*. 東京: 医学書院; 2004. p.39-43

### 抄録のある学会報告

北村菜穂子, 木村佐和子, 相田潤, Masmo R, Kimani S, Hikaaba H, Mwakatobe J, Daniel L, Malawo D, 岡本悦司, 畑栄一, 兵井伸行, 綿引信義. 在日外国人の保健医療サービスへのアクセスの現状と健康問題. 第 19 回日本国際保健医療学会; 2004.10; 東京. *国際保健医療*; 19 (増刊号): 250.

武村真治, 須藤紀子, 兵井伸行, 曾根智史, 林謙治. 全国の保健所・市町村における地域保健行政のパフォーマンスの実態調査. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10; 松江. *日本公衆衛生雑誌* 2004;51(10 特別附録):385.

曾根智史, 須藤紀子, 武村真治, 兵井伸行, 林謙治. 米国における公衆衛生行政官のリーダーシップ養成. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. *日本公衆衛生雑誌* 2004;51(10 特別附録):391.

橘とも子, 中瀬克己, 嶋貴子, 今井光信. 保健所 HIV 即日検査相談の導入に伴う相談充実体制整備条件の検討. 第 18 回日本エイズ学会学術集会・総会; 2004.12.9-11; 静岡. *日本エイズ学会誌* 2004;6(4):479.

橘とも子, 谷畑健生, 市川誠一, 阿保満, 杉下由行, 前田秀雄, 山口剛. 感染不安後「推奨受検時期以前の自発的 HIV 受検」に関する要因の検討. — 東京都南新宿検査・相談室の抗体陰性受診者における分析, 2000-2002 年. 第 18 回日本エイズ学会学術集会・総会; 2004.12.9-11; 静岡. *日本エイズ学会誌* 2004;6(4):508.

橘とも子, 阿保満, 杉下由行, 前田秀雄, 谷畑健生, 市川誠一. 感染不安後「遅い自発的 HIV 検査相談受診」要因に関する検討. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. *日本公衆衛生雑誌* 2004;51(10 特別附録):840.

有川かがり, 橘とも子. 結核定期外検診受診者の不安に関する研究. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. *日本公衆衛生雑誌* 2004;51(10 特別附録):832.

中瀬克己, 橘とも子, 塚田三夫, 今井光信, 嶋貴子. 保健所

における HIV 即日検査ガイドラインの項目別にみた必要性の検討. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. *日本公衆衛生雑誌* 2004;51(10 特別附録):839.

村井やす子, 橘とも子, 西田茂樹, 他. (国立保健医療科学院平成 15 年度合同臨地訓練第 4 グループ). 二次保健医療圏を基盤とした HIV に関する普及活動 (第 3 報). 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. *日本公衆衛生雑誌* 2004;51(10 特別附録):838.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

兵井伸行. 参加型手法について. 厚生労働省国際医療協力研究委託費「国際医療協力における保健医療開発調査手法開発に関する研究」(主任研究者:小早川隆敏). *保健医療分野の開発調査 報告書*. 2004. p.111-119.

兵井伸行. 諸外国の地域保健衛生組織の構造・機能・マンパワーの実態調査. 厚生労働科学研究補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健衛生組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」(主任研究者:林謙治). 平成 15 年度総括分担報告書. 2004. p.149-152.

兵井伸行. ドイツ連邦共和国の保健衛生組織. 厚生労働科学研究補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健衛生組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」(主任研究者:林謙治). 平成 15 年度総括分担報告書. 2004. p.153-163.

兵井伸行. 保健行政強化に係わる技術移転状況. タンザニア連合共和国 モロゴロ州保健行政強化プロジェクト中間評価報告書. 東京: 国際協力機構; 2004. p.14-22.

兵井伸行. 問題提起. 21 世紀プライマリ・ヘルス・ケア国際セミナー報告書 (中・日本語版). 中国安徽省: 安徽省科学技术庁・安徽省衛生庁・日本国際協力機構; 2004. p.81-82,166-167.

橘とも子. 国立保健医療科学院における専門課程研修 (保健所長養成コース) への結核対策ケースメソッド研修の導入実施報告 および 保健従事者等の結核・感染症対策教育に関する考察. 厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「都市部における一般対策の及びにくい特定集団に対

する効果的な感染症対策に関する研究」(主任研究者:石川信克).平成15年度分担研究報告書.2004.p.118-124.

橘とも子,塚田三夫,中瀬克己.保健所 HIV/STI 検査への即日検査導入に伴う検査相談体制の充実整備条件に関する調査研究.厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 検査体制の構築に関する研究」(主任研究者:今井光信).平成15年度分担研究報告書.2004.p.132-135

市川誠一,内海誠,鬼塚哲郎,木村博和,山本正博,佐藤末光,小竹桃子,橘とも子,日高庸晴,他.男性同性間の HIV

感染予防対策とその推進に関する研究.厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその推進に関する研究」(主任研究者:市川誠一).平成15年度分担研究報告書.2004.p.1-13.

西田茂樹,藤原真一郎,綿引信義,橘とも子.食品企業における健康危機管理に関する研究.厚生労働科学研究費補助金食品安全確保研究事業「食品企業における健康危機管理に関する研究」(主任研究者:玉木武).平成15年度分担研究報告書.2004.p.55-75.

### Proceedings with Abstracts

Hyoj N, Takemura S, Sudo N, Sone T, Hayashi K. Functions of overseas public health facilities and their

administration in contrast to Japanese Public Health Centres. 第19回日本国際保健医療学会;2004.10.;東京.国際保健医療;19(増刊号):242.

## 公衆衛生政策部

### Department of Public Health Policy and Administration

#### 学術雑誌に発表した原著論文

越田美穂子,稲岡由美子,岩月優和,岡山美穂,竹原めぐみ,富田康子,弘中恵,三輪哲,曾根智史,守田孝恵.高齢者福祉施設における効果的な情報伝達システムの検討—疥癬対応マニュアルの活用状況の分析から.日本公衆衛生雑誌 2004;51(12):1036-47.

八代樹依,曾根智史.精神障害者小規模作業所利用者の喫煙実態と喫煙に対する意識調査.北海道公衆衛生学雑誌 2004;17(2):87-92.

竹上美紗,笠島茂,山崎新,中山健夫,福原俊一. The Epworth Sleepiness Scale の性・年齢階級別得点分布と日中の過度の眠気の有症割合の推定.日本公衆衛生雑誌 2005;52:137-45.

谷畑健生,尾崎米厚,青山旬,川南勝彦,箕輪眞澄.全国市町村におけるたばこ対策実施状況.厚生指標 2004;51(10):27-33.

谷畑健生,尾崎米厚,青山旬,川南勝彦,黒沢洋一,箕輪眞澄.全国保健所におけるたばこ対策実施状況調査の結果と分析平成13年調査(第1報)たばこ対策の実施状況,喫煙実態調査の実施状況,保健所職員及び保健所長の喫煙状況とたばこ対策の実施状況との関連.厚生指標 2004;51(6):31-7.

杉浦裕子,武村真治,大井田隆,岩永俊博.全国の都道府県保健所・市町村における健康危機管理機能への対応状況とその関連要因.日本公衆衛生雑誌 2004;51(2):109-16.

川南勝彦.難病患者に共通の主観的 QOL 尺度の検討と基準関連妥当性.順天堂医学 2004;48:484-94.

田口幸子,松下央,川南勝彦.虎の門病院における悪性腫瘍患者の登録及び予後追跡調査について.共済医報 2004;52:53-7.

川南勝彦,箕輪眞澄,岡山明,早川岳人,上島弘嗣.喫煙習慣の全死因,がん,肺がん死亡への影響に関する研究 NIPPON DATA80.日本衛生学雑誌 2004;57:669-73.

鈴木健修,大井田隆,曾根智史,武村真治,横山英世,三宅

健夫,原野悟,野崎直彦,元島清香,須賀雅彦,井深英治.本邦における妊婦の睡眠問題に関する疫学的研究.日本公衆衛生雑誌 2004;50(6):526-39.

桜井愛子,大井田隆,武村真治,曾根智史,鈴木健修,原野悟.わが国における看護学生,保健婦学生,助産婦学生の喫煙実態調査.厚生指標 2004;50(6):9-16.

白鞘康嗣,島田直樹,中原俊隆,潮見重毅,里村一成,武村真治,近藤健文.介護保険導入による市区町村の保健福祉サービスの変容.日本公衆衛生雑誌 2004;50(10):959-69.

#### 学術雑誌に発表した総説

曾根智史.米国 National Institutes of Health (NIH) の研究評価制度.保健医療科学 2004;53:262-70.

曾根智史.国立保健医療科学院におけるリーダーシップ養成.公衆衛生 2004;68:438-22.

曾根智史.たばこ対策の進め方.健康管理 2004;601:40-1.

笠島茂.ストレス:心理社会的要因と心血管系疾患.動脈硬化予防 2004;3(2):72-3.

笠島茂.ストレス:労働時間と心血管系疾患.動脈硬化予防 2004;3(3):76-7.

笠島茂.ストレス:“月曜日の朝”と心血管系疾患.動脈硬化予防 2004;3(4):82-3.

武村真治,林謙治.欧米諸国の衛生行政組織.公衆衛生 2004;68(1):12-5.

#### 著書

曾根智史,瀬上清貴,川南勝彦.基礎分野基礎医学 1) 公衆衛生.川崎忠行,芝本隆,編.臨床工学ポケットハンドブック.大阪:医薬ジャーナル社;2004.p.36-46.

曾根智史.地域保健法.保健医療ソーシャルワーク実践.東京:日本社会福祉士会;2004.p.174-8.

曾根智史.国際的な健康政策の潮流.牧野由美子監修.健康日本 21 の具体的展開に向けて.坂出:保健計画総合研究所;



2004, p. 7-11.

### 抄録のある学会報告

曾根智史, 田口眞, 中野修治, 堀江正知, 広部一彦. 事業場における在職者の性別死亡率と性・年齢階級別死因 (サンユー会学術 QQ プロジェクト, 2002 年). 第 77 回日本産業衛生学会; 2004.4.13-16; 名古屋.

中野修治, 田口眞, 曾根智史, 堀江正知, 広部一彦. 事業場における在職者の死因と健康診断結果との関連 (サンユー会学術 QQ プロジェクト, 2002 年). 第 77 回日本産業衛生学会; 2004.4.13-16; 名古屋.

堀江正知, 中野修治, 田口眞, 曾根智史, 広部一彦. 専属産業医がいる事業場における 4 年間の在職死亡者の調査 (QQ プロジェクト). 第 77 回日本産業衛生学会; 2004.4.13-16; 名古屋.

曾根智史. 医学・公衆衛生学の立場から. 健康教育・ヘルスプロモーションにおけるエビデンスとは何か. 第 13 回日本健康教育学会; 2004.6.3-5; 宇都宮. (シンポジウム)

曾根智史. 住民自治の意義と公衆衛生分野における住民自治のあり方. 公衆衛生活動と住民自治. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):78. (シンポジウム)

曾根智史, 須藤紀子, 武村真治, 兵井伸行, 林謙治. 米国における公衆衛生行政官のリーダーシップ養成. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):391.

梅野克身, 安井宏, 高本孝一, 麻野井英次, 鏡森定信, 笠島茂, 堀悦郎, 田淵英一, 小野武年, 西条寿夫. 作動記憶課題における自律神経機能および脳波の活動性. 第 13 回日本臨床環境医学会総会; 2004.7.23; 旭川.

武村真治, 須藤紀子, 兵井伸行, 曾根智史, 林謙治. 全国の保健所・市町村における地域保健行政のパフォーマンスの実態調査. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):385.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

曾根智史, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「死体検案業務の質の確保等に関する研究」(課題番号: H15-医療-016). 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004.

曾根智史. 米国における公衆衛生従事者の養成制度. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「保

健福祉従事者に対する国及び地方自治体での教育研修のあり方に関する研究」(主任研究者: 岩永俊博). 平成 15 年度報告書. 2004. p. 44-9.

曾根智史. 米国における研究パフォーマンス評価に関する研究. 厚生科学研究費補助金厚生科学特別研究事業「国際的視点からみた保健医療分野における研究パフォーマンス評価に関する研究」(主任研究者: 林謙治. 課題番号: H15-特別-009). 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p. 9-16.

曾根智史. 国民にとって必要な地域保健サービスの量・質・内容の推計. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」(主任研究者: 林謙治. 課題番号: H15-がん予防-079). 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p. 279-81.

谷畑健生, 曾根智史. 酒のテレビ広告に関する研究. 2002 年分データ分析. 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業「未成年者の喫煙及び飲酒行動に関連する環境要因についての研究」(主任研究者: 尾崎米厚) 平成 15 年度研究報告書. 2004. p. 50-7.

笠島茂, John Komlos. 恩賜財団母子愛育会外国人研究者招へい事業「データ・リンケージによる産業別生命表の作成とその応用に関する研究: 笠島とコムロス教授による, 経済データと保健・医療データとの関連性に関する共同研究」平成 15 年度報告書. 2004.

川南勝彦, 瀬上清貴. プライマリケア指導医を養成する講習会のモデルカリキュラムと標準テキスト. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の資質の向上 (特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質の向上) に関する研究」(主任研究者: 瀬上清貴). 平成 15 年度総括・分担研究報告書; 2004. p. 5-11.

川南勝彦, 瀬上清貴, 福井次矢, 矢野栄二. 臨床研修修了者に対する到達目標達成度に関する調査. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の資質の向上 (特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質の向上) に関する研究」(主任研究者: 瀬上清貴). 平成 15 年度総括・分担研究報告書; 2004. p. 13-81.

武村真治. わが国の地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーの実態調査. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」(主任研究者: 林謙治. 課題番号: H15-がん予防-079). 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p. 5-148.

### Originals

Zhang M, Izumi I, Kagamimori S, Sokejima S, Yamagami T, Liu Z, Qi B. Role of taurine supplementation to prevent exercise-induced oxidative stress in healthy young men. *Amino Acids*. 2004;26:203-7.

Mizoue T, Onoe Y, Moritake H, Okamura J, Sokejima S, Nitta H. Small area analysis of living proximity to high

voltage power lines and childhood leukemia and Non-Hodgkin Lymphom. *J Epidemiol*. 2004;14:118-23.

Sokejima S, Nakatani Y, Kario K, Kayaba K, Minowa M, Kagamimori S. Seismic intensity and risk of cerebrovascular stroke: 1995 Hanshin-Awaji Earthquake. *Prehospital Disaster Med*. 2004;19:297-306.

### Books

Sone T, Satomura K, Nakahara T. Evaluation of smoking cessation intervention program in Japan. In: Varma AK editor. Tobacco counters health, volume 3. New Delhi: Macmillan; 2004. p. 803.

Satomura K, Nakahara T, Iwanaga S, Sone T. Health education for smoking cessation in Japanese municipalities and public health centers. In: Varma AK editor. Tobacco counters health, volume 3. New Delhi: Macmillan; 2004. p. 69.

Nakahara T, Satomura K, Iwanaga S, Sone T. History of government policy against tobacco in Japan. In: Varma AK editor. Tobacco counters health, volume 3. New Delhi: Macmillan; 2004. p. 635.

Horie S, Sone T, Nakano S, Taguchi M, Hirobe K. Current status of cardiac deaths in Japanese workers under care of occupational physicians. In: Abe H, Nakashima Y editors. Clinical and occupational medicine, a handbook for occupational physicians. Leiden: Backhuys Publishers; 2004. p. 3-9.

### Proceedings with Abstracts

Sone T, Ohida T, Kaneita Y, Suzuki K. Factors associated with parents of smoking in families with a six-month infant: A nationwide survey in 2001-2002, Japan. American Public Health Association, the 132nd Annual Meeting; Nov. 2004; Washington DC.

Ohida T, Sone T, Kaneita Y, Suzuki K, Kaneko A, Yagi Y. Association between smoking behavior of pregnant women and their infants' birth weight. American Public Health Association, the 132nd Annual Meeting; Nov. 2004; Washington DC.

Kaneko A, Yagi Y, Ohida T, Suzuki K, Kaneita Y, Sone T, Takemura S, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Ibuka E, Uchiyama M. Prevalence of excessive daytime sleepiness (EDS) and associated factors among pregnant women in Japan. American Public Health Association, the 132nd Annual Meeting; Nov. 2004; Washington DC.

Yanase Y, Sone T, Ohida T. A survey on maternal smoking during and after pregnancy in Metropolitan Tokyo. American Public Health Association, the 132nd Annual Meeting; Nov. 2004; Washington DC.

Kaneita Y, Ohida T, Kaneko A, Yagi Y, Suzuki K, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Uchiyama M, Takemura S, Kawahara K, Fujita T. Epidemiology of depression and sleep disturbances: A nationwide general population survey. American Public Health Association; the 132nd Annual Meeting; Nov. 2004; Washington DC.

Sokejima S, Segami T. Linkage Analysis between Life-Table and Input-Output Table for Assessing the Health Impact of Industrial Investment in Japan. World Federation of Public Health Associations (WFPHA) 10th International Congress on Public Health; April 2004; Brighton, UK.

Sokejima S, Yamazaki S, Fukuhara S. Association between working hours and risk factors for acute myocardial infarction in a Japanese rural community: Population based cross sectional study (Oral). The Second International Conference on Economics and Human Biology; June 2004; Munich, Germany.

Ugawa Y, Nishikawa M, Taki M, Yamanaka Y, Watanabe S, Wake K, Hanazawa M, Soukejima S, Masuda H, Ohkubo C. Studies on susceptibility to non-thermal levels of RF-EMF. WHO EMF Project, Electrical Hypersensitivity Workshop, Oct. 2004.

### 疫学部

#### Department of Epidemiology

#### 学術雑誌に発表した原著論文

尾崎米厚, 鈴木健二, 和田清, 山口直人, 箕輪眞澄, 大井田隆, 土井由利子, 谷畑健生, 上畑鉄之丞. わが国の中高生の喫煙行動に関する全国調査— 2000年度調査報告. 厚生 の 指 標 2004;51(1):23-30.

尾崎米厚, 鈴木健二, 和田清, 山口直人, 箕輪眞澄, 大井田隆, 土井由利子, 谷畑健生, 上畑鉄之丞. わが国の中高生の喫煙行動に関する全国調査— 2000年度調査報告. 厚生 の 指 標 2004;51(2):24-32.

藤田利治, 佐藤俊哉. 精神病院での長期在院に関連する要因: 患者調査及び病院報告に基づく検討. 厚生 の 指 標 2004;51(1):12-9.

林邦彦, 藤田利治, 鈴木庄亮, 水沼英樹, 麻生武志. ナースを対照にした日本人の疫学調査: Japan Nurses' Health

Study (JNHS) 中間報告. 日本更年期医学会雑誌 2004; 12(1):170-3.

加藤章子, 土井由利子, 筒井末春, 牧野真理子. 青年海外協力隊員の職業性ストレス - 職業性簡易ストレス調査票を用いて -. 産業衛生学雑誌 2004; 46:191-200.

谷畑健生, 尾崎米厚, 青山旬, 川南勝彦, 黒沢洋一, 箕輪眞澄. 全国保健所におけるたばこ対策実施状況調査の結果と分析; 平成 13 年度調査 (第 1 報). 厚生 の 指 標 2004;51(6):31-7.

谷畑健生, 尾崎米厚, 青山旬, 川南勝彦, 箕輪眞澄. 全国市町村におけるたばこ対策実施状況. 厚生 の 指 標 2004; 51(10):27-33.

小笹晃太郎, 箕輪眞澄, 浅野牧茂, 大島明. 医学研究者とタバコ産業との関係. 日本醫事新報 2004;(4195):59-62.

熊本悦明, 塚本泰司, 杉山徹, 赤座英之, 野口昌良, 納谷敦夫, 守殿貞夫, 碓井亞, 香川征, 田中正利, 箕輪眞澄, 谷畑健生, 澤畑一樹. 日本における性感染症 (STD) サーベイランス—2002 年度調査報告. 性感染症学会誌 2004; 15: 1745.

松田智大, マーティン・タミン・ゲラル, シルヴィ・ブルデ, ヴァレリー・ロウワース, エレン・グランジャン, ジャン・フィリップ・レノー. フランスにおける就学児童の一般的 QOL 測定 - コンピュータベースの質問票の開発. QOL Journal 2004;5:3-8.

### 学術雑誌に発表した総説

箕輪眞澄. スウェーデンマッチ社の言い分とそれに対する反論. 箕輪眞澄・仲野暢子編. 緊急シンポジウム「無煙タバコか健康か; タバコ規制枠組条約を機会に, 国内対策の推進を!」記録集. 東京: 日本禁煙推進医師歯科医師連盟, 2004;39-41.

箕輪眞澄. 米国における実際の死因, 2000 年; 解説. JAMA 〈日本語版〉 2004;25:75-6.

箕輪眞澄. せたがや百景. 高圧ガス 2004; 41(10): 489.

箕輪眞澄. ヒトにおけるカドミウム曝露による近位尿細管障害の回復可能性. 保健医療科学 2004;53:300-7.

藤田利治. 精神疾患入院患者での在院期間のわずかな短期化. 公衆衛生 2004;68:102-7.

藤田利治. 情報, その保護と利用. 民族衛生 2004;70:93-4.

藤田利治. 保健統計からみた精神科入院医療での長期在院にかかわる問題. 保健医療科学 2004;53:14-20.

藤田利治. 自殺死亡が急増した大都市部 (その 1): 1950 年以降始めての経験. 公衆衛生情報 2004;34(6):1-3.

藤田利治. 自殺死亡が急増した大都市部 (その 2): 地図で見る自殺死亡の地域性. 公衆衛生情報 2004;34(7):1-3.

藤田利治. 自殺死亡急増と失業および離婚. 公衆衛生情報 2004;34(8):1-3.

斉尾武郎, 藤田利治. 根拠に基づく公衆衛生を推進する TRENDS 声明. 臨床評価 2004; 31: 647-58.

藤田利治. 乳児死亡率は低下したけれど: 増加する低出生体重児の割合. 公衆衛生情報 2004;34(9):1-3.

藤田利治. 細かく分析していますか? 乳児死亡のリスク: 拓けてきた統計資料活用之道. 公衆衛生情報 2004;34(10):1-3.

藤田利治. 神経芽細胞腫の検査は無効だったのか. 公衆衛生情報 2004;34(11):1-3.

藤田利治. 精神障害者の長期在院を考える: 誤解されてきた「在院期間」. 公衆衛生情報 2004;34(12):1-3.

藤田利治. 自殺予防対策のための自殺死亡統計. 臨床精神医学 2004; 33: 1529-37.

土井由利子. 特集 保健医療分野における QOL 研究の現状 - QOL の概念と QOL 研究の重要性. 保健医療科学 2004;53:176-80.

土井由利子. 特集 健康づくりへの取り組み - 健康づくりの理論. 保健の科学 2004;46: 476-80.

土井由利子. 我が国の不眠症の疫学. 最新医療

2004;59:476-80.

土井由利子. RLS と PLMS の疫学. Progress in Medicine 2004;24:218-22.

土井由利子. 特集 行動医学の教育カリキュラム - 公衆衛生における行動科学の教育カリキュラムについて. 行動医学研究 2004;10:21-4.

杉江拓也. 特定疾患と QOL. 保健医療科学 2004;53:191-7.

松田智大. QOL 測定の方法論と尺度の開発. 保健医療科学 2004;53:181-5.

### 著書

土井由利子. 第 11 章 症例対照研究. 柳川洋, 萱場一則, 監訳. しっかり学ぶ基礎からの疫学. 東京: 南山堂; 2004. p.193-218.

土井由利子. 第 13 章 感染症対策. 柳川洋, 萱場一則編. 13 公衆衛生学. 北川定謙, 開原成允, 北村論, 監修. コメディカルのための専門基礎分野テキスト. 東京: 中外医学社; 2004. p.144-56.

土井由利子. 第 2 章 繁栄と幸福. Ichiro Kawachi, Bruce P. Kennedy 著, 西信雄, 中山健夫, 高尾総司, 監訳. 社会疫学研究会誌. 不平等が健康を損なう. 東京: 日本評論社; 2004. p.25-38.

土井由利子. 母子保健の現状と動向. 鈴木庄介, 久道茂, 編. シンプル衛生公衆衛生学 改訂第 9 版. 東京: 南江堂; 2004. p.200-8.

杉江拓也. 財団法人厚生統計協会編. 図説国民衛生の動向 2004. 東京: 財団法人厚生統計協会; 2004. p.38-43.

杉江拓也. 柳沢健一郎, 編. 衛生行政大要. 東京: 財団法人日本公衆衛生協会; 2004. p.241-6.

### 抄録のある学会報告

箕輪眞澄, 松田智大, 川南勝彦, 岡山明, 上島弘嗣. 長期追跡者の高齢者における循環器疾患の罹患と QOL のレスポンスシフト. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):335.

箕輪眞澄. スウェーデンマッチ社の言い分とそれに対する反論. 箕輪眞澄, 仲野暢子, 編. 緊急シンポジウム「無煙タバコか健康か; タバコ規制枠組条約を機会に, 国内対策の推進を!」資料集. 東京: 日本禁煙推進医師歯科医師連盟; 2004. p.189.

箕輪眞澄, 仲野暢子. 小中学校における喫煙防止教育のための CD-ROM 教材の開発. 平成 15 年度厚生労働科学研究「がん予防等健康科学総合研究成果発表会「安心・安全な社会を目指して」(一般向けシンポジウム)」報告書. 2004. p.94-103.

眞崎直子, 松田智大, 箕輪眞澄. 特定疾患患者の地域ベース・コーホート研究—脊髄小脳変性症の QOL. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):474.

三徳和子, 松田智大, 新城正紀, 坂田清美, 永井正規, 平良セツ子, 眞崎直子, 杉江拓也, 箕輪眞澄. 特定疾患患者の主観的健康 (QOL) プロファイル. 第 63 回日本公衆衛生学会総

会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):481.

窪山泉, 早藤知恵子, 藤谷知子, 井出多延子, 伊藤拳, 箕輪眞澄. 受動喫煙の危険因子. 第14回日本疫学会学術総会；2004.1.22-23；山形. *Journal of Epidemiology* 2004; 14(1 Suppl): 171.

尾崎米厚, 谷畑健生, 箕輪眞澄, 嘉悦明彦, 岡本幹三, 岸本拓治. わが国の未成年者によるたばこ消費量の推計 (1996, 2000年). 第14回日本疫学会学術総会；2004.1.22-23；山形. *Journal of Epidemiology* 2004; 14(1 Suppl): 173.

藤田利治, 箕輪眞澄, 丹後俊郎. 国立保健医療科学院における疫学・統計教育. 第17回公衆衛生情報研究協議会研究会；2004.1；長崎. 第17回公衆衛生情報研究協議会抄録集. 2004. p.223.

笹川恵美, 嶋根卓也, 川邊智子, 菅原真弓, 竹田英子, 吉田宏, 石川由美, 箕輪眞澄, 藤田利治. 出生時の低体重が発育および発達に及ぼす影響 (第1報). 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):590.

川邊智子, 菅原真弓, 竹田英子, 嶋根卓也, 笹川恵美, 吉田宏, 石川由美, 箕輪眞澄, 藤田利治. 出生時の低体重が発育および発達に及ぼす影響 (第2報). 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):590.

菅原真弓, 川邊智子, 竹田英子, 嶋根卓也, 笹川恵美, 吉田宏, 石川由美, 箕輪眞澄, 藤田利治. 3歳児健康診査時の発達未通過に関連する要因. 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):591.

藤田利治. 統合失調症入院患者の退院率にみられる地域差. 第14回日本疫学会学術総会；2004.1.22-23；山形. *Journal of Epidemiology* 2004; 14(1 Suppl):79.

片野田耕太, 松村康弘, 高木廣文, 李廷秀, 藤田利治, 林邦彦. 日本女性看護職における栄養補助剤 (サプリメント) 使用状況と使用者の属性: Japan Nurses' Health Study. 第14回日本疫学会学術総会；2004.1.22-23；山形. *Journal of Epidemiology* 2004; 14(1 Suppl): 66.

児玉知子, 藤巻淑, 北原慈和, 藤田利治, 鈴木庄亮, 水沼英樹, 麻生武志, 林邦彦. 大規模女性コホート研究における低用量ピルの使用状況. 第14回日本疫学会学術総会；2004.1.22-23；山形. *Journal of Epidemiology* 2004; 14(1 Suppl):165.

林邦彦, 藤田利治, 片野田耕太, 祖父江友孝, 佐藤俊哉, 西基, 山本圭子. 神経芽細胞腫マスキリーニングの疫学評価 (その1): 受検・未受検間の死亡比較. 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):622.

藤田利治, 林邦彦, 片野田耕太, 祖父江友孝, 佐藤俊哉, 西基, 山本圭子. 神経芽細胞腫マスキリーニングの疫学評価 (その2): 必要とされた妥当性研究. 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):623.

生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):623.

細川美恵子, 今関節子, 李廷秀, 杉下知子, 野地有子, 岡谷恵子, 片野田耕太, 松村康弘, 藤田利治, 高木廣文, 林邦彦. Japan Nurses' Health Studyにおける看護職の日常生活と健康状態. 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):625.

濱野強, 竹島正, 藤田利治. 都道府県・指定都市別の精神保健医療福祉施策の評価手法に関する研究. 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):775.

佐藤俊哉, 森島恒雄, 藤田利治, 林邦彦, 埜中征哉, 横田俊平, 関口久紀, 松井研一. インフルエンザ脳炎・脳症のケース・コントロール研究. 第10回日本薬剤疫学会学術総会；2004年11月；福岡. 第10回日本薬剤疫学会学術総会抄録集. p.S46.

土井由利子, 箕輪眞澄, 内山真, 大川匡子. 日本人一般成人における眠剤使用に関する疫学研究. 第14回日本疫学会学術総会；2004.1.22-23；山形. *Journal of Epidemiology* 2004; 14(1 Suppl): 95.

土井由利子. 疫学研究から見える睡眠. 日本睡眠学会第29回定期学術集会シンポジウム Genderと睡眠；2004.7.2；東京. 加藤章子, 土井由利子. 海外派遣邦人の職業性ストレス. 第63回日本公衆衛生学会総会, 2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):748.

谷畑健生, 青山旬, 尾崎米厚, 川南勝彦, 箕輪眞澄. 都道府県別に観るたばこ対策実施状況の評価方法の開発. 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):194.

橘とも子, 谷畑健生, 市川誠一, 阿保満, 杉下由行, 前田秀雄, 山口剛. 感染不安後「推奨受検時期以前の自発的 HIV受検」に関する要因の検討 東京都南新宿検査・相談室の抗体陰性受診者における分析, 2000-2002年. 第18回日本エイズ学会学術集会・総会；2004.12.9-11；静岡. 日本エイズ学会誌 2004;6(4):508.

杉江拓也, 宮崎元伸, 畝博: 男性事務職員における飲酒アルコールの種類の高尿酸血症への影響に関する研究. 第63回日本公衆衛生学会総会 2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):897.

松田智大, 坂田清美, 眞崎直子, 平良セツ子, 箕輪眞澄. パーキンソン病患者のADLの経年変化がQOLに及ぼす影響についての解析. 第14回日本疫学会学術総会；2004.1.22-23；山形. *Journal of Epidemiology* 2004; 14(1 Suppl): 73.

松田智大, 永井正規, 新城正紀, 三徳和子, 箕輪眞澄. 大規模コホートにおいてパーキンソン病患者のQOLに関わる要因の検証. 第14回日本疫学会学術総会；2004.1.22-23；山形. *Journal of Epidemiology* 2004; 14(1 Suppl): 84.

松田智大, 野口真貴子. 欧州における公衆衛生学教育について. 第63回日本公衆衛生学会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):194.

松田智大, 野口真貴子. 精神障害児童におけるコンピュータ利用自己回答式質問票によるQOL測定を試み. 第63回日本公衆衛生学会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):631.

松田智大. Evidence-based healthcare と国際保健協力; リサーチとフィールドをつなぐには. 第19回日本国際保健医療学会; 2004年10月; 東京. 第19回日本国際保健医療学会抄録集. 2004.

松田智大, 眞崎直子, 坂田清美, 新城正紀, 永井正規, 杉江拓也, 箕輪眞澄. 神経難病患者において包括的QOLが治療や保健福祉サービスに対する満足度と与える影響の考察. 第5回日本OOL学会; 2004年9月; 東京. QOL Journal 2004; 5(2): 14.

山本慶子, 山室照子, 平田満恵, 竹下俊朗, 伊藤テルヨ, 吉村皓子, 山本裕子, 鬼木弥生, 香月倫之, 松本初子, 財津裕一, 尾形由起子, 上村直美, 篠原美智子, 平野彰一, 王丸才恵子, 久保山留美子, 宮本三代子, 綾部征子, 宇治光治, 眞崎直子, 松田智大, 箕輪眞澄. 特定疾患患者の地域ベース・コホート研究 — 脊髄小脳変性症のQOL —. 第51回福岡県公衆衛生学会; 2004年5月; 福岡. 第51回福岡県公衆衛生学会抄録集.

松田智大, 濱西島子, 陳曉莉, 箕輪眞澄, 鏡森定信. 疫学調査における主観的QOLに関する質問の「生活の質」という語の中学生の認識. 第30回日本保健医療社会学会; 2004年5月; 東京. 保健医療社会学論集; 15 特別号: 71.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

箕輪眞澄, 他. がん死亡危険度評価テーブルの作成. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「健康寿命およびADL, QOL低下に影響を与える要因の分析と健康寿命危険度評価テーブル作成に関する研究: NIPPON DATA80・90の19年間, 10年間の追跡調査より」(主任研究者: 上島弘嗣) 平成15年度研究報告書; 2004. p. 41-4.

箕輪眞澄, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「小中学校における喫煙防止教育教材の標準化と評価」(課題番号: H13-健康-027) 平成15年度報告書. 東京: 同研究班. 2004.

箕輪眞澄, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「小中学校における喫煙防止教育教材の標準化と評価」(課題番号: H13-健康-027) 平成13-15年度総合研究報告書. 東京: 同研究班. 2004.

箕輪眞澄, 松田智大, 他. 「特定疾患患者の地域ベース・コホート研究」進捗状況. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者: 稲葉裕) 平成15年度総括・分担研究報告書. 東京: 同研究班. 2004. p.71-3.

箕輪眞澄, 松田智大, 他. 追跡研究における特定疾患患者の公的保健福祉サービスの利用の考察. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者: 稲葉裕) 平成15年度総括・分担研究報告書. 東京: 同研究班. 2004. p.74-7.

松田智大, 箕輪眞澄, 他. 大規模コホートにおけるのパーキンソン病患者のQOLに関わる要因の検証. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者: 稲葉裕) 平成15年度総括・分担研究報告書. 東京: 同研究班. 2004. p.78-81.

松田智大, 箕輪眞澄, 他. パーキンソン病患者のADLの経年変化がQOLに及ぼす影響についての解析. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者: 稲葉裕) 平成15年度総括・分担研究報告書. 東京: 同研究班. 2004. p.82-4.

松田智大, 箕輪眞澄, 他. 全身性エリテマトーデスのQOL—臨床症状との関連. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者: 稲葉裕) 平成15年度総括・分担研究報告書. 東京: 同研究班. 2004. p.85-7.

松田智大, 箕輪眞澄, 他. 筋萎縮性側索硬化症患者の疫学調査—臨床調査個人票を利用した研究. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者: 稲葉裕) 平成15年度総括・分担研究報告書. 東京: 同研究班. 2004. p.89-92.

箕輪眞澄, 藤田利治, 他. カドミウム汚染地域住民における近位尿管障害の予後調査 (暫定的解析). 環境省委託研究事業「イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒等に関する総合研究」(班長: 箕輪眞澄) 平成15年度研究班総会資料; 2004.

藤田利治, 他. 精神病院での長期在院に関連する要因についての検討. 厚生労働科学研究費補助金障害保健総合研究事業「精神保健サービスの評価とモニタリングに関する研究」(主任研究者: 岩崎榮, 課題番号: H14-障害-008) 平成15年度総括・分担報告書; 2004. p.473-81.

藤田利治. 自殺死亡急増の地理的特徴. 厚生労働科学研究費補助金障害保健総合研究事業「精神保健サービスの評価とモニタリングに関する研究」(主任研究者: 岩崎榮, 課題番号: H14-障害-008) 平成15年度総括・分担報告書; 2004. p.483-92.

藤田利治, 他. 神経芽細胞腫マスキリーニング・プログラムも疫学評価: 全国乳児コホートを対象とした神経芽細胞腫死亡における受検・未受検の比較研究. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「マスキリーニングの効率的実施及び開発に関する研究」(主任研究者: 黒田泰弘, 課題番号: H13-子ども-006) 平成15年度報告書; 2004. p.122-30.

藤田利治, 他. 神経芽細胞腫マスキリーニング・プログラムも疫学評価: 神経芽細胞腫スクリーニング評価のための妥当性研究としてのケース・コントロール研究: 研究経過. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「マスキリーニングの効率的実施及び開発に関する研究」(主任研究者: 黒田泰弘, 課題番号: H13-子ども-006) 平成15年度報告書; 2004. p.131-6.

藤田利治, 他. 神経芽細胞腫マスキリーニング・プログラムも疫学評価: 神経芽細胞腫スクリーニング受検確認の妥当性研究. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

「マスククリーニングの効率的実施及び開発に関する研究」(主任研究者:黒田泰弘, 課題番号:H13-子ども-006)平成15年度報告書:2004, p.137-42.

藤田利治. 医薬品の安全性評価における欧米の最近の動向とデータベース構築の試み, 厚生労働科学研究費補助金医薬品等医療技術リスク評価研究事業「国際的動向を踏まえた医薬品等の新たな有効性および安全性の評価に関する研究」(主任研究者:上田慶二, 課題番号:H15-リスク-001)平成15年度総括研究報告書:2004, p.137-46.

藤田利治. 自殺死亡の全国的実態, 行政担当者のための自殺予防対策マニュアル(主任研究者:今田寛睦), 2004, p.131-41.

藤田利治. 解剖との関係からみた乳幼児突然死症候群および窒息での死亡率の年次推移の検討, 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「乳幼児突然死症候群の診断のためのガイドラインの作成およびその予防と発症率軽減のための研究」(主任研究者:坂上正道, 課題番号:H14-子ども-002)平成15年度研究報告書:2004, p.301-6.

藤田利治. 解剖割合が異なる地域間のSIDSと窒息死の比較と関連要因の検討, 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「乳幼児突然死症候群の診断のためのガイドラインの作成およびその予防と発症率軽減のための研究」(主任研究者:坂上正道, 課題番号:H14-子ども-002)平成15年度研究報告書:2004, p.307-11.

藤田利治. 医薬品の副作用自発報告によるシグナル検出の実用化に向けての検討, 厚生労働科学研究費補助金医薬品等医療技術リスク評価研究事業「医薬品, 医療機器等の安全性情報の提供・収集・解析方法及び企業による市販後安全管理のあり方に関する研究」(主任研究者:幸田幸直, 課題番号:H15-リスク-044)平成15年度総括研究報告書:2004.

藤田利治. 医薬品の適正使用のためのデータベース構築の試み, 厚生労働科学研究費補助金医薬品等医療技術リスク評価研究事業「医薬品, 医療機器等の安全性情報の提供・収集・解析方法及び企業による市販後安全管理のあり方に関する研究」(主任研究者:幸田幸直, 課題番号:H15-リスク-044)平成15年度総括研究報告書:2004.

土井由利子. 厚生労働省 精神・神経疾患治療研究委託費「睡眠障害の診断・治療ガイドライン研究を用いた臨床的実証研究」(主任研究者:内山真)平成15年度総括・分担報告書, 2004.

土井由利子. 厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「経口細菌感染症の広域的・散発的発生時の実地疫学的・調査手法等の開発に関する研究」(主任研究者:中村好一)平成15年度総括・分担研究書, 2004.

土井由利子. 厚生労働科学研究補助金健康科学総合研究事業「温泉利用健康増進施設が住民の生活の質と健康寿命の改善果たす役割に関する研究」(主任研究者:鏡森定信)平成15年度総括・分担報告書, 2004.

## Originals

Osaki Y, Mei J, Tanihata T, Minowa M. Cigarette brand preference of smokers among university students in Japan. *Preventive Medicine* 2004;38:338-42.

Tango T, Fujita T, Tanihata T, Minowa M, Doi Y, Kato N, Kunikane S, Uchiyama I, Tanaka M, Uehata T. Risk of adverse reproductive outcomes associated with proximity to municipal solid waste incinerators with high dioxin emission levels in Japan. *Journal of Epidemiology* 2004;14:83-93.

Ueshima H, Choudhury SR, Okayama A, Hayakawa T, Kita Y, Kadowaki T, Okamura T, Minowa M, Imura O, NIPPON DATA80 Research Group. Cigarette smoking as a risk factor for stroke death in Japan NIPPON DATA80. *Stroke* 2004;35:1836-41.

Takahashi S, Takeyama K, Kunishima Y, Shimizu T, Nishiyama N, Hotta H, Matsukawa M, Minowa M, Tanihata T, Kumamoto Y, Tsukamoto T. Incidence of sexually transmitted diseases in Hokkaido, Japan, 1998 to 2001. *Journal of Infect Chemother* 2004;10:163-7.

Ohida T, Osaki Y, Doi Y, Tanihata T, Minowa M, Suzuki K, Wada K, Suzuki K, Kaneita Y. An epidemiologic study of self-reported sleep problems among Japanese adolescents. *Sleep* 2004;27:978-85.

Soukejima S, Nakatani Y, Kario K, Kayaba K, Masumi M, Kagamimori S. Seismic intensity and risk of cerebrovascular

stroke: 1995 Hanshin-Awaji Earthquake. *Prehosp Disast Med* 2004;19(4):297-306.

Amagai Y, Ishikawa S, Gotoh T, Doi Y, Kayaba K, Nakamura Y, Kajii E. Sleep duration and mortality in Japan: the Jichi Medical School Cohort Study. *Journal of Epidemiology* 2004;14:124-128.

Bujan L, Daudin M, Matsuda T, Righi L, Thauvin L, Berges L, Izopet J, Berrebi A, Massip P, Pasquier C. Factors of intermittent HIV-1 excretion in semen and efficiency of sperm processing in obtaining spermatozoa without HIV-1 genomes. *Aids* 2004;18:757-66.

Huyghe E, Matsuda T, Daudin M, Chevreau C, Bachaud JM, Plante P, Bujan L, Thonneau P. Fertility after testicular cancer treatments: results of a large multicenter study. *Cancer* 2004;100:732-7.

Leke RJ, Goyaux N, Matsuda T, Thonneau PF. Ectopic pregnancy in Africa: a population-based study. *Obstet Gynecol* 2004;103:692-7.

Matsuda T, Marche H, Grosclaude P, Clement S. Participation behavior of bladder cancer survivors in a medical follow-up survey on quality of life in France. *Eur J Epidemiol* 2004;19:313-21.

Thonneau P, Matsuda T, Goyaux N, Djanhan Y, Yace-Soumah F, Wellfens C. Determinants of maternal deaths in induced abortion complications in Ivory Coast.

Contraception 2004;70:319-26.

Thonneau PF, Leke R, Goyaux N, Matsuda T. Incidence de la grossesse extra-utérine en Afrique: Resultats d'une Etude en population generale menee a Yaounde, Cameroun. Revue d'Epidemiologie et de Sante Publique 2004;52:134.

Thonneau PF, Matsuda T, Alihonou E, De Souza J, Faye O, Moreau JC, Djanhan Y, Wellfens-Ekra C, Goyaux N. Distribution of causes of maternal mortality during delivery and post-partum: results of an African multicentre hospital-based study. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 2004;114:150-4.

### Proceedings with abstracts

Hayashi K, Fujita T, Katanoda K, Sobue T, Sato T, Nishi M, Yamamoto K: Effectiveness of mass-screening program on neuroblastoma mortality in 1995-2000 birth cohort of Japan: Nationwide Neuroblastoma Mortality Study. 11th Conference of Advances in Neuroblastoma Research; 2004 June; Genova, Italy. Advances in Neuroblastoma Research. p.93.

Fujita T. Current Japanese Situations (1): Extremely Long-stay of Psychiatric Inpatients in Japan from a Viewpoint of Health Statistics. XVIII World Congress of World Association for Social Psychiatry; 2004 Oct; Kobe, Japan. p.106.

Fujita T. Rapid Increases of Suicide Deaths in Metropolitan Areas in Japan. XVIII World Congress of World Association for Social Psychiatry; 2004 Oct; Kobe, Japan. p.277.

Ito H, Takeshima T, Fujita T, Hamano T. Monitoring Regional Mental Health Services in Japan. XVIII World Congress of World Association for Social Psychiatry; 2004 Oct; Kobe, Japan. p.107.

Hamano T, Takeshima T, Fujita T, Ito H. Monitoring and Evaluating Mental Health Services in Japan. XVIII World Congress of World Association for Social Psychiatry; 2004 Oct; Kobe, Japan. p.299.

Nishijo M, Nakagawa H, Minowa M, Fujita T, Kuriwaki J, Teranishi H, Kobayashi E, Nogawa K. Life prognosis of renal tubular dysfunction in residents of an endemic area of Itai-Itai Disease in Japan: Tentative analysis. International symposium of trace element research in human ; 2004 Nov ; Bangkok, Thailand.

Katanoda K, Matsumura Y, Takagi H, Lee JS, Fujita T, Hayashi K. Social and behavioral characteristics of aspirin user: Japan Nurses' Health Study. 20th International

Conference on Pharmacoepidemiology, Bordeaux, France. Pharmacoepidemiology and Drug Safety Suppl. 1: S167-8, 2004.

Fujimaki S, Fujita T, Suzuki S, Mizunuma H, Aso T, Walker A, Hayashi K. Sleeping pill use and users' characteristics: Japan Nurses' Health Study. 20th International Conference on Pharmacoepidemiology, Bordeaux, France. Pharmacoepidemiology and Drug Safety Suppl. 1: S172, 2004.

Fujimaki S, Kodama T, Fujita T, Suzuki S, Mizunuma H, Aso T, Reich M, Walker A, Hayashi K. Low-dose oral contraceptive use and users' characteristics: Unapproved use for endometriosis?: Japan nurses' health study. 20th International Conference on Pharmacoepidemiology, Bordeaux, France. Pharmacoepidemiology and Drug Safety 2004; Suppl. 1: S220.

Doi Y, Kato S, Tsutsui S, Makino M. Job stress among Japan Overseas Cooperation volunteers. The 8th International Congress of Behavioral Medicine; August 26, 2004; Mainz, Germany.

Doi Y. Poor sleep quality including insomnia and its impact in an occupational setting. In: Symposium on insomnia and affective disorders. The 24th Collegium Internationale Neuropsychopharmacologicum; June 22, 2004; Paris, France.

Doi Y. Epidemiology of sleep disorders in the Japanese adult population. In: Symposium on epidemiology of sleep disorders. The 4th Congress of Asian Sleep Research Society; March 2, 2004; Zhuhai, China.

Matsuda T, Sugie T, Shinjo M, Mitoku K, Nagai M. Generic QOL profile of patients with severe Parkinson's Disease in a large scale cohort. 11th Annual Conference of the International Society for Quality of Life Research; 2004 Oct.; Hong Kong, China. Quality of Life Research.

Matsuda T, Sugie T, Sakata K, Masaki N, Minowa M. Influence of the QOL status on the satisfaction for treatments and health services in the patients with chronic neural diseases. 11th Annual Conference of the International Society for Quality of Life Research; 2004 Oct.; Hong Kong, China. Quality of Life Research.

Matsuda T, Kato N. Evolution du nombre des grossesses multiples au Japon - Relation avec le progrès de la procréation médicalement assistée (PMA) et la loi. Journée s Scientifiques Francophone 2004 フランス語による科学シンポジウム; 2004 11月; 東京. Journée s Scientifiques Francophone 2004 フランス語による科学シンポジウム抄録集.

**公衆衛生看護部**  
Department of Public Health Nursing

**学術雑誌に発表した原著論文**

鳩野洋子. 要介護状態リスク尺度の開発. 日本地域看護学会誌 2004;7(1):29-34.

堤ちはる, 高野陽, 福島富士子. 母子保健計画の「食生活・栄養」に関する分野の分析. 日本子ども家庭総合研究所紀要 2004;40(3):95-115.

鳩野洋子, 岡本玲子, 関戸好子. 要介護状態の危険性が高い高齢者にみられる日常生活一尺度開発にむけた項目の収集一. 神大保健紀要 2004;20:1-10.

**学術雑誌に発表した総説**

平野かよ子. 質的情報の有効性を示した斬新な一冊(ヘルスプロモーションの有効性に関するエビデンス). 保健師ジャーナル 2004;60(5):508.

平野かよ子. 保健師必携 こう書けばわかる 保健師記録. 医学界新聞 2004.8.23

平野かよ子. これからの地域保健福祉対における保健所と市町村の役割—保健師の活動に焦点を当て—. 地域保健 2004;67:132-140.

平野かよ子. 健康日本21の具体的な展開に向けて—どんな花を咲かせ得るか—. 保健師ジャーナル 2004;60(9):938.

山田和子. すべての母子保健活動に児童虐待の視点を—保健機能に虐待防止にどうかすか—. 生活教育 2004;(2):41-46.

山田和子. 書評「子ども虐待問題 Q & A」. 保健師ジャーナル 2004;60(5):614.

長谷部史乃, 九島久美子, 鳩野洋子, 渡部純子. 介護支援専門員の訪問 看護サービスの活用の実態と課題. 保健師ジャーナル 2004;60(5):50-56.

真栄城睦子, 鳩野洋子. 北部圏域における障害児の地域療育体制づくり. 沖縄の小児保健 2004 ; 31 : 47-50.

鳩野洋子, 岩室紳也. ヘルスプロモーションを語る. 地域保健 2004;35(10):52-61.

奥田博子. 保健師の大学院教育. 公衆衛生 2004;68(4):281-283.

中板育美. 「こころの健康問題」相談機関の上手な使い方. 健康な暮らしは, 心のケアから 2004;67. 中板育美. 「座談会」地域で虐待を予防するには. 公衆衛生 2004;69(1):39-45.

中板育美. 企画調整部門における保健師の役割. 保健師ジャーナル 2004;60(10):982-986.

**著書**

平野かよ子. 地域診断. 平野かよ子, 編. 地域特性に応じた保健活動—地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み—. 横浜: ライフ・サイエンス・センター; 2004. p.19-

28.

平野かよ子. 保健(公衆衛生)活動方法論. 平野かよ子, 編. 地域特性に応じた保健活動—地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み—. 横浜: ライフ・サイエンス・センター; 2004. p.138-149.

平野かよ子. 公衆衛生看護の定義の試み. 平野かよ子, 編. 地域特性に応じた保健活動—地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み—. 横浜: ライフ・サイエンス・センター; 2004. p.149-150.

平野かよ子. 健康上のニーズを持つ家族の理解 健康生活と看護. 基礎看護学講座3 臨床看護総論. 東京: 医学書院; 2004. p.20-28.

平野かよ子. 健康生活と看護. 基礎看護学講座3 臨床看護総論. 東京: 医学書院; 2004. p.60-72.

平野かよ子. 組織・集団: セルフヘルプグループ. 平野かよ子, 編. 社会・生活論. 大阪: メディカ出版; 2004. p.104-105.

平野かよ子. 個人. 平野かよ子, 編. 社会・生活論. 大阪: メディカ出版; 2004. p.132-139.

平野かよ子. 地域看護管理. 平野かよ子, 編. 最新保健学講座2 地域診断と保健福祉対策. 地域看護学総論. 東京: メヂカルフレンド; 2004. p.107-148.

平野かよ子. 地域ケアシステムづくり. 平野かよ子, 編. 最新保健学講座2 地域診断と保健福祉対策. 地域看護学総論. 東京: メヂカルフレンド; 2004. p.149-164.

山田和子. 活動・事業の評価. 地域特性に応じた保健活動—地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み—. 横浜: ライフ・サイエンス・センター; 2004. p.103-111.

山田和子. 保健活動のスキル. 地域特性に応じた保健活動—地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み—. 横浜: ライフ・サイエンス・センター; 2004. p.151-162.

山田和子. 子ども虐待のネットワークづくり例. 地域特性に応じた保健活動—地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み—. 横浜: ライフ・サイエンス・センター; 2004. p.68-71.

福島富士子. 金川克子, 編. 最新保健学講座4 ライフステージの特性と保健活動. 地域看護活動論. 東京: メヂカルフレンド社; 2004. p.48-64.

福島富士子. 体を育てる—妊娠育児, 自然な出産, 母乳と人工乳. 坂井建雄, 五十嵐隆, 丸井英二, 編集. からだの百科事典. 東京: 朝倉書店; 2004. p.486-487, 492-493.

中板育美. MCG. 子ども・家族への支援・治療をするために. 児童虐待防止対策支援・治療研究会, 編. 東京: 日本児童福祉協会; 2004. p.269-275.



### 抄録のある学会報告

平野かよ子. 健康日本21の生活習慣病におけるアルコール関連問題. 第26回アルコール関連問題学会; 2004.7; 名古屋. 第26回アルコール関連問題学会プログラム; 2004. p.26.

鳩野洋子, 岩本里織, 岡本玲子. 大規模自治体における介護予防が必要な対象の把握システムに関する調査. 第7回日本地域看護学会学術集會; 2004.6; 吹田市. 第7回日本地域看護学会学術集會プログラム; 2004. p.122.

中山貴美子, 岡本玲子, 鳩野洋子. 行政保健師活動の変革に影響した研究者の活動—アクションリサーチ展開事例より—. 日本看護教育学会第14回学術集會; 2004.7; 山形. 日本看護教育学会第14回学術集會プログラム; 2004. p.265.

岡本玲子, 中山貴美子, 鳩野洋子. 研究者の活動が行政保健師活動に及ぼした変化—アクションリサーチ展開事例より—. 日本看護教育学会第14回学術集會; 2004.7; 山形市. 日本看護教育学会第14回学術集會プログラム; 2004. p.266.

舛田有紀, 眞崎直子, 鳩野洋子. 保健活動事業評価表を用いての—考察(おとととでころばん教室). 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):293.

安藤実里, 渡辺志保, 鳩野洋子. 生活習慣病予防対策事業における自己評価ツール作成の試み 第一報. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):356.

渡辺志保, 岩永俊博, 鳩野洋子. 生活習慣病予防対策事業における自己評価ツール作成の試み 第二報. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):356.

福島富士子, 藤内修二, 笹井康典. 市町村母子保健計画書の数量的分析による計画書改訂の評価. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):595.

尾島俊之, 福島富士子, 藤内修二. 地域における健やか親子21の推進に関する研究 良い計画書のための策定方法. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):596.

福島富士子. 地域における健やか親子21の推進に関する研究 母子保健計画書の見直し状況. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):595.

谷合真紀, 福島富士子. 地域における妊娠から産褥期の母親支援に関する検討. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録): 61.0.

渡辺幸子, 熊坂伴子, 原田美江子, 福島富士子. 思春期精神保健相談に関する実態と課題—保健所の専門医相談を利用した事例から—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):610.

堤ちはる, 三橋扶佐子, 福島富士子. 母子保健計画の「食生活・栄養」に関する分野の分析. 第63回日本公衆衛生学会

総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):551.

三砂ちづる, 嶋根卓也, 野口真紀子, 福島富士子. 主体的な出産経験と産科処置の関連について. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):618.

三砂ちづる, 嶋根卓也, 野口真紀子, 福島富士子. 変革につながるような出産経験の決定因子—出産ケアについて. 日本疫学会. 2004

奥田博子, 松田宣子. 保健師による児童虐待ケースへの支援のためのアセスメントの視点と介入の判断. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):561.

松田宣子, 奥田博子. 子ども虐待への保健師の支援に関する研究. 第51回日本小児保健学会; 2004.10.28-30; 盛岡. 第51回日本小児保健学会講演集. 2004.

中板育美. 地域保健における児童虐待対策の推進についての一考察—保健師の意識調査から—. 第9回聖路加看護学会学術大会; 2004.9; 東京. 第9回聖路加看護学会学術大会プログラム.

長野みさ子, 石田東生, 中板育美; 児童虐待予防策における保健所の役割. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):562.

藤原千秋, 田熊恵子, 中板育美; 子どもの虐待予防活動の展開第10報—5年間の活動のまとめ—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):568.

野山修, 藤原千秋, 中板育美; 子どもの虐待予防活動の展開第11報—スクリーニングで用いる虐待要因の点数化—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):568.

白井弓子, 藤原千秋, 中板育美; 地域での薬物依存症と家族の相談に向けた薬物相談ツールの開発. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):761.

中板育美, 渡辺好恵, 大場エミ. 効果的な虐待予防活動に関する研究—全国保健師長会による調査より—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):567.

中板育美. 児童虐待予防活動における保健師の自己評価と課題. 第10回日本子どもの虐待防止研究大会学術大会; 2004.12; 福岡. 第10回日本子どもの虐待防止研究大会学術大会プログラム. p.68.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

平野かよ子. 公衆衛生活動の展開に求められる基礎的技術に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「保健福祉従事者に対する国及び地方自治体での教育研修のあり方に関する研究」(主任研究者: 岩永俊博. 課題番号 H15- がん予防-07). 平成 15 年度研究報告書. 2004.

平野かよ子, 総括研究者. 地域における自殺防止対策と自殺防止支援に関する研究. 平成 15 年度報告書. 2004.

平野かよ子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金施策科学推進研究事業「地域保健活動の政策評価に関する研究」. 平成 15 年度研究報告書. 2004.

田代順子, 平野かよ子, 他. 国際看護専門看護師養成プログラムの開発研究. 国際医療協力研究委託事業「開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」(主任研究者: 田代順子). 平成 15 年度研究報告書. 2004.

平野かよ子, 山田和子, 鳩野洋子, 奥田博子, 栗田仁子, 藤田利治. 地域における自殺予防対策推進のためのガイドライン. 2004.3. p.1-125.

平野かよ子, 山田和子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子. 評価指標の標準化に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金施策科学推進研究事業「地域保健活動の政策評価に関する研究」(主任研究者: 栗原美喜, 平野かよ子). 平成 14・15 年度総合研究報告書. 2004.3. p.63-103.

平野かよ子, 山田和子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子, 中板育美. 地域保健活動の政策評価に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金施策科学推進研究事業「地域保健活動の政策評価に関する研究」(主任研究者: 平野かよ子). 平成 15 年度総合研究報告書. 2004. p.1-70.

鳩野洋子, 主任研究者. 厚生労働科学長寿科学研究事業「要介護状態予防が必要な対象把握に対する研究」. 平成 15 年度報告書. 2004.

岡本玲子, 中山貴美子, 鳩野洋子, 島田美喜, 関戸好子. 科学研究費補助金「アクションリサーチによる介護保険適用外ニーズへの保健師実践モデルの開発」(研究代表者: 岡本玲子). 平成 14 年～15 年度基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書. 2004.

岩永俊博, 鳩野洋子, 武村真治, 渡辺志保, 杉浦裕子. 国での保健福祉専門家研修への派遣元からの期待 2. 現場で地域保健に関わる専門家に対する調査から. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「保健福祉従事者に

対する国および地方自治体での教育研修のあり方に関する研究」(主任研究者: 岩永俊博). 平成 15 年度報告書. 2004.

福島富士子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「市町村母子保健計画書の数量的分析による計画書改訂の評価」. 平成 15 年度研究報告書. 2004.3.

福島富士子. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究」. 平成 15 年度研究報告書. 2004.3.

藤内修二, 岩室紳也, 福島富士子. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「市町村母子保健計画の見直しと推進に関する研究」. (主任研究者: 藤内修二). 平成 15 年度研究報告書. 2004.3.

三砂ちづる, 福島富士子, 小林秀資. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究」(主任研究者: 三砂ちづる). 平成 15 年度報告書. 2004.3

櫃本真幸, 澤田敬, 山崎嘉久, 堀内勁, 福島富士子. 虐待予防へ分娩機関からの発信. ヘルスプロモーションに基づいた, 医療, 福祉の連携等地域資源の有効活用による子育て不安解消に関する研究. 平成 15 年総合研究報告書(主任研究者: 櫃本真幸). 2004.3.

松田宣子, 奥田博子. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「保健師による母子保健活動における児童虐待リスクアセスメントツールの開発」(主任研究者: 松田宣子). 平成 15 年度報告書. 2004.3.

平野かよ子, 他編集. 保健師のためのビデオシリーズ⑤ 副読本 地域での仕組みづくりー保健師による地域ケアシステムの構築ー. 社団法人国民健康保険中央会: 2004.

### 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

平野かよ子, 他監修. 保健師のためのビデオシリーズ⑤ 地域での仕組みづくりー保健師による地域ケアシステムの構築ー. 社団法人国民健康保険中央会: 2004. <ビデオ>

### Originals

Okamoto R, Hatono Y, Nakayama K. Characteristics of elderly persons requiring preventive care and related factors. Bulletin of Health Sciences Kobe 2004;20:21-27.

### Proceedings with Abstracts

Tashito J, Hirano K. Design of educational programs for international nursing collaborators in Japan: Evidence-based curricula. International Nursing Research Conference, Japan Academy of Nursing Science; 2004; Japan, Fukushima.

Okamoto R, Shiomi M, Nakayama K, Hatono Y, Sekito Y. Actions of researchers for upgrading PHN's practices through mutual cooperation in Japan(1). American Public Health Association 132nd Annual Meeting and Exposition ; Nov 2004 ; Washington DC.

Shiomi M, Okamoto R, Nakayama K, Hatono Y, Sekito Y. Actions of researchers for upgrading PHN' s practices through mutual cooperation in Japan(2). American Public Health Association 132nd annual Meeting and Exposition ; Nov 2004 ; Washington DC.

## 生涯保健部

## Department of Health Promotion and Research

## 学術雑誌に発表した原著論文

田中哲郎. 小児科病医院の最新動向 (1) 小児の入院医療費から見た今後の小児医療の展望. 月刊MMRC(Medical service management with Reliable Consultants) 2004.04;15(4):2-7.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎, 山田至康. 小児救急診療支援ネットワークシステムのニーズに関する検討. 日本小児救急医学会雑誌 2004.06;3(1):126-129.

市川光太郎, 山田至康, 田中哲郎. 小児初期救急医療研修生受け入れ施設の全国調査. 日本小児救急医学会雑誌 2004.06;3(1):130-133.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子. 保護者の望む小児救急医療体制. チャイルドヘルス 2004.09;7(9):715-718.

田中哲郎, 市川光太郎, 山田至康. 新臨床研修制度と小児救急医療の充実—研修の現状と小児医療関係者の考え—. 小児科臨床 2004.11;57(11):2345-2355.

田中哲郎, 内山有子, 石井博子, 須藤紀子. わが国の小児の保健医療水準—先進国との死亡率の比較より—. 日本醫事新報 2004.12;4208:2832.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎, 山田至康. 小児医療の採算性と今後の小児科運営—臨床研修病院長への調査より—. 日本小児救急医学会雑誌 2004.12;3(2):印刷中.

小林正子, 遠藤幸子, 高野陽. 南北5地域保育所児童における身長・体重の時系列解析による季節変動の検討. 小児保健研究 2004;63:535-543.

須藤紀子, 佐藤加代子, 林謙治. 朝食提供校における中学・高校生の朝食摂取状況と午前中の自覚症状との関連. 思春期学 2004;22(1):157-166.

三浦直子, 杉原茂孝, 村田光範, 佐藤加代子, 梶本雅俊, 鈴木久乃, 君羅満, 石井莊子, 坂本元子. 新しい幼児の性, 年齢, 身長別, 標準体重に基づく栄養所要量の検討—全国16保育所に於ける食事調査結果との検討—. 小児保健研究 2004;63(4):371-388.

## 学術誌に発表した総説

田中哲郎. 子どもの事故防止対策. 小児科 2004.06;45(7):1329-1336.

田中哲郎. 急患センターにおける小児救急の現状. 治療 2004.08;86(8):2243-2247.

長村敏生, 田中哲郎. 小児の急患. 総合臨床 2004.11;53(11):2921-2927.

内山有子, 田中哲郎. 学校における事故. 保健医療科学 2004.11;53(2):90-96.

田中哲郎. 小児救急医療の現状. クリニカルプラクティス 2004.12;23(12):1228-1232.

小林正子. 思春期の身体発達. 思春期学 2004;22(2):205-

209.

小林正子. 子どもの発育. 小児保健研究 2004;63(増刊):152-154.

小林正子. 3歳以降の子どもの発育と母子健康手帳の活用. 子どもと発育発達 2004;6:412-413.

佐藤加代子. 国立保健医療科学院の教育研修について. 栄養学雑誌 2004;61(2):129-131.

## 著書

田中哲郎. 小児救急医療の現状と展望. 東京:診断と治療社;2004.01.

田中哲郎. 保育園における事故防止と危機管理マニュアル. 東京:日本小児医事出版社;2004.06.

田中哲郎. IT技術を用いた小児救急医療支援システム. 東京:株式会社まほろば;2004.09.

小林正子. 第13章 学校保健. 田中平三, 辻一郎, 吉池信男, 大賀英史, 編. 社会・環境と健康. 東京:南江堂;2004. p.267-275.

小林正子. 学校保健. 高野陽, 柳川洋, 加藤忠明, 編. 母子保健マニュアル 第5版. 東京:南山堂;2004. p.79-85.

小林正子. 思春期保健. 高野陽, 柳川洋編, 加藤忠明, 編. 母子保健マニュアル第5版. 東京:南山堂;2004. p.87-93.

小林正子. 発育・発達1. 日本学校保健学会, 編. 日本学校保健学会50年史. 東京:美巧社;2004. p.199-200.

小林正子. 母子保健. 柳川洋, 萱場一則, 編. 公衆衛生学. 東京:中外医学社;2004. p.95-111.

佐藤加代子. 乳・幼児期の栄養教育. 武見ゆかり, 丸山千寿子, 足立淑子, 編. 栄養教育論. 東京:南江堂;2004. (印刷中).

須藤紀子. 諸外国の栄養状況と施策. 八倉巻和子, 編著. Nブックス公衆栄養学. 東京:建邦社;2004. p.207-217.

須藤紀子. 栄養教育の国際的動向. 八倉巻和子, 編著. 栄養教育・指導 実験・実習. 東京:光生館;2004. p.133-138, 143-146.

須藤紀子. 栄養教育の国際的動向. 岸田典子, 菅淑江, 編. ウエルネス栄養教育・栄養指導論. 東京:医歯薬出版;2004. p.364-2.

## 抄録のある学会報告

石井博子, 内山有子, 田中哲郎, 市川光太郎, 山田至康. 小児救急診療支援ネットワークシステムのニーズに関する検討. 第18回日本小児救急医学会;2004.6.18-19;金沢.

内山有子, 石井博子, 田中哲郎. 小児の外来医療費の現状と推移. 第18回日本小児救急医学会;2004.6.18-19;金沢.

内山有子, 石井博子, 田中哲郎. 小児の入院医療費の現状と推移. 第18回日本小児救急医学会;2004.6.18-19;金沢.

石井博子, 内山有子, 田中哲郎. 地域子育て支援センターにおける事故防止啓発指導の可能性. 第51回日本小児保健学会; 2004.10.28-30; 盛岡.

内山有子, 石井博子, 田中哲郎, 亀井美登里, 市川光太郎, 梅田勝. 子どもの事故とその防止の可能性. 第51回日本小児保健学会; 2004.10.28-30; 盛岡.

市川光太郎, 山田至康, 田中哲郎. 小児救急医療におけるTV電話による遠隔支援体制の検討. 第51回日本小児保健学会; 2004.10.28-30; 盛岡.

小林正子. 地域別にみた幼児の身長・体重の季節変動. 第2回日本発育発達学会; 2004.3; 豊田. 同学会講演集. p.44.

星井道代, 武田文, 小林正子. 高校生の健康手帳に関する意識(第1報). 第13回日本健康教育学会; 2004.6; 栃木. 同学会講演集. p.166-167.

小林正子, 高石昌弘. 母子健康手帳のさらなる活用に関する研究第2報—母子健康手帳に記載する育児情報の検討—. 第51回日本小児保健学会; 2004.10.28-30; 盛岡. 同学会講演集. p.584-585.

小林正子. 地理的違いに着目した小児の身長・体重の季節変動. 第69回民族衛生学会; 2004.11.11-12; 東京. 民族衛生 2004;70(付録):66-67.

小林正子, 高石昌弘, 三木とみ子, 衛藤隆, 他. 母子健康手帳および学校健康手帳の役割と活用に関する研究—子どもの思春期まで使える母子健康手帳に記載する飲酒・喫煙・薬物等について—. 第51回日本学校保健学会; 2004.11.12-14; 新潟. 同学会講演集. p.186-187.

小林正子, 向井田紀子, 山口類. 生後24ヶ月までの体重の日内変動, 周内変動, AR過程の波動形成に関する研究. 第15回AUXOLOGY研究会; 2004.11; 仙台. 同研究会抄録集. p.10.

岩坂麻以, 佐藤加代子, 須藤紀子. 幼児の食に関する養育者の意識について. 第51回日本栄養改善学会学術総会; 2004.10.20-22; 金沢. 栄養学雑誌 2004;62(5付):406.

須藤紀子, 佐藤加代子. 妊娠中の飲酒に関する研究. 第51回日本栄養改善学会学術総会; 2004.10.20-22; 金沢. 栄養学雑誌 2004;62(5付):443.

加藤華奈子, 須藤紀子, 佐藤加代子. 保育所児の間食が食事に及ぼす影響について. 第51回日本栄養改善学会学術総会; 2004.10.20-22; 金沢. 栄養学雑誌 2004;62(5付):447.

石川紀子, 佐藤加代子, 蓮見美代子, 田中寛, 岡部司, 竹下生子. 低出生体重児の育児不安軽減に向けた栄養指導のあり方を考える(第2報)—母親への調査結果から—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):593.

蓮見美代子, 佐藤加代子, 石川紀子, 田中寛, 岡部司, 竹下生子. 低出生体重児の育児不安軽減に向けた栄養指導のあり方を考える(第3報)—検診時の栄養指導—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):594.

須藤紀子, 佐藤加代子, 渡辺志保, 杉浦裕子, 曾根智史,

岩永俊博. 保健福祉従事者に対する国レベルでの教育研修のあり方に関する研究—派遣元調査—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):465.

武村真治, 須藤紀子, 兵井伸行, 曾根智史, 林謙治. 全国の保健所・市町村における地域保健行政のパフォーマンスの実態調査. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):385.

曾根智史, 須藤紀子, 武村真治, 兵井伸行, 林謙治. 米国における公衆衛生行政官のリーダーシップ養成. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):391.

須藤紀子, 関山牧子, Makhn Maharjan, 大塚柳太郎. ポーションサイズと食物摂取頻度からみたネパール低地農村部における栄養素等摂取量の性差に関する検討. 第69回日本民族衛生学会総会; 2004.11.11-12; 東京. 民族衛生 2004;70(付録):76-77.

### その他学術報告(研究調査報告書含む)

田中哲郎, 亀井美登里, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎, 安藤昭和, 梅田勝. 子どもの事故発生とその防止の可能性. 厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎. 課題番号: H13-子ども-025) 平成15年度報告書. 2004. p.227-235.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 小幡正子. 子どもの性格と事故との関連についての検討. 厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎. 課題番号: H13-子ども-025) 平成15年度報告書. 2004. p.236-246.

田中哲郎, 石井博子, 佐原康之. 地域子育て支援センターにおける事故防止啓発指導の可能性についての検討. 厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎. 課題番号: H13-子ども-025) 平成15年度報告書. 2004. p.247-255.

田中哲郎, 石井博子, 市川光太郎, 安藤昭和. 郵送用事故防止パンフレットについての保護者の考え方. 厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎. 課題番号: H13-子ども-025) 平成15年度報告書. 2004. p.261-263.

田中哲郎. 市町村における事故防止活動を推進するためのインターネットによる教材提供サイトの開設. 厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」(主任研究者: 田中哲郎. 課題番号: H13-子ども-025) 平成15年度報告書. 2004. p.264-324.

田中哲郎, 市川光太郎, 山田至康. ITを用いた遠隔診療技術による小児救急支援ネットワークシステムの現在までの研究総括. 厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業「21世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究

者：田中哲郎. 課題番号：H14-医療-010) 平成 15 年度報告書. 2004. p.5-17.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎, 山田至康. 小児救急診療支援ネットワークシステムのニーズに関する検討. 厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業「21 世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者：田中哲郎. 課題番号：H14-医療-010) 平成 15 年度報告書. 2004. p.18-23.

市川光太郎, 田中哲郎, 山田至康, 菅野好史, 戸叶正義. IT 機器を用いた小児救急医療遠隔支援体制のモデル実験. 厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業「21 世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者：田中哲郎. 課題番号：H14-医療-010) 平成 15 年度報告書. 2004. p.24-28.

田中哲郎, 石井博子, 市川光太郎, 大田千晴, 山田至康. 小児救急支援ネットワークシステムにおける保護者への病氣・看護法の情報発信に関する研究. 厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業「21 世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者：田中哲郎. 課題番号：H14-医療-010) 平成 15 年度報告書. 2004. p.29-49.

市川光太郎, 田中哲郎, 山田至康. IT 技術を用いた小児救急支援システムに関する調査—IT 支援受け手施設としての施設アンケート調査—. 厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業「21 世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者：田中哲郎. 課題番号：H14-医療-010) 平成 15 年度報告書. 2004. p.50-62.

市川光太郎, 田中哲郎, 山田至康. 小児初期救急医療研修生受入れ施設の検討. 厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業「21 世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者：田中哲郎. 課題番号：H14-医療-010) 平成 15 年度報告書. 2004. p.63-70.

山田至康, 田中哲郎, 市川光太郎. 小児救急医療情報システムの現況調査. 厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業「21 世紀における小児救急医療のあり方に関する研究」(主任研究者：田中哲郎. 課題番号：H14-医療-010) 平成 15 年度報告書. 2004. p.71-79.

小林正子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究」(課題番号：H14-子ども-003) 平成 15 年度総括報告書. 2004. p.327-331.

小林正子. 母子健康手帳のさらなる活用に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究」(主任研究者：小林正子. 課題番号 H14-子ども-003) 平成 15 年度分担報告書. 2004. p.342-378.

佐藤加代子, 蓮見美代子, 石川紀子, 田中寛, 竹下生子, 岡部司. 育児不安軽減にむけた低出生体重児の栄養指導に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「育児不安の軽減に向けた低出生体重児の栄養のあり方に関する研究」(主任研究者：板橋家頭夫) 平成 15 年度報告書. 2004. p.59-78.

須藤紀子, 佐藤加代子. 妊娠中の飲酒に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「思春期における暴力行為の原因究明と対策に関する研究」(主任研究者：林謙治. 課題番号：H13-こころ-010) 平成 15 年度分担研究報告書. 2004.

岩永俊博, 須藤紀子, 佐藤加代子, 渡辺志保, 杉浦裕子. 国での保健医療福祉専門家研修への派遣元からの期待 1. 各都道府県の研修派遣担当者に対する調査から. 厚生科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「保健福祉従事者に対する国及び地方自治体での教育研修のあり方に関する研究」(主任研究者：岩永俊博) 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.8-19.

須藤紀子. 第 14 回食文化研究助成「ネパール農村部における食事評価法の開発と栄養素摂取に影響する文化的要因の検討」成果報告書. 2004.

須藤紀子. 地域保健行政従事者に必要な能力・技術の構造の分析. 厚生科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」(主任研究者：林謙治) 平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.199-278.

## Originals

Sudo N, Sekiyama M, Watanabe C, Bokul MH, Ohtsuka R. Gender differences in food and energy intake among adult villagers in northwestern Bangladesh: A food frequency questionnaire survey. *Int J Food Sci Nutr* 2004; 55(6): 499-509.

Watanabe C, Kawata A, Sudo N, Sekiyama M, Inaoka T, Bae M, Ohtsuka R. Water intake in an Asian population living in arsenic-contaminated area. *Toxicol Appl Pharmacol* 2004; 198: 272-282.

Ohtsuka R, Sudo N, Sekiyama M, Watanabe C, Inaoka T, Kadono T. Gender difference in daily time and space use among Bangladeshi villagers under arsenic hazard: Application of the compact spot-check method. *J Biosoc Sci*

2004; 36: 317-332.

## Proceedings with abstracts

Ishii H, Ichikawa K, Kobayashi I, Tanaka T, Uchiyama Y. Injury prevention program in early childhood education in Japan. 7th World Conference on Injury Prevention and Safety Promotion; June 2004; Vienna, Austria. Abstracts. p.335.

Tanaka T, Ishii H, Kamei M, Oosaka F, Uchiyama Y, Yamada Y. Analysis of current injury surveillance system in Japan. 7th World Conference on Injury Prevention and Safety Promotion; June 2004; Vienna, Austria. Abstracts. p.784-785.

Uchiyama Y, Ikemi Y, Ishii H, Matsuda H, Tanaka T,

Umeda M. Emotional support system for bereaving families resulting from childhood injury related deaths at the prefecture level in Japan. 7th World Conference on Injury Prevention and Safety Promotion; June 2004; Vienna, Austria. Abstracts. p.810.

Kobayashi M, Mukaida N, Yamaguchi R. Diurnal and weekly variations and autoregressive process of bodyweight in two babies during the first 24 months. 10th International Congress of Auxology; July 2004; Firenze, Italy. Proceedings. p.152.

Kobayashi Masako, Kobayashi Maiko. Time-series analysis of adolescent growth in twins. 10th International Congress of Auxology; July 2004; Firenze, Italy. Proceedings. p.126-127.

Murakami K, Higuti M, Karashima M, Ohkubo T, Suzuki M, Sato K, Kikuchi K. Study on potential relationship of eating attitude to cooking experience of small children in Yokohama, Japan. XIVth International Congress of Dietetics; May 28-31 2004; Navy Pier, Chicago, USA.

Hyoi N, Takemura S, Sudo N, Sone T, Hayashi K. Functions of overseas public health facilities and their administration in contrast to Japanese public health centers. 第19回日本国際保健医療学会; 2004.10.9-10; 東京. 国際保健医療増刊号 2004;2004:242.

Sudo N, Sato K. The risk of alcohol consumption during pregnancy on children: a systematic review. The 3rd Asia Pacific Conference on Evidence-Based Medicine; November 26-28 2004; Hong Kong. Programme & Abstracts. 2004. p.54.

## 福祉サービス部

### Department of Health and Social Services

#### 学術雑誌に発表した原著論文

筒井孝子, 東野定律. 痴呆性高齢者の在宅介護の特徴からみた要介護認定のあり方に関する研究. Health Sciences(日本健康科学学会) 2004;20(1):70-81.

筒井孝子. 介護保険制度下の介護サービス評価に関する変化—痴呆性高齢者に提供された介護サービスと経年的変化—, 厚生指標 2004;51(1):1-6.

東野定律, 桐野匡史, 種子田綾, 矢嶋祐樹, 筒井孝子, 中嶋和夫. 要介護高齢者の家族員における介護負担感の測定. 厚生指標 2004;51(4):18-23.

筒井孝子, 東野定律, 筒井澄栄. 地域福祉権利擁護事業における「専門員」の属性及び地域における他機関との連携の実態—「専門員」の全国調査結果から—, 東京保健科学学会誌 2004;7(3):175-84.

森川美絵. 医療の中の介護労働—寝たきり老人対策としての「付添」の制度化と問題化を手掛かりに—, 福祉社会学研究 2004;(1):209-28.

森川美絵. 「ケア・ワークの評価」論の視座—欧米における研究の検討—. 人文学報 2004;(350):65-103.

#### 学術誌に発表した総説

筒井孝子. 看護必要度評価は適正人員配置にどのように活用できるか. 看護部長通信, 日総研 2004.8.3;2(3):13-25.

筒井孝子. 「ハイケアユニット入院医療管理料」で看護が変わるか. 看護展望 2004.12;29(13):17-24.

#### 著書

筒井孝子. 高齢社会のケアサイエンス 老いと介護のセイフティネット. 東京:中央法規;2004.

森川美絵. 高齢者介護政策における家族介護の金銭評価と代替性. 大沢真理, 編. 福祉国家とジェンダー. 東京:明石書店;2004. p.131-58.

#### 抄録のある学会発表

筒井孝子, 東野定律. 不整合時系列データからの変化の抽出—介護サービスの心身状態に与える影響の分析—. 日本品質管理学会第74回研究発表会;2004.5.29;東京. 同研究発表要旨集. 2004. p.109.

栗田仁子. 基本健康診査結果と介護保険認定結果から捉える介護予防対象群の特性に関する調査—茨城県におけるモデル事業をとおして—. 第9回聖路加看護学会;2004.9;東京. 同講演集. 2004. p.38.

筒井孝子. 急性期入院医療における医療および看護の集中度を基礎とした患者分類方法に関する研究. 平成15年度医療技術評価総合研究事業研究報告会;2004.10.10;東京. 2004. p.43-9.

筒井孝子, 東野定律. 要介護認定の変動傾向と介護保険サービスの利用に関する研究. 日本社会福祉学会第52回全国大会;2004.10.10;東京. 同要旨集. 2004. p.409-10.

東野定律, 栗田仁子, 筒井孝子. 市町村における保健師の業務実態および連携能力に関する全国調査結果(1). 第63回日本公衆衛生学会総会;2004.10.27-29;松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):453.

筒井孝子, 東野定律, 栗田仁子. 市町村における保健師の業務実態および連携能力に関する全国調査結果(2). 第63回日本公衆衛生学会総会;2004.10.27-29;松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):453.

栗田仁子, 東野定律, 筒井孝子. 市町村における保健師の業務実態および連携能力に関する全国調査結果(3). 第63回日本公衆衛生学会総会;2004.10.27-29;松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):454.

矢嶋裕樹, 桐野匡史, 筒井孝子, 中嶋和夫, 吉良尚平. 痴呆性高齢者を介護する家族の介護ストレスに対する在宅介護支援サービスの効果. 第63回日本公衆衛生学会総会;2004.10.27-29;松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附

録):712.

原野悟, 井深英治, 兼坂佳孝, 鈴木健修, 矢木佑子, 筒井孝子, 他. 豆乳飲料の高コレステロール血症改善作用についての無作用化比較対照試験. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):863.

鈴木健修, 矢木佑子, 兼坂佳孝, 横山英世, 三宅健夫, 筒井孝子, 他. 病院勤務看護婦の精神的健康度, 夜勤, 睡眠障害と医療事故(ミス)の関連. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):895.

筒井孝子, 東野定律. 要介護認定調査結果から得られる高齢者類型と介護保険サービス利用の関係. 日本品質管理学会第34回年次大会; 2004.10.30; 東京.

東野定律, 筒井孝子. 急性期入院医療における看護サービスの評価指標の開発に関する研究—特定集中治療室, ハイケア病棟, 一般急性期病棟の入室患者の処置および状態の比較—. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.5; 熊本. 同演題抄録集. 2004. p.167.

筒井孝子, 東野定律. 急性期入院医療における看護サービスの評価指標の開発に関する研究(2)—ハイケア病棟における患者評価指標の開発—. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.5; 熊本. 同演題抄録集. 2004. p.166.

### その他学術報告(研究調査報告書含む)

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「介護報酬改定が地域における介護サービス

の質に与える影響に関する統計的研究」平成15年度研究報告書. 2004.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術総合研究事業「急性期入院医療における医療および看護の集中度を基礎とした患者分類方法に関する研究」平成15年度研究報告書. 2004.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「地域保健サービスの担当職員における連携評価指標開発に関する統計的研究」平成15年度研究報告書. 2004.

筒井孝子, 主任研究者. 老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「(1)介護保険制度の推進・定着のための支援事業Ⅱケアプランの適正性について心身の状況からの検証事業③介護サービスによる要介護状態の変化の検証に関する調査研究—要介護認定を受けた高齢者のSOMによるタイプ分けと介護サービスと心身状態改善の分析—」平成15年度研究報告書. 2004.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生省保健局医療課による委託事業「看護必要度導入に関する調査研究」平成15年度報告書. 2004.

筒井孝子, 西村和雄, 小山秀夫, 池田省三, 浦坂純子, 柴尾慶次, 他. 「大津市介護保険サービスの質の向上に関する研究事業」平成15年度研究報告書. 2004.

筒井孝子, 主任研究官. 文部科学省厚生科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「介護内定推定システムを用いた介護サービス計画の効果に関する研究」平成15年度研究報告書. 2004.

### Originals

Tsutsui T, Higashino S. Definition of "abuse" and future issues related to elder abuse research in Japan. The Journal of Tokyo Academy of Health Sciences 2004;6(4):298-306.

Suzuki K, Ohida T, Kaneita Y, Yokoyama E, Miyake T, Tsutsui T, et al. Mental health status, shift work, and occupational accidents among hospital nurses in Japan. J Occup Health 2004;46:448-454.

Higashino S, Tsutsui T, Kirino M, Yajima Y, Kim Y, Nakajima K. Development of the family caregiver burden inventory (FCBI). International Journal of Welfare for the Aged 2004;9:3-14.

### Book

Tsutsui T. What & How, is our Japanese LTC insurance system working? Coming up with novel design of LTC Insurance and Care-Needs Certification Program-. Tokyo: Iryobunka.Ltd; 2004.

Tsutsui T. Healthcare symposium 2004. Background to

the development of the long-term care needs certification system in Japan, and Issues for the Future. Korea: Kyobo Ltd; 2004. p.69-94.

### Proceedings with Abstracts

Tsutsui T. Symposium "Japan's new public long-term care insurance system", symposist "Development of the Long-term Care Needs Certification System in Japan, and Issues for the Future". Healthcare Symposium; May 20 2004; Korea. Healthcare Symposium 2004. p.277-294.

Tsutsui T, Higashino S. Factor structure of the zarit caregiver burden interview. 57th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America; 2004 Nov 19-23; Washington. The Gerontologist 2004; 42 Special issue: 388.

Higashino S, Tsutsui T. Development of the family caregiver burden inventory (FCBI). 57th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America; Nov 19-23 2004; Washington. The Gerontologist 2004; 42 Special issue: 389.

## 口腔保健部 Department of Oral Health

### 学術雑誌に発表した原著論文

高田将成, 佐藤勉, 泉福英信, 花田信弘, 自立高齢者と要介護高齢者の口腔微生物叢の比較. 口腔衛生学会雑誌 2004; 54(3):178-187.

葭原明弘, 清田義和, 片山照二郎, 花田信弘, 宮崎秀夫. 地域在住高齢者の食欲と QOL との関連. 口腔衛生学会雑誌 2004; 54(3):241-247.

相田潤, 安藤雄一, 青山旬, 丹後俊郎, 森田学, 経験的ベイズ推定値を用いた市町村別 3 歳児う蝕有病者率の地域比較および歯科保健水準との関連. 口腔衛生学会雑誌 2004; 54(5):566-576.

谷畑健生, 尾崎米厚, 青山旬, 川南勝彦, 黒沢洋一, 箕輪眞澄. 全国保健所におけるたばこ対策実施状況調査の結果と分析. 平成 13 年調査 (第 1 報) —たばこ対策の実施状況, 喫煙実態調査の実施状況, 保健所職員の喫煙状況および保健所長の喫煙状況とたばこ対策の実施状況の関連—, 厚生 の 指標. 2004;51(6):31-37.

谷畑健生, 尾崎米厚, 青山旬, 川南勝彦, 箕輪眞澄. 全市町村におけるたばこ対策実施状況. 厚生 の 指標. 2004;51(10):27-33.

### 学術誌に発表した総説

花田信弘. 歯周病における Prognosis と内科的アプローチの必要性, 特集・歯周病の検査とメンテナンス. 歯科医療 2004;18(3):5-9.

大山篤, 安藤雄一. 「地域歯科保健データバンク」活用マニュアル. 歯界展望 2004;103:387-392.

安藤雄一. あすの臨床に役立つ保健医療情報 受診・受療行動 歯科医院を訪れる人の特徴は? 歯科衛生士 2004;28:84-86.

安藤雄一. あすの臨床に役立つ保健医療情報 歯科疾患は多いか 様々な角度から眺めてみよう. 歯科衛生士 2004;28:80-82.

安藤雄一. あすの臨床に役立つ保健医療情報 歯の喪失を示す指標 その数値が示していることは. 歯科衛生士 2004;28:92-94.

安藤雄一. あすの臨床に役立つ保健医療情報 フッ化物利用わが国の普及状況は? 歯科衛生士 2004;28:78-80.

安藤雄一. あすの臨床に役立つ保健医療情報 地域歯科保健データバンク 3 歳児のう蝕データを例に. 歯科衛生士 2004;28:78-80.

安藤雄一. あすの臨床に役立つ保健医療情報 地域診断 地域のデータに目を向けてみよう. 歯科衛生士 2004;28:82-84.

安藤雄一. フッ化物応用のエビデンス. 小児歯科臨床

2004;9(11):12-21.

青山旬, 谷畑健生. 首都圏における人口増加について考える. 公衆衛生情報. 2004;34(5):中綴じ 1-3.

青山旬. 平成 13 年地域保健・老人保健事業報告. デンタルハイジーン. 2004;24(1):50-51.

青山旬. 衛生行政報告例にみる歯科衛生士の就業場所の推移. デンタルハイジーン. 2004;24(2):146-147.

青山旬. 歯科衛生士が増加を示す市区町村での勤務状況について. デンタルハイジーン. 2004;24(3):242-243.

青山旬, 花田信弘. 医師・歯科医師・薬剤師調査から都道府県の歯科医療に従事する歯科医師数をみる. デンタルハイジーン. 2004;24(4):341-342.

青山旬, 花田信弘. 医師・歯科医師・薬剤師調査から歯科医師数の推移をみる. デンタルハイジーン. 2004;24(5):445-446.

青山旬. 医療施設調査 (静態) にみる歯科診療所および勤務歯科医師・歯科衛生士の状況. デンタルハイジーン. 2004;4(6):542-543.

青山旬. 医療施設調査 (静態) にみる歯科診療所を含む施設数の増減. デンタルハイジーン. 2004;24(7):652-653.

青山旬. 医療施設調査にみる歯科診療所の診療台数の違いについて. デンタルハイジーン. 2004;24(8):762-763

青山旬, 花田信弘. 平成 14 年患者調査より一患者調査で表される数値が持つ意味について・その 1 —. デンタルハイジーン. 2004;24(9):864-865.

青山旬, 花田信弘. 平成 14 年患者調査より一患者調査で表される数値が持つ意味について・その 2 —. デンタルハイジーン. 2004;24(10):972-973.

青山旬, 花田信弘. 保健所における歯科専門職の配置状況 —平成 14 年度地域保健・老人保健事業報告より—. デンタルハイジーン. 2004;24(11): 1070-1071.

青山旬, 花田信弘. 市町村における歯周疾患検診の実施状況 —平成 14 年度地域保健・老人保健事業報告より—. デンタルハイジーン. 2004;24(12):1172-1174.

箕輪眞澄, 青山旬. 受動喫煙にともなう健康リスク. からだの科学. 2004;通巻 237 号:56-61.

安藤雄一, 青山旬, 花田信弘. 歯科保健に関わる地域保健職種のネットワークづくり —国立保健医療科学院・口腔保健部における試みの紹介—. ヘルスサイエンス・ヘルスケア 2004;4:38-41.

### 著書

花田信弘, ほか共同執筆. 江藤一洋, 編. 歯の健康学, 岩波新書. 東京:岩波書店;2004.

花田信弘, ほか共同執筆. 長谷川絃司, 野口俊英, 花田信弘, 山田了, 真木吉信, 山崎洋治, 編. 歯周病と全身の健康を考え



る。東京：医歯薬出版；2004.

花田信弘. 口腔・歯、臨床栄養学. 東京：光生館；2004.

花田信弘, ほか共同執筆. 歯医者さんと患者さんの思いをつなぐ本. 東京：ヒョーロンパブリッシャーズ；2004.

武内博朗, 安部井寿人, 泉福英信, 花田信弘. う蝕の微生物学的リスク低減治療. 稲葉大輔, 柘植紳平, 松井みどり, 日野浦光, 守友靖子, 小松久憲, 武内博朗, 阿部井寿人, 泉福英信, 花田信弘, 寺中敏夫, 著. 初期う蝕のマネジメント. 東京：クインテッセンス出版；2004.

安藤雄一. 歯科保健行動. 独立行政法人国立健康・栄養研究所監修. 田中平三, 辻一郎, 吉池信男, 大賀英史, 編. 健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康. 東京：南江堂；2004. p.151-154.

安藤雄一. 歯科疾患. 独立行政法人国立健康・栄養研究所監修. 田中平三, 辻一郎, 吉池信男, 大賀英史, 編. 健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康. 東京：南江堂；2004. p.185-187.

青山句, 分担執筆. 第2編, 第3編歯科保健, 第4編医療. 大井田隆, 編. 図説国民衛生の動向2004. 東京：厚生統計協会；2004.

青山句, 分担執筆. 第2部 第3章 2 初任者, 指導者調査【2】 歯科医師, 【5】 歯科衛生士, 【6】 その他の職種. 地域保健従事者の資質向上に関する検討会・地域保健従事者資質向上検討会のための調査研究委員会編. 地域保健を支える人材の育成—実態調査と事例からみた将来像—. 東京：中央法規；2004. p.139-144,173-198.

### 抄録のある学会発表

花田信弘. 21世紀のデンタルテクノロジー, 歯科検査システムの確立. 日本歯科医学会平成16年度学術講演会；2004年9月；仙台. (基調講演)

花田信弘. 誤嚥性肺炎の細菌学的メカニズム. 第10回日本摂食嚥下リハビリテーション学会；2004年9月；新潟. (教育講演)

野村義明, 北田加代美, 田中とも子, 西川原総生, 佐藤勉, 鶴本明久, 花田信弘. 唾液による歯周疾患のスクリーニング. 第53回口腔衛生学会総会；2004. 9.17-19；盛岡. p.328.

高田靖, 野村義明, 西川原総生, 玉置洋, 花田信弘. 東京都豊島区における3年間にわたる歯周疾患検診事業報告第一報かかりつけ歯科医院の役割について. 第53回口腔衛生学会総会；2004. 9.17-19；盛岡. p.387.

武内博朗, 早川浩生, 奥田健太郎, 野村義明, 泉福英信, 花田信弘. 3DSと化学療法の併用による歯周病関連菌の除菌. 第53回口腔衛生学会総会；2004. 9.17-19；盛岡. p.438.

*Porphyromonas gingivalis* によるバイオフィルムの光学的手法を用いた臨床検出法の検討. 第53回口腔衛生学会総会；2004. 9.17-19；盛岡. p.439.

井上一彦, 今井奨, 武内博朗, 岸光男, 野村義明, 平尾幸憲, 花田信弘. 歯科医院の衛生環境に関する研究, 第一報 現状の歯科医院の衛生環境について. 第53回口腔衛生学会総

会；2004. 9.17-19；盛岡. p.407.

金子昇, 葭原明弘, 花田信弘, 宮崎秀夫. ミュータンスレンサ球菌分離株のグルカン合性能とう蝕との関連. 第53回口腔衛生学会総会；2004. 9.17-19；盛岡. p.442.

新井貴子, 林田亜美子, 星桂芳, 苗代明, 今井奨, 花田信弘, 鴨井久一. 呼吸と歯周病スコアおよび歯周病原性細菌との相関性. 第53回口腔衛生学会総会；2004. 9.17-19；盛岡. p.458.

新井貴子, 林田亜美子, 星佳芳, 今井奨, 花田信弘, 鴨井久一. 各種におい検出装置を用いた口臭の日内変動に関する検討. 第20回日本歯科医学会総会；2004.10.29-31；横浜.

安藤雄一. 地域歯科保健従事者を対象とした遠隔教育 国立保健医療科学院における取り組み. 第23回日本歯科医学教育学会；2004年7月；新潟. 第23回日本歯科医学教育学会総会・学術大会抄録集. p.63.

相田潤, 安藤雄一, 青山句, 丹後俊郎, 森田学. 経験的 Bayes 推定値を用いた市町村別3歳児う蝕有病者率の地域比較および歯科保健水準との関連. 第53回口腔衛生学会総会；2004.9.17-19；盛岡. p.361.

安藤雄一, 深井穂博, 青山句, 尾崎哲則, 宮武光吉. 歯科診療所における予防処置および専門的口腔ケアの実施状況に関する全国実態調査. 第53回口腔衛生学会総会；2004.9.17-19；盛岡. p.368.

尾崎哲則, 市川裕美子, 青山句, 軽部裕代, 福田雅臣, 安井利一, 末高武彦, 宮武光吉. 歯周疾患健診市町村実施率の都道府県比較における試み. 第53回口腔衛生学会総会；2004.9.17-19；盛岡. p.384.

青山句, 軽部裕代, 福田雅臣, 市川裕美子, 尾崎哲則, 安井利一, 末高武彦, 宮武光吉. 第2子以降出生割合と都道府県3歳児う蝕状況との関連について. 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):428.

谷畑健生, 青山句, 川南勝彦, 尾崎米厚. 都道府県別に観るたばこ対策実施状況の評価方法の開発. 第63回日本公衆衛生学会総会；2004.10.27-29；松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):194.

渡辺猛, 安藤雄一, 金崎信夫, 埴岡隆. 高齢者の現在歯数と歯科医療費の関連 市町村別データによる検討. 第53回口腔衛生学会総会；2004.9.17-19；盛岡. 口腔衛生会誌 2004;54(4):493.

瀧口徹, 深井穂博, 安藤雄一, 杉原直樹, 大原里子, 高柳篤史, 吉野浩一, 石川清子. 歯医学研究における各種統計分布の出現頻度およびモデル解析法の使用状況の年代変遷. 第53回口腔衛生学会総会；2004.9.17-19；盛岡. 口腔衛生会誌 2004;54(4):492.

高澤みどり, 金子直美, 長野高志, 安藤雄一, 深井穂博. 一地域の歯科医師を対象としたフッ化物応用の実態と望ましい応用形態等に関する調査. 第53回口腔衛生学会総会；2004.9.17-19；盛岡. 口腔衛生会誌 2004;54(4):421.

深井穂博, 安藤雄一, 瀧口徹, 高江洲義矩. 日常の診療にお

ける歯科医師と患者とのコミュニケーション. 第53回口腔衛生学会総会;2004.9.17-19;盛岡. 口腔衛生会誌 2004;54(4):366.

安藤雄一, 相田潤, 青山旬. 健康日本21「歯の健康」の指標等に関する全国データベース構築の試み. 第63回日本公衆衛生学会総会;2004.10.27-29;松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):785.

安藤雄一. 8020運動とエビデンス. 第63回日本公衆衛生学会総会;2004.10.27-29;松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):93. (シンポジウム4 8020運動と全身の健康)

### その他学術報告(研究調査報告書含む)

花田信弘, 今井奨, 米田早織. がん患者の口腔細菌の検出と分析. 厚生労働省がん研究助成金「がん治療による口腔内合併症の実態調査及びその予防法の確立に関する研究」(主任研究者:大田洋二郎.) 平成15年度報告書. 2004.

花田信弘, 今井奨. ミュータンスレンサ球菌に及ぼす乳成分の抗菌効果について. 平成15年度委託研究報告書. 2004.

花田信弘, 今井奨. ビール関連素材の口腔保健機能に関する研究. 平成15年度委託研究報告書. 2004.

花田信弘, 今井奨. 乳酸菌のバイオフィルム形成阻害作用および口臭抑制作用に関する研究. 平成15年度委託研究報告書. 2004.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. ICSII(WHO 第2回国際共同研究)報告書の概要/口腔保健行動の国際比較. 日本歯科評論 2004; 63(12):174-180.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. ICSII(WHO 第2回国際共同研究)報告書の概要/口腔保健の多変量解析(歯周病). 日本歯科評論 2004; 64(11):182-186.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. ICSII(WHO 第2回国際共同研究)報告書の概要/口腔保健の多変量解析(喪失歯). 日本歯科評論 2004; 64(10):182-186.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. ICSII(WHO 第2回国際共同研究)報告書の概要/口腔保健の多変量解析(う蝕). 日本歯科評論 2004; 64(9):178-184.

花田信弘, 森本基, 宮武光吉. ICSII(WHO 第2回国際共同研究)報告書の概要/社会グループ別の口腔保健状況(その2). 日本歯科評論 2004; 64(8):178-182.

安藤雄一. 歯科疾患実態調査における必要客体数に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「歯科の疫学調査におけるう蝕・歯周疾患の診断基準並びに客体数に関する研究」(主任研究者:中垣晴男. H15-医療-067).

平成15年度報告書. 2004. p.34-47.

安藤雄一. 歯科疾患実態調査における質問紙調査のあり方. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「歯科の疫学調査におけるう蝕・歯周疾患の診断基準並びに客体数に関する研究」(主任研究者:中垣晴男. H15-医療-067). 平成15年度報告書. 2004. p.51-62.

安藤雄一. 海外における歯科疾患・歯科保健に関する全国調査の動向とわが国における現状の比較と将来展望. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「歯科の疫学調査におけるう蝕・歯周疾患の診断基準並びに客体数に関する研究」(主任研究者:中垣晴男. H15-医療-067). 平成15年度報告書. 2004. p.66-74.

安藤雄一, 鶴本明久, 花田信弘. Project 3 フッ化物応用の保健政策(Health Policy)に関する研究. 厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「歯科疾患の予防技術・治療評価に関するフッ化物応用の総合的研究」(主任研究者:高江洲義矩. H12-医療-003). 平成15年度研究報告書. 2004. p.36-41.

宮武光吉, 安藤雄一, 青山旬, 尾崎哲則, 深井穂博. 健康日本21関連 歯科医療施設調査報告書, 8020推進財団報告書. 2004.

青山旬. 目標評価のための調査項目の検討. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康日本21・歯の健康における健康指標の開発とその評価に関する研究」(主任研究者:宮武光吉. H13-健康-007). 平成15年度研究報告書. 2004. p.19-68.

三砂ちづる, 青山旬, 野口眞貴子. 厚生統計研究「厚生統計分野におけるジェンダー統計の今後の方向性」(主任研究者:三砂ちづる). 平成15年度研究報告書. 2004. p.1-19

青山旬. たばこ対策実施状況を都道府県に評価する方法の開発. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「都道府県, 市町村の健康日本21地方計画および保健所におけるたばこ対策実施状況とその評価」(主任研究者:谷畑健生). 平成15年度厚生科学研究補助金健康科学総合研究事業研究報告書. 2004. p.94-100.

宮武光吉, 安藤雄一, 青山旬, 尾崎哲則, 深井穂博. 健康日本21関連歯科医療施設調査報告書. 2004. p.1-80

### 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

青山旬. 図説国民衛生の動向2004 CD-ROM版. 東京:厚生統計協会;2004.

streptococci from oral cavities. Journal of Oral science 2004;46:179-183.

Kamasaka H, Inaba D, Minami K, Kenji T, Nishimura T, Kuriki T, Hanada N, Yonemitsu M. Application of phosphoryl oligosaccharides of calcium (Pos-Ca) for oral Health. J Appl Glycoscience 2004;51:129-134.

Morita E, Narikiyo M, Nishimura E, Yano A, Tanabe C, Sasaki H, Hanada N. Molecular analysis of age-related

### Originals

Tamaki Y, Nomura Y, Teraoka K, Nishikahara F, Motegi M, Tsurumoto A, Hanada N. Characteristic and willingness of patients to pay for regular dental check-up in Japan. J Oral Science 2004;46:127-133.

Nomura Y, Takeuchi H, Kaneko N, Matin, K, Iguchi R, Toyoshima Y, Kono Y, Ikemi T, Imai S, Nisizawa T, Fukushima K, Hanada N. Feasibility of eradication of mutans

changes of *Streptococcus anginosus* group and *Streptococcus mitis* in saliva. *Oral Microbiol Immunol* 2004;19: 1—4.

Nomura Y, Tsuge S, Hayashi M, Sasaki M, Yamauchi T, Ueda N, Hanada N. A survey on the risk factors for the prevalence of dental caries among preschool children in Japan. *Pediatric Dental Journal* 2004;14:79-85.

Nomura Y, Tsurumoto A, Nishigawara F, Motegi M, Hanada N, Kumagai T. Controlling cariogenic bacteria by the regular check-up system. *Pediatric Dental Journal* 2004;14:95-101.

Tsuha Y, Hanada N, Asano T, Abei T, Yamaguchi S, Salam MA, Nakao R, Takeuchi H, Kurosaki N, Senpuku H. Role of peptide antigen for induction of inhibitory antibodies to *Streptococcus mutans* in human oral cavity. *Clin Exp Immunol* 2004;137:393-401.

Yano A, Takekoshi M. Transgenic plant-derived pharmaceuticals -the practical approach? *Expert Opin Biol Ther.* 2004;4:1565-8.

Yano A, Maedda F, Takekoshi M. Transgenic tobacco cells producing the human monoclonal antibody to hepatitis virus surface antigen. *J Med Virol* 2004;73:208-15.

Yoshihara A, Seida Y, Hanada N, Miyazaki H. A longitudinal study of the relationship between periodontal disease and bone mineral density in community-dwelling older adults. *J Clin Periodontol* 2004;31:680-4.

Tada A, Hanada N. Sexual differences in oral health behaviour and factors associated with oral health behaviour in Japanese young adults. *Public Health* 2004;118:104-9.

Abdus Salam M, Matsumoto N, Matin K, Tsuha Y, Nakao R, Hanada N, Senpuku H. Establishment of an animal model using recombinant NOD.B10.D2 mice to study initial adhesion of oral streptococci. *Clin Diagn Lab Immunol* 2004;11:379-86.

Senpuku H, Tada A, Yamaga T, Hanada N, Miyazaki H. Relationship between volatile sulphide compounds concentration and oral bacteria species detection in the elderly. *Int Dent J* 2004;54:149-53.

### Proceedings with abstracts

Hanada N. A new method to eliminate *Streptococcus mutans* from oral cavity. 82nd International Association for Dental Research; March 11 2004; Honolulu, USA. (故古賀敏比古九大教授追悼 IADR シンポジウム講演) p.104.

Matin K, Imai S, Takeuchi H, Uruguchi M, Hanada N, Tagami J. Bipfilm adherence to implant materials formed in an artificial mouth. 82nd International Association for Dental Research; March 11 2004; Honolulu, USA. p.66.

Arai T, Hayashida A, Hoshi K, Nawashiro A, Kishi M, Imai S, Hanada N, Kamoi K. Relationship between oral malodor and clinical states of periodontal disease. 82nd International Association for Dental Research; March 11 2004; Honolulu, USA. p.94.

Arakawa T, Ishizaki T, Hayman R, Hanada N, Senpuku H. Reduction of oral mutans streptococci by small-crystal hydroxyapatite. 82nd International Association for Dental Research; March 11 2004; Honolulu, USA. p.130.

Hayashida A, Hoshi K, Sato Y, Ito J, Arai T, Imai S, Hanada N, Uematsu H. 82nd International Association for Dental Research; March 11 2004; Honolulu, USA. p.159.

Usui Y, Imai S, Hanada N, Uematsu H. 82nd International Association for Dental Research; March 11 2004; Honolulu, USA. p.179.

Hayashida A, Hoshi K, Sato Y, Ito J, Arai T, Imai S, Hanada N, Uematsu H. Comparison of sampling bags used for measuring breath odor. 6th International Conference on Breath Odor; 2004 April 20-22; Royal College of Surgeons of England, UK. Program p.12.

Matsumoto N, Salam MA, Nomura Y, Amagasa T, Hanada N, Senpuku H. Establishment of mouse model for *S. mutans* recolonization on the tooth surface. p.176.

Matin K, Imai S, Hanada N, Tagami J. Biofilm formation on resin composites in an artificial mouth system. 52nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research; November 27-28 2004; Tokyo.

Usui Y, Hinoide M, Imai S, Hanada N, Uematsu H. The efficacy of Ag (NH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>F as an anti-caries agent on dentin in the artificial mouth model system. 52nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research; November 27-28 2004; Tokyo.

Hanada N. Prevention of dental caries by elimination of the mutans streptococci. 52nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research; November 27-28 2004; Tokyo. (Symposium)

Yano A, Miwa T, Onozuka A, Nisizawa T. The ingenious peptide design for vaccines and adjuvants. 4th World Congress on Vaccines and Immunisation; 2004 Sep 30-Oct 3; Tsukuba Science City/ Tokyo. p.59.

Ando Y. Patterns and factors affecting dental utilization among adults in Japan. 82nd IADR; 2004 Mar.; Honolulu, US. *Journal of Dental Research*

Maeda T, Kitasaki Y, Senpuku H, Hanada N, Uematsu H. Identification of mutans streptococci, lactobacilli in the lowest-pH caries dentin. 82nd International Association for Dental Research; March 11, 2004; Honolulu, USA. p.179.

**生活環境部**  
**Department of Environmental Health**

**学術雑誌に発表した原著論文**

福田篤志, 越田吉郎, 山口一郎, 富樫厚彦, 松原孝祐. Flat Panel Detector 搭載型心血管撮影装置における冠状動脈撮影時のインターベンショナル基準点空気カーマから入射皮膚線量への変換係数の推計. 日本放射線技術学会誌 2004; 60(5): 725-733

福田篤志, 越田吉郎, 山口一郎, 高橋昌章, 北林啓太郎, 松原孝祐, 能登公也, 川端千香子, 中川浩人. 511keV消滅放射線および99mTc ガンマ線に対する診断用X線防護衣および防護用鉛ガラス衝立の遮蔽能力評価. 日本放射線技術学会雑誌 2004; 60(12): 1723-1729

鈴木滋, 古井滋, 山口一郎, 岡崎正敏, 中村仁信, 坂本力, 石口恒男, 一色高明, 竹部英紀, 諸澄邦彦, 山岸正文, 山口和也, 松本邦博. Interventional radiology における術者の被曝 脳血管塞栓術, 経皮的冠動脈インターベンションおよび肝動注カテーテル留置における検討. Interventional Radiology 2004; 19(4): 377-382

杉山英男, 寺田宙, 平田明日美, 櫻井かさね, 宮田昌弘, 後藤成生. 諸外国産輸入食品中の放射能濃度 (2000年-2003年). Radioisotopes 2004;53:307-315.

渡辺征夫, 工藤雅子, 倉田泰人. 焼却炉排ガス中のクロロフェノール類の液体クロマトグラフィーによる連続測定, (2) 実炉での LC/EChD 測定値の GC/MS 法による検証. 環境化学 2004;14:633-41.

佐藤久美子, 藤巻照久, 岸美智子, 渡辺征夫. 高速液体クロマトグラフ/タンデム質量分析装置を用いた穀類のイミダゾール系除草剤の分析について. 神奈川県衛生研究所研究報告 2004;34:13-6.

高木敬彦, 木谷良平, 加藤行男, 光崎研一, 遠藤治, 峯木茂, 他. 粒径別に分級した土砂の変異原性. 環境化学 2004; 14:327-33.

遠藤治, 後藤純雄, 松本寛, 酒井茂克, 芥川智子, 麻野間正晴, 他. 大気浮遊粒子, 河川水および土砂の変異原性モニタリング 7年間 (1996~2003年) の結果. 環境変異原研究 2004;26:9-22.

**著書**

杉山英男, 他 (分担執筆). 衛生試験法注解 2005年版 放射性物質試験法. 日本薬学会編. 東京: 金原出版; 2004.

杉山英男, 他 (分担執筆). 食品衛生検査指針 理化学編 第7章放射能. 厚生労働省医薬食品局監修. 東京: 社団法人日本食品衛生協会; 2005.3

渡辺征夫. 地球規模の環境変動. 平野かよ子, 編. 社会と生活者の健康-社会・生活論 (ナーシング・グラフィカ 第7巻). 大阪: メディカ出版; 2004. p.34-43.

遠藤治. 大気汚染. 高島郁夫, 熊谷進, 編. 獣医公衆衛生学 第3版. 東京: 文永堂出版; 2004. p.392-98.

大久保千代次. 超低周波電磁界の健康リスク評価の動向. 上野照剛, 編. 生体と電磁界. 東京: 学会出版センター; 2004. p.295-321.

大久保千代次. 電磁界のリスクに関する対話の確立 (和訳). WHO 国際電磁界プロジェクト. ジュネーブ: WHO; 2004.

渡辺征夫. 大気試料の採取・前処理方法. 竹内均, 監修. 地球環境調査計測事典 第2巻 陸域編2. 東京: フジテクノシステム; 2004. p.939-49.

医療放射線管理測定マニュアル編集委員会. 医療放射線管理測定マニュアル. 東京: 医療放射線防護連絡協議会; 2004.

**抄録のある学会発表**

岡野英幸, 大久保千代次. ミリテスラレベルの静磁場が高血圧自然発症ラットに及ぼす影響. 日本生体磁気学会大会; 2004.5.30-31; 池田, 大阪. 日本生体磁気学会誌 2004;16号 特別号 (第18回論文集): 723.

本間恭二, 森田充彦, 志田卓, 牛山明, 大久保千代次, 安村和彦, 他. ビスホスホネート投与による腫瘍血管透過性への影響. 日本機械学会第15回バイオエンジニアリング学術講演会; 2004.1.21-22; 大阪.

森田充彦, 本間恭二, 志田卓, 牛山明, 大久保千代次, 安村和彦, 他. 腫瘍血管新生によって形成された微小血管の3次元形態解析. 日本機械学会第15回バイオエンジニアリング学術講演会; 2004.1.21-22; 大阪.

谷下一夫, 本間恭二, 竹松浩二, 安村和彦, 牛山明, 大久保千代次. 腫瘍血管の物質移動のバイオメカニクス. 第28回日本微小循環学会総会; 2004.2.13-14; 東京. (ワークショップ)

第28回日本微小循環学会総会プログラム抄録集. 2004. p.45.

廣田彰吾, 増田宏, 牛山明, 大久保千代次, 和氣加奈子, 渡辺聡一, 他. 電磁波慢性暴露の脳軟膜微小循環動態に及ぼす影響. 第28回日本微小循環学会総会; 2004.2.13-14; 東京. 第28回日本微小循環学会総会プログラム抄録集. 2004. p.64.

牛山明, 増田宏, 大久保千代次. 超低周波電磁界暴露による移植脳腫瘍の増殖および血管新生に及ぼす影響. 第28回日本微小循環学会総会; 2004.2.13-14; 東京. 第28回日本微小循環学会総会プログラム抄録集. 2004. p.75.

森田充彦, 本間恭二, 志田卓, 谷下一夫, 牛山明, 大久保千代次, 他. 腫瘍血管新生によって構築された微小血管の3次元形態解析. 第28回日本微小循環学会総会; 2004.2.13-14; 東京. 第28回日本微小循環学会総会プログラム抄録集. 2004. p.75.

牛山明, 増田宏, 大久保千代次. 商用周波電磁界暴露の脳腫瘍微小循環に及ぼす生体顕微鏡的影響評価. 電気学会マグ

ネティクス研究会;2004.1.27-28;弘前. 同論文集, 2004. p.27-30.

福田篤志, 安井清, 岩館美晴, 坂本康夫, 山口一郎, 富樫厚彦. Flat Panel Detector 搭載型血管造影装置に表示される線量計算値の不確かさの評価. 第59回日本放射線技術学会学術大会;2004.4.11-13;横浜. 同予稿集. 東京:日本放射線技術学会;2004. p.1467.

諸澄邦彦, 山口一郎, 小林育夫. アンギオ-CTにおける術者の被曝線量測定と評価. 日本保健物理学会第37回研究発表会;2004.6.16-17;千葉. 同講演要旨集. 千葉:日本保健物理学会;2004. p.31.

山口一郎, 緒方裕光. 皮下組織に残留した放射性同位元素による皮膚被曝線量のモンテカルロ法を用いた推計. 日本保健物理学会第37回研究発表会;2004.6.16-17;千葉. 同講演要旨集. 千葉:日本保健物理学会;2004. p.129.

山口一郎, 古井滋, 岡崎正敏, 中村仁信, 坂本力, 石口恒男, 竹部英紀, 諸澄邦彦. IVRにおける患者被曝その低減策の検討. 第15回関東IVR学会;2004.7.12;東京. 同抄録集. 東京:関東IVR研究会;2004. p.22.

山岸正文, 真田茂, 古井滋, 岡崎正敏, 中村仁信, 坂本力, 石口恒男, 竹部英紀, 諸澄邦彦, 山口一郎. IVR実施4施設における患者の被曝線量. 第60回日本放射線技術学会学術大会;2004.10.10-12;秋田. 同予稿集. 東京:日本放射線技術学会;2004. p.1044.

福田篤志, 北林啓太郎, 岩館美晴, 山口一郎, 越田吉郎. Flat Panel Detector 搭載型血管造影装置における冠状動脈造影用円形マスクの評価. 第60回日本放射線技術学会学術大会;2004.10.10-12;秋田. 同予稿集. 東京:日本放射線技術学会;2004. p.1085.

上田規靖, 諸澄邦彦, 山口一郎. モンテカルロ法を利用した皮膚表面線量計算プログラムの有用性の検証. 第60回日本放射線技術学会学術大会;2004.10.10-12;秋田. 同予稿集. 東京:日本放射線技術学会;2004. p.1085.

山口一郎. 放射線診療における患者の放射線曝露量の変動についての検討. 第62回日本公衆衛生学会総会;2004.10.22-24;京都. 日本公衆衛生雑誌 2004;50(10付):536.

諸澄邦彦, 山口一郎, 倉品祐二, 丹羽由輝代. 機能性色素を用いたIVRにおける患者被ばく線量の推定. 日本放射線安全管理学会第2回学術大会;2004.12.35;つくば. 同予稿集. つくば:日本放射線安全管理学会;2004. p.40.

山口一郎. 放射線治療における医療法による安全規制の課題. 第1回化学放射線治療科学研究会(平成15年度弥生会研究会);2004.12.15-16;東京. 同発表要旨集(UTNLR0432). 東京:東京大学大学院工学系研究科付属原子力工学研究施設;2004.

諸澄邦彦, 山口一郎, 倉品祐二, 丹羽由輝代. 機能性色素を用いたIVRにおける患者被ばく線量の推定. 日本放射線安全管理学会第2回学術大会;2004.12.35;つくば. 同大会予稿集. つくば:日本放射線安全管理学会;2004. p.40.

山口一郎. 放射線治療における医療法による安全規制の課

題. 第1回化学放射線治療科学研究会(平成15年度弥生会研究会);2004.12.15-16;東京. 同研究会発表要旨集(UTNLR-0432). 東京:東京大学大学院工学系研究科付属原子力工学研究施設;2004.

寺田宙, 緒方裕光, 杉山英男, 横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター, 神戸検疫所輸入食品・検疫検査センター. 国立保健医療科学院における食品中の放射能調査・評価. 第40回全国衛生化学技術協議会年会;2004.11.13-14;和歌山. 同講演集. 和歌山:第40回全国衛生化学技術協議会年会事務局;2004. p.80-1.

杉山英男, 福本敦, 桑原千雅子, 柴田尚, 寺田宙, 加藤文男. キノコのCs高濃縮性とアルカリおよびアルカリ土類元素の存在. 日本薬学会第123年会;2004.3.27-29;長崎. 同要旨集3. 東京:日本薬学会;2004. p.173.

山神真紀子, 大野隆史, 渡辺征夫. [湿式/乾式]測定機の入替えに伴う大気常時監視データの不連続性の要因解析. 第44回大気環境学会;2004.9.24-26;京都. 同要旨集. 2004. p.357.

渡辺征夫, 内山真由美, 工藤雅子, 小室藍子, 泉克幸. 都市大気中の含酸素有機化合物の連続測定法の開発. 第44回大気環境学会;2004.9.24-26;京都. 同要旨集. 2004. p.406.

バティニ マドシリ, 渡辺征夫. 制御型炉システムを用いた練炭燃焼に伴う汚染物の排出係数の推定. 第44回大気環境学会;2004.9.24-26;京都. 同要旨集. 2004. p.587.

渡辺征夫, 工藤雅子, 山崎一彦, 倉田泰人, 唐牛聖文, 後藤純雄. 廃棄物焼却炉からのクロロフェノール類などの塩素系有機化合物の排出実態. 第44回大気環境学会;2004.9.24-26;京都. 同要旨集. 2004. p.643.

松村徹, 後藤純雄, 佐才秀平, 社本博司, 山内慎, 泥谷真樹, 遠藤治, 渡辺征夫, 他. 大気浮遊粉じん中ダイオキシン類濃度の経年変化について. 第12回環境化学討論会;2004.6.25-27;新潟. 同講演要旨集. 2004. p.270-1.

渡辺征夫, 池口孝, 後藤純雄, 小野寺佑夫, 泉克幸, 倉田泰人. 廃棄物焼却炉の排ガス中のダイオキシン類制御のためのクロロフェノール類およびガス状総有機ハロゲン化合物の連続監視手法および排出抑制システムの開発. 第3回廃棄物処理等科学研究発表会;2004.12.14;東京. 同成果発表抄録集. p.15-7.

清水啓右, 下ヶ橋雅樹, 遠藤治, 後藤純雄, 酒井康行, 迫田章義. 肺胞細胞の気液界面培養と肝細胞を用いたSPMの包括的バイオアッセイ. 化学工学会第68年会;2004.3.23;東京. 同講演要旨集. p.223.

松村徹, 後藤純雄, 遠藤治, 渡辺征夫, 田辺潔, 松下秀鶴, 他. 大気浮遊粉じん中ダイオキシン類濃度の経年変化について. 第12回環境化学討論会;2004.6.25-27;新潟. 同講演要旨集. p.270-1.

高木敬彦, 影山志保, 中島大介, 遠藤治, 麻野間正晴, 後藤純雄, 他. 土壌変異原性測定時におけるクロロフィル類の影響について. 第12回環境化学討論会;2004.6.25-27;新潟. 同講演要旨集. p.566-7.

大久保忠利, 遠藤治, 林哲仁, 後藤純雄, 高木敬彦, 加藤幸彦, 他. マイクロサスペンション法とブレインキューベーション法による陽性対照試料の変異原性の比較. 第32回日本環境変異原学会; 2004.11.26-28; 津. 同要旨集 p.93.

石井瑠里, 中島大介, 江副優香, 遠藤治, 小野寺祐夫, 後藤純雄, 他. S. typhimurium TL210 株を用いる発光umu試験における発光因子について. 第32回日本環境変異原学会; 2004.11.26-28; 津. 同要旨集 p.95.

影山志保, 高木敬彦, 光崎研一, 遠藤治, 中島大介, 後藤純雄, 他. 粒径別に分けた土砂試料の変異原性. 第32回日本環境変異原学会; 2004.11.26-28; 津. 同要旨集 p.99.

岡田裕子, 小谷野道子, 角田真澄, 遠藤治, 後藤純雄, 松下秀鶴, 他. 東京都内・近郊居住者の個人曝露及び室内外空気浮遊粒子 (PM2.5) 中の多環芳香族炭化水素濃度. 平成15年度室内環境学会総会; 2004.12.18-19; 東京. 同講演集 p.126-7.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

大久保千代次, 牛山明, 増田宏. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「電磁界の白血球及び免疫系機能に及ぼす影響に関する研究」(主任研究者: 大久保千代次) 平成14年度事業実績報告書; 2004.

大久保千代次, 牛山明, 増田宏, 廣田彰吾. 環境省地球環境保全等試験研究費 (公害防止等試験研究費) 補助金「生体内脳微小循環動態観察システムを用いた商用周波数帯電磁界の全身暴露影響評価に関する研究」(主任研究者: 大久保千代次) 平成14年度環境保全研究成果集; 2004.

山口一郎. IVRにおける医療放射線防護の規制のあり方に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医薬安全総合研究事業「放射線診療における患者と術者の安全性確保についての研究」(主任研究者: 古井滋. 課題番号: H14-医薬-009) 平成14年度研究報告書. 東京: 古井滋; 2004. p.11-43.

山口一郎. IVRにおける医療被ばくと防護策の実態把握に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医薬安全総合研究事業「放射線診療における患者と術者の安全性確保についての研究」(主任研究者: 古井滋. 課題番号: H14-医薬-009) 平成14年度研究報告書. 東京: 古井滋; 2004. p.44-63.

山口一郎, 他. IVRにおける術者被ばくと防護策の実態把握に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医薬安全総合研究事業「放射線診療における患者と術者の安全性確保についての研究」(主任研究者: 古井滋. 課題番号: H14-医薬-009) 平成14年度研究報告書. 東京: 古井滋; 2004. p.64-73.

山口一郎. 放射線管理のQ&A 記録, 帳簿の電子媒体による保存に関する通知について. 医療放射線防護 NEWSLETTER 2004;36:138.

山口一郎. 診療用放射線照射器具の安全管理の徹底について. 医療放射線防護 NEWSLETTER 2004;36: 122-4.

山口一郎. 放射線医療監視のポイント 知っておくべきことと医療放射線立入検査の意義とその役割. 医療放射線防護 NEWSLETTER 2004;36:15-22.

山口一郎. 放射線規制法令の改正に向けて—国際免除レベ

ルの法令への取り入れ—. 日本アイソトープ協会放射線取扱主任者部会主任者ニュース 2004;9:4-7.

杉山英男, 寺田宙, 横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター, 神戸検疫所輸入食品・検疫検査センター. 輸入食品の放射能調査研究. 文部科学省放射能調査研究費「輸入食品の放射能調査研究」(主任研究者: 杉山英男) 第45回環境放射能調査研究成果論文抄録集 (平成14年度). 東京: 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課防災環境対策室; 2004. p.112-3.

杉山英男, 寺田宙, 加藤文男, 桑原千雅子. 文部科学省放射能調査研究費「陸生食物への核種の移行・蓄積と土壌有機体に関する研究」(主任研究者: 杉山英男) 第45回環境放射能調査研究成果論文抄録集 (平成14年度). 東京: 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課防災環境対策室; 2004. p. 116-7.

渡辺征夫, 主任研究者. 廃棄物処理等科学研究補助制度事業「廃棄物焼却炉の排ガス中のダイオキシン類制御のためのクロロフェノール類およびガス状総有機ハロゲン化合物の連続監視手法および排出抑制システムの開発」平成14年度研究報告書. 東京: 環境省; 2004.

渡辺征夫, 主任研究者. 地球環境保全等試験研究補助制度事業「浮遊粒子状物質及び有害大気汚染物質対策の導入における意志決定のための調査研究」平成14年度環境省総合研究プロジェクト別環境保全研究成果集. 東京: 環境省; 2004. p.7-1 ~ 7-45.

後藤純雄, 中島大介, 江副優香, 田辺潔, 渡辺征夫, 遠藤治, 石井忠浩. 環境省地球環境保全等試験研究費 (公害防止等試験研究費) 補助金「生物評価試験による浮遊粒子状物質の長期曝露モニタリングに関する研究」(主任研究者: 後藤純雄) 平成14年度環境省総合研究プロジェクト別環境保全研究成果集. 東京: 環境省; 2004. p.62-1 ~ 62-18.

松下秀鶴, 房家正博, 雨谷敬史, 大浦健, 遠藤治, 小野光広, 他. 公害健康被害補償予防協会委託業務「PM2.5 個人曝露計測用サンプラーの開発に関する研究. 生活環境中の粒子状物質等による個人曝露測定手法の開発に関する研究」(主任研究者: 松下秀鶴) 報告書. 東京: 財団法人日本環境衛生センター; 2004. p.25-37.

遠藤治, 雨谷敬史, 小野光広. 個人曝露及び室内外空気の実態調査 —粒子中の多環芳香族炭化水素濃度—. 公害健康被害補償予防協会委託業務「生活環境中の粒子状物質等による個人曝露測定手法の開発に関する研究」(主任研究者: 松下秀鶴) 報告書. 東京: 財団法人日本環境衛生センター; 2004. p.401-61.

小野光広, 遠藤治. 個人曝露濃度, 一般家庭室内外空気の実態調査 —粒子濃度及び揮発性アルデヒド類, アルキルベンゼン類, 有機ハロゲン化合物濃度—. 公害健康被害補償予防協会委託業務「生活環境中の粒子状物質等による個人曝露測定手法の開発に関する研究」(主任研究者: 松下秀鶴) 報告書. 東京: 財団法人日本環境衛生センター; 2004. p.463-517.

安枝浩, 雨谷敬史, 遠藤治, 小野光広, 松下秀鶴. 室内空

気中、および寝具表面、皮膚表面のダニ、ネコアレルゲン計測手法の開発とその評価。公害健康被害補償予防協会委託業務「生活環境中の粒子状物質等による個人暴露測定手法の開発に関する研究」(主任研究者:松下秀鶴)報告書。東京:財団法人日本環境衛生センター;2004。p.529-72.

後藤純雄, 中島大介, 江副優香, 田辺潔, 渡辺征夫, 遠藤治, 他。環境省地球環境保全等試験研究費(公害防止等試験研

究費)補助金「生物評価試験による浮遊粒子状物質の長期曝露モニタリングに関する研究」(主任研究者:後藤純雄)。平成14年度環境保全成果集;2004。p.1-18.

麻野間正晴, 遠藤治, 後藤純雄, 渡辺徹志, 世良暢之, 若林敬二, 他。環境省委託業務「環境中の変異原性物質に関する調査研究」(主任研究者:若林敬二)。平成14年度結果報告書。東京:財団法人日本公衆衛生協会;2004。p.1-95.

### Originals

Okano H, Ohkubo C. Anti-pressor effects of whole body exposure to static magnetic field on pharmacologically induced hypertension in conscious rabbits. *Bioelectromagnetics* 2004;24:139-47.

Okano H, Ohkubo C. Effects of static magnetic fields on plasma levels of angiotensin II and aldosterone associated with arterial blood pressure in genetically hypertensive rats. *Bioelectromagnetics* 2004;24:403-12.

Fukumura D, Ushiyama A, Duda DG, Xu L, Tam J, Chatterjee VKK, et al. Paracrine Regulation of Angiogenesis and adipocyte differentiation during In Vivo adipogenesis. *Circ Res* 2004;93(9):e88-97.

Fukuda A, Kitabayashi K, Iwadata Y, Yamaguchi I. Exposure doses of interventional cardiologist during intracoronary radiotherapy with phosphorus-32. *Radioisotopes* 2004;52(7):327-34.

Yamaguchi I, Ohba H. Monte Carlo calculation of external dose rate around a radionuclide reservoir tank using EGS4. *radiation safety management* 2004;2(1):29-32.

Endo O, Sugita K, Goto S, Amagai T, Matsushita H. Mutagenicity of size-fractioned airborne particles collected with Andersen Low Pressure Impactor. *Journal of Health Science* 2004;49:22-7.

### Books

Ohkubo C, Okano H. In: Rosch P, Markov M., editors. *Clinical Application of Bioelectromagnetics Medicine*. New York: Marcel Dekker Inc.; 2004. p.563-91.

Ushiyama A, Masuda H, Ohkubo C. Effects of subchronic exposure to extremely low frequency electromagnetic fields on tumor growth and angiogenesis in the mouse cranial window. In: Asano M, Miura S. editors. *Microcirculation annual*. 2004; 19. Tokyo: Nihon-Igakukan; 2004. p.101-2.

Morita A, Honma K, Shida S, Ushiyama A, Ohkubo C, Yasumura K, et al. Three-dimensional morphometry of microvessels constructed in tumor angiogenesis. In: Asano M, Miura S. editors. *Microcirculation annual*. 2004; 19. Tokyo: Nihon-Igakukan; 2004. p.49-50.

Okano H, Ohkubo C. Anti-pressor effects of whole body exposure to static magnetic field on spontaneous hypertensive rats. In: Asano M, Miura S. editors.

*Microcirculation annual*. 2004; 19. Tokyo: Nihon-Igakukan; 2004. p.103-4.

### Proceedings with abstracts

Ohkubo C. Effects of static magnetic fields on spontaneous hypertensive rats. In: *Abstracts of the 5th Asian Congress for Microcirculation 2004*; 2004 February 20-22; Manila, Philippines. 2004. (Symposium)

Ohkubo C. Biological and health effects of radiofrequency electromagnetic fields. In: *Abstracts of the 5th Asian Congress for Microcirculation 2004*; 2004 February 20-22; Manila, Philippines. 2004. (Symposium)

Okano H, Ohkubo C. Effects of static magnetic fields on blood pressure in spontaneous hypertensive rats. In: *Abstract book of the 25th Annual Meeting of the Bioelectromagnetics Society*; 2004 Jun 22-27; Maui, U.S.A. 2004. p.175.

Okano H, Ohkubo C. Effects of local exposure to a static magnetic field on pharmacologically modulated blood pressure in rabbits. In: *Abstract book of the 25th Annual Meeting of the Bioelectromagnetics Society*; 2004 Jun 22-27; Maui, U.S.A. 2004. p.176.

Okano H, Ohkubo C. Effects of static magnetic fields with mT levels on microcirculation and blood pressures in experimental animals. In: *Abstract book of the 25th Annual Meeting of the Bioelectromagnetics Society*; 2004 Jun 22-27; Maui, U.S.A. 2004. p.160. (Symposium)

Ushiyama A, Masuda H, Ohkubo C. Effects of subchronic exposure to extremely low frequency electromagnetic fields on the cranial microcirculation in the brain tumor bearing mouse. In: *Abstract book of the 25th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society*; 2004 Jun 22-27; Maui, U.S.A. 2004. p.89.

Ushiyama A, Ohkubo C. Effects of whole body exposure to 50Hz electromagnetic fields on the intramicrovascular leukocyte adhesion in mice. In: *Abstract book of the International Conference on Non-Ionizing Radiation at UNITEN (ICNIR2004), Electromagnetic Fields and Our Health*; 2004 Oct 20-22; Kuala Lumpur, Malaysia. 2004.

Masuda H, Ushiyama A, Wake K, Watanabe S, Taki M, Ohkubo C. Acute effects of local exposure to radio-frequency

electromagnetic fields with a loop antenna on the cerebral microcirculation in rats. In: Abstract book of the 3rd International EMF Seminar; 2004 Oct 13-17; Guilin, China. 2004.

Masuda H, Hirota S, Ushiyama A, Wake K, Watanabe S, Taki M, et al. In vivo evaluation of exposure effects to radio-frequency electromagnetic fields on the cerebral circulation in rats. In: The Blood-Brain Barrier (BBB) Workshop of COST281-Potential health Implications from Mobile Communication Systems; 2004 Nov 2-6; Reims, Germany. 2004. p.28-9.

Masuda H, Hirota S, Ushiyama A, Wake K, Watanabe S, Yamanaka Y, Taki M, Ohkubo C. Sub-chronic effects of local exposure to Radio-frequency electromagnetic fields with loop antenna on the cerebral microcirculation in rats. In: Abstract book of the 6th International Congress of the European Bioelectromagnetics Association; 2004 Nov 13-15; Budapest, Hungary. 2004. p.63.

Lagroye I, Veyret B, Gannes FL, Thuroczy G, Neubauer G, Ohkubo C, et al. Multicenter replication study of the blood brain barrier neurodegenerations study conducted in Sweden. In: Abstract book of the 6th International Congress of the European Bioelectromagnetics Association; 2004 Nov 13-15; Budapest, Hungary. 2004. p.219.

Masuda H, Hirota S, Ushiyama A, Wake K, Watanabe S, Yamanaka Y, Taki M, Ohkubo C. Intravital-microscopic evaluation of exposure effects to radio-frequency electromagnetic fields on the cerebral circulation in rats. Workshop and MCM of COST281-Potential health Implications from Mobile Communication Systems; 2004 Nov 15-16; Budapest, Hungary.

Masuda H, Sanchez S, Dulou PE, Haro E, Anane B, Veyret B. Effect of 2-hour acute exposure to GSM-900 or -1800 microwaves on the skin of "hairless" rats. In: Abstract book of the 25th Annual Meeting of the Bioelectromagnetics Society; 2004 June 22-27; Maui, USA. 2004. p.115.

Masuda H, Sanchez S, Dulou PE, Haro E, Anane B, Veyret B. Effect of 12-week chronic exposure to GSM-900 or -1800 microwaves on the skin of "hairless" rats. In: Abstract book of the 25th Annual Meeting of the Bioelectromagnetics Society; 2004 June 22-27; Maui, USA. 2004. p.178.

Sanchez S, Masuda H, Taxile M, Billaudel B, Dulou P, Haro E, Lagroye I, Veyret B. Ornithine decarboxylase (ODC) activity in skin keratinocytes after exposure to GSM signals of hairless rats. In: Abstract book of the 6th International Congress of the European Bioelectromagnetics Association; 2004 Nov 13-15; Budapest, Hungary. 2004. p.222.

Masuda H, Hirota S, Ushiyama A, Wake K, Watanabe S,

Yamanaka Y, Taki M, Ohkubo C. Intravital-microscopic evaluation of exposure effects to radio-frequency electromagnetic fields on the cerebral circulation in rats. Workshop and MCM of COST281-Potential health Implications from Mobile Communication Systems; 2004 Nov 15-16; Budapest, Hungary.

Sugiyama H, Fukumoto A, Kuwahara C, Shibata H, Terada H, Kato F. Cesium accumulation by mushroom and microorganism. In: Abstracts of the Sixth International Conference on Methods and Applications of Radioanalytical chemistry-MARC; 2004 April 7-11; Amsterdam, Netherlands. Kluwer; 2004. p.160.

Sugiyama H, Terada H, Fukumoto A, Kuwahara C, Shibata H, Kato F. Characteristics of cesium accumulation in mushroom and microorganism. In: Abstract of the 12th International Congress of Radiation Research; 2004 August 17-22. International Association of Radiation Research; 2004. p.198.

Yamaguchi I. The Monte Carlo Method for Calculating the External Dose Rate around a Radionuclide Reservoir Tank in a nuclear medicine facility. In: Proceedings of the Tenth EGS4 Users' Meeting in Japan; 2004 ; Tsukuba. KEK Proceedings 2004-15; 2004. p.120-7.

Watanabe I, Kudo M, Yamasaki K, Kurata Y, Goto S. Long-term monitoring of chlorophenols in the flue gas from waste incinerators by two types of sequential automated-analytical instrument using HPLC/ECD. In: Book of 2004 Pittsburgh Conference; A Global Technical Conference & Exposition; 2004 March 9-14; New Orleans U.S.A. 2004. p.600.

Watanabe I. Progress of GC analysis for volatile organic compounds (VOCs) in air and flue gas. In: Abstract of the 2004 Korea-Japan Symposium on Gas Chromatography; 2004 Oct.16-18; Seoul, Korea. 2004. p.72-5.

Sugita K, Asada S, Endo O, Goto S, Ishii T. Dioxin in fractionated particle using Andersen/lowpressure impactor. In: Abstracts of the 8th International Conference on Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality; 2004.3.11-13; Tsukuba. 2004. p.264.

Ezoe Y, Goto S, Endo O, Koyano M, Watanabe I, Tanabe K, et al. Polycyclic aromatic hydrocarbons concentrations of airborne particles in urban air over the past 20 years. In: Abstracts of the 19th International Symposium on Polycyclic Aromatic Compounds; 2004; Amsterdam, Netherlands. 2004. p.133.

Nakajima D, Sugita K, Ohkubo T, Goto S, Endo O, Yajima H, et al. Gas/particle and size distribution of polycyclic aromatic hydrocarbons in ambient air. In: Abstracts of the 19th International Symposium on Polycyclic Aromatic Compounds; 2004; Amsterdam, Netherlands. 2004. p.135.



## 建築衛生部

## Department of Architectural Hygiene and Housing

## 学術雑誌に発表した原著論文

大澤元毅, 池田耕一, 林基哉, 小島隆矢, 真鍋純, 中林由行. 2000年全国実態調査に基づく住宅室内空気中のVOC汚染の状況. 日本建築学会環境系論文集 2004;(575):61-6.

朴俊錫, 池田耕一. 居住空間における真菌由来揮発性有機化合物による空気汚染に関する研究 その2 合板におけるホルムアルデヒド放散量による真菌成長への影響. 日本建築学会計画系論文集 2004;(577):27-32.

東賢一, 塩津弥佳, 池田耕一. 埼玉県における居住環境とアレルギー疾患の関連性に関する調査研究. 日本建築学会計画系論文集 2004;(584):83-90.

三浦邦夫, 高塚威, 柳宇, 山崎省二. 抗菌処理を施した空調機器の抗菌性能の評価方法と評価結果. 空気清浄 2004;41(6):27-34.

鍵直樹, 田村一, 渡會竜司, 藤井修二. 建材の内部拡散と水分量からみた揮発性有機化合物の発生ガス特性. 日本建築学会環境系論文集 2004;(578):25-30.

藤井修二, 車熙運, 宮村壽, 鍵直樹. チャンバー法による植物の窒素酸化物除去効果. 日本建築学会環境系論文集 2004;(582):61-6.

鍵直樹, 川尻第貴, 並木則和, 藤井修二. 室内空気中のオゾンによるVOCの粒子生成. 日本建築学会環境系論文集 2004;(585):35-9.

## 学術誌に発表した総説

池田耕一. 各省のシックハウス規制. 公共建築 2004;46(179):9-15.

柳宇, 池田耕一, 塩津弥佳, 山崎省二. 病院内浮遊微生物粒子濃度の実態. クリーンテクノロジー 2004;14(3):1-6.

柳宇, 池田耕一, 吉澤晋. 中国におけるSARS対策. 空気調和・衛生工学会 2004;78(5):51-59.

柳宇, 池田耕一. 中国における室内空気環境管理について. ビルと環境 2004;(105):58-60.

柳宇. 室内空気環境の維持管理. 建築防災 2004;(321):33-36.

## 著書

坊垣和明, 秋野卓生, 安藤正典, 池田耕一, 大澤元毅, 斎藤孝彦, 佐藤清, 高橋元, 野沢正光. シックハウス相談マニュアル. 東京:財団法人紛争処理支援センター;2004.

池田耕一. 室内空気. 日本エアロゾル学会監修. エアロゾル用語集 第9章 室内・作業環境. 京都:京都大学出版会;2004. p.130-131.

鈴木晃. 介護保険の住宅改修の課題. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.306-9.

阪東美智子. 寄せ場地域(釜ヶ崎, 山谷, 寿町, 笹島, 川崎)の変容. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.35-9.

阪東美智子. 生活保護施設(更生施設・救護施設). 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.68-71.

阪東美智子. 更生保護施設. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.71-2.

阪東美智子. 住宅を失う要因とホームレス<解説>. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.108-11.

阪東美智子. 住宅をさがせない障害者. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.147-51.

阪東美智子. 自治体の取り組み—東京都・大阪市など. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.196-99.

阪東美智子. 釜ヶ崎. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.208-11.

阪東美智子. NPO法人自立生活サポートセンター・もやい. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.214-6.

阪東美智子. スープの会. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.225-7.

阪東美智子. 「ホームレス」問題と教育. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. ドメス出版;2004. p.243-4.

阪東美智子. ホームレス研究とその意義. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.251-3.

阪東美智子. あとがき. 日本住宅会議, 編. ホームレスと住まいの権利—住宅白書 2004-2005. 東京:ドメス出版;2004. p.359.

阪東美智子. アフリカの住居. 梁瀬度子, 中島明子, 他, 編. 住まいの事典. 東京:朝倉書店;2004. p.52-4.

## 抄録のある学会発表

山崎省二, 高鳥浩介, 狩野文雄, 横地明, 篠原克明, 木ノ本雅通, 池田耕一. クリーンルームの微生物汚染評価. 第22回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会;2004.4.13-14;東京. 同予稿集. 2004. p.67-70.

松鶴悟実, 吉野博, 大澤元毅, 桑沢保夫, 渡辺俊行, 池田耕一, 鈴木大隆, 尾崎明仁, 三田村輝章. 住宅における化学

物質濃度の冬季・夏季の実測調査. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学, 2004. p.979-980.

三田村輝章, 吉野博, 大澤元毅, 桑沢保夫, 池田耕一, 渡辺俊行, 尾崎明仁, 鈴木大隆, 柳沢幸雄, 熊谷一清. シックハウスに関連した室内空気環境の総合的調査 その3 気中濃度の測定結果と壁体内・押入内濃度の分析. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学, 2004. p.983-984.

朴俊錫, 池田耕一, 塩津弥佳. 東アジアにおける揮発性有機化合物空気汚染に関する実態調査 その1 住まい方と季節別の有機化合物濃度変動. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学, 2004. p.985-986.

池田耕一, 朴俊錫. AFoDAS, AVoDAS に見る室内空気質の実態. シンポジウム シックハウス問題の到達点とその未来. 同資料集, 2004. 第2章第2節 p.17-30. (シンポジウム)

池田耕一, 柳宇. 光触媒による室内空気汚染低減効果の評価第1報—VOCとHCHO濃度に対する低減効果. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学, 2004. p.1083-1084.

池田耕一. 巨大な超高層ビルの衛生管理. 第31回建築物環境衛生管理全国大会; 2004.1.22-23; 東京. 同抄録集, 2004. p.61.

坂上恭介, 岡田誠之, 池田耕一. 排水設備における排水ガス・臭気の実態調査. 第31回建築物環境衛生管理全国大会; 2004.1.22-23; 東京. 同抄録集, 2004. p.38-39.

祢津紘司, 吉野博, 天野健太郎, 松本麻里, 池田耕一, 野崎淳夫, 角田和彦, 北條祥子, 石川哲. シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状況に関する調査研究 その9 ロジスティック回帰分析を用いた健康被害と防除対策についての考察. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学, 2004. p. 1045-1046.

内藤香, 佐藤由美, 蓑輪裕子, 鈴木晃. 介護保険施行前後の高齢者等向け住宅改修訪問相談制度・体制の変化—高齢者等向け住宅改修訪問相談制度等に関する調査(1). 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, E-2, 計画系, 2004. p. 299-300.

佐藤由美, 内藤香, 蓑輪裕子, 鈴木晃. 高齢者等向け住宅改修訪問相談の体制に関する研究—高齢者等向け住宅改修訪問相談制度等に関する調査(2). 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, E-2, 計画系, 2004. p. 301-302.

鈴木晃, 蓑輪裕子, 橋本美芽, 山本美香, 中村美安子. ケアマネジャーに必要な住宅改修支援の視点と技術—モデル事業を含む支援経過の分析—. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):686.

入江建久, 鈴木晃, 飯野由香利, 工藤恵子. 「越冬入院」の居住環境に関する調査. 第63回日本公衆衛生学会総会;

2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別付録):915.

柳宇, 池田耕一. 空調システムにおける微生物生育環境に関する研究. 第31回建築物環境衛生管理全国大会; 2004.1.22-23; 東京. 同抄録集, 2004. p.52-53.

塩津弥佳, 柳宇. 医療施設における空気環境調査. 第31回建築物環境衛生管理全国大会; 2004.1.22-23; 東京. 同抄録集, 2004. p.18-19.

柳宇, 池田耕一. エアフィルタによる浮遊微生物粒子の除去性能に関する検証. 第22回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2004.4.13-14; 東京. 同予稿集, 2004. p.281-283.

柳宇, 池田耕一. 光触媒による室内空気汚染低減効果の評価—第2報—抗菌性能. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学, 2004. p. 1085-1086.

柳宇, 池田耕一. 空調システムにおける微生物汚染の実態と対策に関する研究(第1報) 微生物の生育環境と汚染実態. 平成16年度空気調和・衛生工学会大会; 2004.9.8-10; 名古屋. 同講演論文集, p.1979-1982.

柳宇, 池田耕一. 住宅におけるペット由来生物粒子による空気汚染に関する研究. 2004年日本環境管理学会・室内環境学会合同研究発表会; 2004.10.9-11; 東京. 同講演集, p.172-173.

池田耕一, 柳宇, 桑野隆司, 田頭弘道, 久保田光洋, 緒方四郎. 光触媒による静的浄化機能の評価. 平成16年度空気調和・衛生工学会大会; 2004.9.8-10; 名古屋. 同講演論文集, p.210-211.

池田耕一, 柳宇. 諸外国におけるSARS対策. IAQ国際シンポジウム—SARSと建築環境; 2004.4.22; 東京. 同講演資料集, p.34-41.

柳宇. SARSとウィルスに備える. 空気調和・衛生工学会主催市民向け公開講演会講演; 2004; 名古屋. 同資料, 2004. p.9-12.

柳宇, 池田耕一. 感染症と室内環境—空調・換気設備の関与. 平成16年度空気調和・衛生工学会大会; 2004.9.8-10; 名古屋. 同講演論文集, p.406-407.

糟谷佐紀, 阪東美智子, 多淵敏樹. 車いす使用者における適切な住環境整備のあり方に関する研究—スロープ勾配判定システムの開発—. 平成16年度日本建築学会近畿支部研究発表会; 2004.6.18-19; 大阪. 同研究報告集, p.213-6.

糟谷佐紀, 米田郁夫, 阪東美智子, 多淵敏樹. 車いす使用者の住環境整備に関する研究—適合スロープ勾配判定システムの構築—. 日本福祉のまちづくり学会 第7回全国大会; 2004.7.22-23; 盛岡. 同梗概集, p.53-6.

阪東美智子. 生活保護受給者における介護保険システムの課題. 日本福祉のまちづくり学会 第7回全国大会; 2004.7.22-23; 盛岡. 同梗概集, p.233-6.

糟谷佐紀, 米田郁夫, 岡野生也, 笹山潤一, 山本直樹, 安田孝司, 馬場琴子, 阪東美智子, 他3名. 車いす使用者に適

合したスロープ勾配判定システムの開発. 第19回リハ工学カンファレンス; 2004.8.25-27; 札幌. 同講演論文集. p.11-2.

米田郁夫, 糟谷佐紀, 岡野生也, 笹山潤一, 山本直樹, 安田孝司, 馬場琴子, 阪東美智子, 他3名. スロープ路面が車いす使用者に与える負荷と操作に及ぼす影響. 第19回リハ工学カンファレンス; 2004.8.25-27; 札幌. 同講演論文集. p.15-6.

阪東美智子, 中島明子, 大崎元. 寄せ場型地域—山谷、釜ヶ崎—における野宿生活者への居住支援— その6. 釜ヶ崎における地域資源としての簡易宿泊所活用の課題—. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, F-1. 2004. p. 1419-1420.

糟谷佐紀, 米田郁夫, 阪東美智子, 末田統, 藤澤正一郎, 奥英久. 車いす操作能力に適応したスロープ勾配の判定システムの開発. 第4回福祉工学シンポジウム; 2004.9.13-15; 東京. 同アブストラクト集. p. 45-8.

米田郁夫, 糟谷佐紀, 阪東美智子, 末田統, 藤澤正一郎, 奥英久, 他1名. 手動車いすによる縦断勾配走行の難易度評価に関する考察. 第4回福祉工学シンポジウム; 2004.9.13-15; 東京. 同アブストラクト集. p. 57-60.

阪東美智子. 生活保護による生活再建の現状とまちづくりへの効果—あいりん地域のサポーターハウス居住者調査をとおして—. 社会政策学会第109回大会; 2004.10.16-17; 大阪. (第5分科会「生活保護改革を考える」報告)

阪東美智子. ホームレス問題と政策課題. 日本住宅会議 2004 年度総会; 2004.12.4; 東京. (シンポジウム講演)

田村一, 藤井修二, 鍵直樹, 村上高行, 野中辰夫, 吉池恒久. コロナ放電式イオナイザ直下における分子状汚染物質の挙動. 第22回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2004.4.13-14; 東京. 同予稿集. 2004. p.17-19.

鍵直樹, 新田潤平, 藤井修二, 田村一. オゾン及びUVによる建材からの化学物質の二次発生挙動. 第22回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2004.4.13-14; 東京. 同予稿集. 2004. p.263-265.

鍵直樹, 栖川崇, 藤井修二. 室内発生を考慮に入れた 2.5  $\mu$  m 以下の微粒子の評価. 第22回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2004.4.13-14; 東京. 同予稿集. 2004. p.272-274.

鍵直樹, 藤井修二, 栖川崇. 建築物における微粒子の外気と室内濃度の関係. 第21回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2004.8.46; 札幌. 2004. p.93-94.

田村一, 藤井修二, 鍵直樹, 村上高行, 野中辰夫, 吉池恒久. コロナ放電式イオナイザ設置環境下におけるDBP・TCEPの挙動. 第21回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2004.8.46; 札幌. 2004. p.97-98.

車熙運, 藤井修二, 鍵直樹. 大気曝露による植物の窒素酸化物吸着効果. 第21回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2004.8.46; 札幌. 2004. p.195-196.

藤井修二, 栖川崇, 鍵直樹. 室内と外気における粒経別微粒子の濃度相関. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31;

札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学. 2004. p.889-890.

田村一, 鍵直樹, 野中辰夫, 藤井修二. コロナ放電式イオナイザ設置下におけるウェーハ上の分子状汚染物質. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学. 2004. p.903-904.

鍵直樹, 新田潤平, 藤井修二, 田村一. チャンバーを用いたオゾン及び紫外線による建材表面の二次発生挙動. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学. 2004. p. 1009-1012.

車熙運, 藤井修二, 鍵直樹. 大気中窒素酸化物暴露による植物の吸着効果—植物による大気汚染物質除去効果— その8. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学. 2004. p. 1075-1076.

松川裕樹, 藤井修二, 諏訪好英, 鍵直樹. 水素エネルギーに着目した燃料電池システムの検討—改質器と電池本体の分離による余剰水素発生システム—. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, D-2, 環境工学. 2004. p. 1387-1388.

鍵直樹. 室内空気質問題とその対策—環境建築の最先端とこれから—. 環境工学公開勉強会 2003, 日本建築学会関東支部環境工学専門委員会. 2004. p.27-36. (シンポジウム)

#### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

池田耕一. 室内空気汚染実態の詳細把握. 総合プロジェクト「シックハウス対策技術の開発」平成15年度報告書. 2004. 第1編.

池田耕一, 鍵直樹, 柳宇. 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学研究事業「建築物における環境衛生管理に関する研究」(主任研究者:目黒克己)平成15年度報告書. 2004.

池田耕一. 室内空気中化学物質が高齢者等の健康に与える影響に関する調査事業. 平成15年度独立行政法人福祉医療機構(長寿福祉基金)助成事業報告書. 2004.

池田耕一. 気密住宅における換気設備性能と換気量・室内空気質についての全国調査. 平成13, 14, 15年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書. 2004.

筧淳夫, 池田耕一. 日本医療福祉設備規格 病院空調の設計・管理指針(案), HEAS-02-2004. 日本医療福祉設備協会病院設備の設計・管理指針検討委員会報告書. 2004.

池田耕一. 健康住宅ロードマップ研究会報告書. 2004.

鈴木晃, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(H15-長寿-027)平成15年度研究報告書. 2004.

鈴木晃, 阪東美智子. 介護保険における住宅改修の課題—自立支援として妥当でない改修事例の分析を中心に—. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者:鈴木晃. H15-長寿-027)平成15年度研究報告書. 2004. p.11-18.

鈴木晃. ケアマネジャーの住宅改修支援経過の分析—北海道4町在宅介護支援センターにおけるモデル事業を事例とし

て一、厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者：鈴木晃、H15—長寿—027)平成15年度研究報告書、2004、p.29-57.

鈴木晃、ケアマネジャー向け住宅改修の研修実態—全国都道府県・政令指定都市アンケート調査—、厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者：鈴木晃、H15—長寿—027)平成15年度研究報告書、2004、p.59-70.

鈴木晃、ケアマネジャー向け住宅改修の研修の試行と評価、厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者：鈴木晃、H15—長寿—027)平成15年度研究報告書、2004、p.82-124.

鈴木晃、ニーズ発見およびニーズとディマンズの調整の視点を獲得目標とした研修用ビデオの開発、厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者：鈴木晃、H15—長寿—027)平成15年度研究報告書、2004、p.125-136.

池田耕一、柳宇、厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「居住環境に基づく感染性疾患とその予防に関する研究」平成15年度研究報告書、2004、p.18-27.

池田耕一、柳宇、厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「光触媒利用技術の化学物質除去性能に関する研究」平成15年度分担研究報告書、2004.

阪東美智子、動作に着目した住宅空間設計のガイドラインに関する研究(その1)—車いす使用者の操作能力を考慮した住宅整備指針の構築(第三報)、兵庫県委託研究「動作に着目した住宅空間設計のガイドラインに関する研究—車いす使用者の操作能力を考慮した住宅整備指針の構築」(研究代表者：糟谷佐紀)、兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集平成15年度、2004、p.135-46.

阪東美智子、生活保護による生活再建と課題—釜ヶ崎サポーターハウス居住者調査—、住宅総合研究財団研究助成事業「寄せ場型地域—山谷、釜ヶ崎—における野宿生活者への支援—「自立」支援と結合した居住支援の課題—」(主査：

中島明子、課題番号：0118)、住宅総合研究財団；2004、p.9-38.

阪東美智子、公共・民間の自立支援施設・中間居住施設の事例、住宅総合研究財団研究助成事業「寄せ場型地域—山谷、釜ヶ崎—における野宿生活者への支援—「自立」支援と結合した居住支援の課題—」(主査：中島明子、課題番号：0118)、住宅総合研究財団；2004、p.39-48.

阪東美智子、主任研究者、文部科学省科学研究費補助金(萌芽研究)研究事業「生活保護受給層における介護保険システムの課題に関する研究」(課題番号：14651049)平成14～15年度科学研究費補助金(萌芽研究)研究成果報告書、2004.

阪東美智子、ケアマネジャー向け研修用実習設備の整備状況と活用実態、厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者：鈴木晃、H15—長寿—027)、平成15年度研究報告書、2004、p.71-81.

鍵直樹、室内環境における超微小粒子の実測調査と組成分析の適用及び挙動解析の検討、環境技術開発等推進事業、静電式分級濃縮技術を応用した大気中超微小粒子の組成分析手法の開発(代表者：坂本和彦、課題番号：030630005)、平成15年度研究成果(進捗状況)報告書、埼玉大学；2004.

## 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

### <ビデオ教材>

鈴木晃、橋本美芽、蓑輪裕子、金沢善智、中祐一郎、厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者：鈴木晃、H15—長寿—027)、研修用視聴覚教材「ケアマネジャーに必要な住宅改修アセスメント技術 第一巻 ニーズの発見およびニーズとディマンズの調整」、2004.

鈴木晃、橋本美芽、蓑輪裕子、金沢善智、中祐一郎(厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発」(主任研究者：鈴木晃、H15—長寿—027)、研修用視聴覚教材「ケアマネジャーに必要な住宅改修アセスメント技術 第二巻 居宅サービス計画の立案にむけた課題分析の実際」、2004.

## Originals

Park JS, Ikeda K. Exposure to the mixture of organic compounds in homes in Japan. *Indoor Air* 2003;2004;14(6):413-420.

## Proceedings with Abstracts

Ikeda K. Governmental measures for SHS (Sick House Syndrome, or SBS Homes) in Japan. In: *Proceedings for 2004 International Symposium for Indoor Air Quality & Climate*; 2004. pp.15-38.

Yanagi U, Ikeda K, Sakaguchi M. Research on the indoor air pollution substance related to the pets in Japanese residences. *The 3rd International Workshop on Energy and*

*Environment of Residential Buildings*; 2004; China. In: *Proceeding of the 3rd International Workshop on Energy and Environment of Residential Buildings*. p.339-44.

Yoneda I, Kasuya S, Bando M, Sueda O, Ide M, Kamata M, Hashizume T. Quantitative Evaluation of Influences of Road Condition on Maneuvering Manual Wheelchair. In: *TRANSED 2004*; 2004 May 23-26; Hamamatsu; 2004. Recorded in CD. p.653-61.

Nakajima A, Bando M, Osaki H, Tanaka R. The development of the public and private support for homeless people in Japan after the 1990s: Focus on housing support. In: Hulchanski JD, Murdie RA, Campsie P, editors. *Adequate & Affordable Housing for All. Research, Policy, Practice*.

Research Abstracts from the International Housing Research Conference University of Toronto; 2004 Jun 24-27; Toronto; 2004. p.32-3.

Nakajima A, Osaki H, Bando M. Sustainable community and housing support for rough sleepers in flophouse quarters in Tokyo and Osaka. In: Groot-Marcus JP editor. 20th IFHE World Congress, Abstract Book; 2004 Aug 1-7; Kyoto; 2004. p.38.

Kagi N, Fujii S, Horiba Y, Namiki N, Ohtani Y, Emi H, Tamura H. Emission characteristics of chemical contaminants from printers. In: Proceedings of the 7th International Symposium on Building and Urban

Environmental Engineering; 2004; Tianjin, P.R. China. p.40-45.

Cha H, Fujii S, Kagi N, Yanagisawa J. The effects of nitrogen oxide removal through rainfall on plants. In: Proceedings of the 7th International Symposium on Building and Urban Environmental Engineering; 2004; Tianjin, P.R. China. p.53-65.

Kagi N, Fujii S, Kawajiri D, Namiki N. Secondary air pollution from chemical reaction of ozone. In: Proceedings of the 17th ICCCS International Symposium on Contamination Control; 2004; Bonn Germany. 2004. p.79-84.

## 水道工学部

### Department of Water Supply Engineering

#### 学術雑誌に発表した原著論文

金志勲, 許春蓮, 秋葉道宏, 西村修, 西村哲治, 安藤正典. 水道水源における同化性有機炭素の動態に関する基礎的研究. 水道協会雑誌 2004;73(11):11-18.

#### 学術雑誌に発表した総説

国包章一. 水道のリスク管理について. 水坤 2004;27(1):3-4.

永田龍二, 浅見真理, 高階恵美子, 中谷比呂樹. 厚生労働科学研究費補助金の取り組みについて—その意義と成果の普及—. 情報の科学と技術 2004;54(6):289-293.

小坂浩司, 山田春美, 津野洋, 清水芳久, 松井三郎. 溶存有機物共存下におけるオゾン / 過酸化水素処理による微量汚染物質の分解. 環境技術 2004;33(11):826-830.

#### 著書

伊藤雅喜, 山本志野歩, 膜ろ過. 土木学会環境工学委員会環境工学に係わる出版準備委員会編. 環境工学公式・モデル・数値集. 東京:土木学会; 2004. p.33-39.

伊藤雅喜. 浄水処理における膜ろ過技術の現状と今後の展開. 中尾真一, 渡辺義公, 監修. 膜による水処理技術の新展開. 東京:シーエムシー出版; 2004. p.31-42.

秋葉道宏. 浄水の生物学. 水環境保全のための生物学. 須藤隆一, 編. 東京:産業用水調査会; 2004. p.183-209.

山田春美, 小坂浩司. 促進酸化特性. 宗宮功, 編. オゾンハンドブック. 東京:サンユウ書房; 2004. p.96-106.

#### 抄録のある学会報告

押見誠則, 藤本尚志, 鈴木昌治, 秋葉道宏, 国包章一. かび臭産生藻類に対して溶藻作用を有する細菌の分離とその効果. 第38回日本水環境学会年会; 2004.3.17-19; 札幌. 同講演集. p.303.

胡建英, 金曉輝, 相澤貴子, 国包章一. 多環芳香族 (PAHs)

の塩素消毒生成物の AhR 活性評価. 第38回日本水環境学会年会; 2004.3.17-19; 札幌. 同講演集. p.438.

森一晃, 国包章一, 津野洋. 水道原水保全における地理情報システム (GIS) の活用. 第55回全国水道研究発表会; 2004.6.15-17; 京都. 同講演集. p.118-119.

門脇正夫, 伊藤雅喜, 国包章一. 平膜ナノろ過装置によるファウリング加速試験と洗浄に関する検討. 第55回全国水道研究発表会; 2004.6.15-17; 京都. 同講演集. p.208-209.

小坂浩司, 国包章一, 米沢龍夫. 浄水処理工程におけるフタル酸エステル類の実態調査. 第55回全国水道研究発表会; 2004.6.15-17; 京都. 同講演集. pp.348-349.

中澤祐貴, 森一晃, 国包章一. 直結給水の拡大と逆流防止器の設置によるリスク軽減方策の評価・検討. 第55回全国水道研究発表会; 2004.6.15-17; 京都. 同講演集. pp.492-493.

中島典之, Thaveemaitree Y, 古米弘明, 国包章一. 浄水汚泥, スカム等の熱分解 GC/MS による有機物組成解析結果と DEHP 含量との関係. 第55回全国水道研究発表会; 2004.6.15-17; 京都. 同講演集. pp.606-607.

島崎大, 相澤貴子, 西村哲治, 安藤正典, 国包章一, 眞柄泰基. 水道原水および浄水における臭素酸イオンの実態調査. 第55回全国水道研究発表会; 2004.6.15-17; 京都. 同講演集. p.618-619.

西村和恵, 大谷努, 亀井翼, 大野浩一, 眞柄泰基, 伊藤雅喜, 仲宗根盛利, 赤嶺永正, 崎山里志. ナノろ過によるアンチモン処理に及ぼす共存物質の影響. 第55回全国水道研究発表会; 2004.6.15-17; 京都. 同講演集. p.210-211.

秋葉道宏. 吸着相酸化促進を利用した水道原水高効率オゾン処理と臭素酸生成抑制の両立. 第38回日本水環境学会年会; 2004.3.17-19; 札幌. 同講演集. p.349.

西村和恵, 大野浩一, 亀井翼, 眞柄泰基, 伊藤雅喜, 松本幸博, 赤嶺永正, 崎山里志. 小型ナノろ過膜装置におけるファウリング加速試験の運転結果. 第38回日本水環境学会年会; 2004.3.17-19; 札幌. 同講演集. p.320.

金志勲, 千葉信男, 秋葉道宏, 中野和典, 西村修. 藻類由

来同化性有機炭素に及ぼす塩素処理の影響。第38回日本水環境学会年会；2004.3.17-19；札幌。同講演集。p.440。

宮川徹也，西村修，安藤正典，秋葉道宏，西村哲治。水道水における同化性有機炭素の調査。第55回全国水道研究発表会；2004.6.15-17；京都。同講演集。p.562-563。

秋葉道宏，西村哲治，安藤正典，新垣和一。臭気の官能試験法に関する一考察。第55回全国水道研究発表会；2004.6.15-17；京都。同講演集。p.654-655。

鎌田素之，島崎大，西村哲治，相澤貴子。監視農業プライオリティリストを用いた水道における農業の管理の試み。第38回日本水環境学会年会；2004.3.17-19；札幌。同講演集。p.16。

圓佛伊智朗，岡部洋，小熊久美子，小池健一，島崎大，長岡裕。市場経済を用いた水資源管理に関する国際的な動向。第55回全国水道研究発表会；2004.6.15-17；京都。同講演集。p.94-95。

新井崇子，鎌田素之，島崎大，伊藤雅喜，相澤貴子。水中残留農業の塩素処理性の評価に関する研究。第55回全国水道研究発表会；2004.6.15-17；京都。同講演集。p.570-571。

鎌田素之，島崎大，伊藤雅喜，相澤貴子。監視農業プライオリティに基づく水道における農業管理のあり方。第55回全国水道研究発表会；2004.6.15-17；京都。同講演集。p.572-573。

小坂浩司，山田春美，津野洋，清水芳久，松井三郎。溶存有機物共存下におけるオゾン/過酸化水素処理による微量汚染物質の分解。第14回日本オゾン協会年次研究講演会；2004.6.24-25；周南。同講演集。pp.85-88。

小坂浩司，山田春美，清水芳久，松井三郎。オゾン/過酸化水素処理によるフタル酸ジ-n-ブチル分解に及ぼす溶存有機物質の影響。第38回日本水環境学会年会；2004.3.17-19；札幌。同講演集。p.350。

### その他学術報告（研究調査報告書含む）

国包章一，相澤貴子，浅見真理，島崎大，小坂浩司，ほか。環境省地球環境保全等試験研究費「水道水源水域等における親水性かつ難分解性有機化学物質の動態と水道のリスク評価ならびに制御に関する研究」。平成15年度環境保全成果集。2004。

国包章一，秋葉道宏。厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「クリプトスポリジウム症等感染リスクの評価手法の確立に関する研究」（主任研究者：国包章一。H15—

新興—16）。平成15年度総括・分担研究報告書2004。

国包章一，相澤貴子，小坂浩司。厚生労働科学研究費補助金化学物質リスク研究事業「水道におけるフタル酸ジ-2-エチルヘキシルの濃縮機構等に関する研究」（主任研究者：国包章一。H14—食品・化学—011）。平成15年度総括研究報告書。2004。

国包章一，森一晃，伊藤雅喜，秋葉道宏，島崎大。厚生労働科学研究費補助金がん予防健康科学総合研究事業「地理情報システムを用いた水道原水の保全に関する研究」（主任研究者：国包章一。H15—がん予防—103）。平成15年度総括研究報告書。2004。

眞柄泰基，国包章一，相澤貴子，伊藤雅喜，秋葉道宏，島崎大，小坂浩司，ほか。厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「WHO飲料水水質ガイドラインの改訂等に対応する水道における化学物質等に関する研究」（主任研究者：眞柄泰基。H15—がん予防—104）。平成15年度総括・分担研究報告書。2004。

丹後俊郎，国包章一，ほか。厚生労働科学研究費補助金化学物質リスク研究事業「ダイオキシン類汚染に起因する悪性新生物死亡の超過リスクに関するコホート研究」（主任研究者：丹後俊郎。H14—食品・化学—021）。平成15年度総括・分担研究報告書。2004。

眞柄泰基，国包章一，相澤貴子，ほか。厚生労働科学研究費補助金化学物質リスク研究事業「水道におけるダイオキシン類の実態等の解明に関する研究」（主任研究者：眞柄泰基。H13—生活—004）。平成15年度総括・分担研究報告書。2004。

眞柄泰基，国包章一，相澤貴子，伊藤雅喜，秋葉道宏，島崎大，小坂浩司，ほか。厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「WHO飲料水水質ガイドラインの改訂等に対応する水道における化学物質等に関する研究」（主任研究者：眞柄泰基。H15—がん予防—104）。平成13～15年度総合研究報告書。2004。

国包章一，相澤貴子，浅見真理，島崎大，ほか。日本水道協会「酸化消毒剤注入量の低減化に関する研究」。研究報告書（3年間のまとめ）。2003。

国包章一，相澤貴子，浅見真理，島崎大，小坂浩司。環境省地球環境保全等試験研究費「水道水源水域等における親水性かつ難分解性有機化学物質の動態と水道のリスク評価ならびに制御に関する研究」。平成15年度環境保全成果ダイジェスト集。2004。

### Originals

Kim H-S, Shikiya J, Akiba M, Kunikane S. Examination of monodispersed artificial particles similar to *C. parvum* oocysts in size as the surrogate of *Cryptosporidium* removal. *Journal of Water Supply: Research and Technology-Aqua* 2004; 53(1); 51-59.

Tango T, Fujita T, Tanihata T, Minowa M, Doi Y, Kato N, Kunikane S, Uchiyama I, Tanaka M, Uehata T. Risk of adverse reproductive outcomes associated with proximity to

municipal solid waste incinerators with high dioxin emission levels in Japan. *Journal of epidemiology* 2004; 14(3); 83-93.

Kunikane S, Ando M, Aizawa T, Kanegaki. A nationwide survey of endocrine disrupting chemicals in source and drinking waters in Japan. *Journal of Water and Environment Technology* 2004; 2(1); 17-22.

Kosaka K, Yamada H, Tsuno H, Shimizu Y, Matsui S. The effects of dissolved organic matter on the decomposition of di-n-butyl phthalate by ozone/hydrogen peroxide process.

Water Science & Technology 2004;49(4):57-62.

### Proceedings with Abstracts

Thaveemaitree Y, Nakajima F, Furumai H, Kunikane S. Relationship between di-(2-ethylhexyl) phthalate concentration and chemical structure of organic matter on solids in drinking water treatment processes. In: Proceedings of IWA World Water Congress; September 2004; Marrakech.

Kunikane S, Kosaka K, Yonezawa T. Behavior of chemicals suspected of EDCs and other related chemicals in drinking water supply. In: Proceedings of the 7<sup>th</sup> Japan-US

Conference on Drinking Water Quality Management and Wastewater Control; July 2004; Honolulu, Hawaii.

Asami M. Promotion of research and technology in water supply field. In: Proceedings of the 7<sup>th</sup> Japan-U.S. Joint Conference on Drinking Water Quality Management and Wastewater Control; July 12-15 2004; Honolulu, Hawaii.

Itoh M, Magara Y. Accelerated fouling test of NF membrane and foulant characteristics using small-scale pilot plant. In: Proceedings of IWA Specialty Conference, Water Environment — Membrane Technology [WEMT2004]; June 2004; Seoul, Korea. p.971-977.

## 施設科学部

### Department of Facility Sciences

#### 学術雑誌に発表した原著論文

鳥飼達也, 井上由起子, 笥淳夫. 回復期リハビリテーション病棟におけるチームアプローチのあり方に関する研究. 病院管理 2004;41(1):27-36

小林健一, 小菅瑠香, 笥淳夫, 長澤泰. 外来点滴センターの機能と治療環境に関する考察, 病院の通院治療部門の建築計画に関する研究. 日本建築学会計画系論文集 2004;(581):9-15.

#### 学術雑誌に発表した総説

笥淳夫. 設備の面からのSARS対策. INFECTION CONTROL 2004;13(1):57-9.

笥淳夫. 精神科医療施設の物的環境. 保健医療科学 2004;53(1):26-30.

笥淳夫. 安全なしつらえ. 病院設備 2004;46(2):112.

笥淳夫. オーストラリアの高齢者施設. 病院 2004;63(4):354-8.

笥淳夫. オーストラリアの医療・福祉施設. 病院建築 2004;(143):26-31.

笥淳夫. 第1種感染症指定医療機関の施設基準の見直しについて. 感染と消毒 2004;11(1):20-4.

笥淳夫. 病院全体計画における手術部. 日本手術医学会誌 2004;25(2):129-33.

笥淳夫. 医療施設の整備状況と課題. BELCA 2004;16(92):13-7.

笥淳夫. 第8回日本・フィンランド医療福祉施設セミナー. 病院建築 2004;(145):34.

笥淳夫. 医療福祉用語の基礎知識. 病院建築 2004;(145):36.

笥淳夫. 医療施設の現状と今後の課題. ベース設計資料 2004;(123):32-6.

小林健一. 特集 巨大地震に備える 概説 (特集にあたって). 病院設備 2004;46(4):241-248.

小林健一. 見学会レポート みなと医療生活協同組合 協

立総合病院. 病院建築 2004;144:34.

井上由起子. 自宅に代わる高齢者居住の概要. 公共建築 2004;46(180):25-7.

井上由起子. 高齢期と地域居住 第1回 地域という視点から様々な居住の場を概観する. 財団ニュース 2004;59:1-6.

井上由起子. 高齢期と地域居住 第2回 日常生活圏とコミュニティケア. いい住まいいいシニアライフ. 財団ニュース 2004;60:1-6.

井上由起子. 高齢期と地域居住 第3回 コミュニティケアのひとつのかたち——住民によるまちづくり活動——. いい住まいいいシニアライフ. 財団ニュース 2004;61:41-7.

井上由起子. 高齢期と地域居住 第4回 コミュニティケアのもうひとつのかたち——住民活動と連携した診療所ケア——. いい住まいいいシニアライフ. 財団ニュース 2004;62:1-6.

井上由起子. 高齢期と地域居住 第5回 まちなかグループホームにおける地域生活の具体. いい住まい, いいシニアライフ. 財団ニュース 2004;63:8-13.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 第1回 自宅に代わる高齢期の居住の場の概要. G P net. 2004;51(4):62-5.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 第3回 「すまい」への道程～特別養護老人ホームを題材に～. G P net. 2004;51(6):62-5.

井上由起子. 高齢期における居住の場を考える 第5回 個人空間のあり方. G P net. 2004;51(8):62-5.

井上由起子. リハビリテーションの原点・からだと環境シリーズ「交流する」環境編. REHA-TECH 2004;2(6):6-8.

井上由起子. リハビリテーションの原点・からだと環境シリーズ「身支度を整える」環境編. REHA-TECH 2004;2(7):6-8.

井上由起子. リハビリテーションの原点・からだと環境シリーズ「生活する」環境編. REHA-TECH 2004;2(8):6-8.

井上由起子. 特別養護老人ホームをめぐる今日の課題—施

設システムの未来— 病院建築 2004;7(144):23.

井上由起子. 生活を支えるハードの確立と医療があることの価値の再認識を. L T C 2004;44(12,3):7-12.

小林健一, 井上由起子. 医療・高齢者施設行政史. 病院建築 2004;145:268.

井上由起子. 自宅に住まう高齢者の暮らしと地域サポート. 住宅 2004;53:35-40.

### 著書

笈淳夫. 手術部位感染管理のギモン. エキスパートナース編集部, 編. そこの知りたい! 臨床の疑問Q & A. 東京: 昭林社; 2004. p.188-91.

笈淳夫, バリアフリー. 日本病院管理学会学術情報委員会, 編. 医療安全用語事典. 東京: エルゼビアジャパン; 2004. p.83.

小滝一正, 高橋公雄, 井上由起子, 他. ユニットケア導入のための施設改修の手引. 日本医療福祉建築協会. 東京: 中央法規出版; 2004.

井上由起子, 伊藤雅治, 秋葉都子, 他. 利用者の生活を支えるユニットケア (ユニットケア施設におけるケアと管理・運営). 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター. 東京: 中央法規出版; 2004. p.39-50,184-93.

井上由起子, 石原美和, 伊藤雅治, 他. 新しい介護を創るユニットケア——ユニットケア・シンポジウム報告. 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター. 東京: 中央法規出版; 2004. p.63-70.

大原一興, 井上由起子, 佐藤哲, 中達夫. 住まいに向かう高齢者施設 日本の高齢者施設の計画史に関する研究報告書. 東京: (社) 日本医療福祉建築協会; 2004.

### 抄録のある学会報告

小山明日香, 中西三春, 原田誠一, 計見一雄, 澤温, 宮岡等, 笈淳夫, 伊藤弘人, 樋口輝彦. 精神科急性期入院医療のクリニカルパスに関する研究 (その1) —大うつ病性障害入院医療パス—. 第100回日本精神神経学会総会; 2004.5; 札幌. 同総会プログラム・抄録集. p.354.

中西三春, 小山明日香, 原田誠一, 計見一雄, 澤温, 宮岡等, 笈淳夫, 伊藤弘人, 樋口輝彦. 精神科急性期入院医療のクリニカルパスに関する研究 (その2) —統合失調症急性期入院医療パス・興奮状態による隔離室使用入院医療パス—. 第100回日本精神神経学会総会; 2004.5; 札幌. 同総会プログラム・抄録集. p.354.

横井郁子, 橋本美芽, 須田眞史, 笈淳夫, 井上由起子. 転倒・転落対策を導く患者タイプ分類と環境設定の目標—急性期病院における入院患者の転倒・転落への物的対策に関する研究その1. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, E-1. 2004. p. 435-436.

須田眞史, 笈淳夫, 井上由起子, 横井郁子, 橋本美芽. 患者タイプ分けに基づいたベッドまわりおよびトイレでの転倒への物的対策—急性期病院における入院患者の転倒・転落へ

の物的対策に関する研究その2. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, E-1. 2004. p. 437-438.

笈淳夫, 工藤真人, 中山茂樹. 行動範囲・行動場所に着目した治療プロセスに関する研究, 精神科急性期病棟における治療段階と施設環境に関する研究その1. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, E-1. 2004. p. 453-454.

工藤真人, 笈淳夫, 中山茂樹. 治療プロセスという視点からみた施設環境のあり方に関する研究, 精神科急性期病棟における治療段階と施設環境に関する研究その2. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, E-1. 2004. p. 455-456.

横井郁子, 橋本美芽, 笈淳夫, 須田眞史, 井上由起子, 三宅祥三, 石垣千秋, 小川美帆. 急性期病棟における転倒・転落予防, 環境対策の現状—患者のアセスメントの視点から. 第8回日本看護管理学会年次大会; 2004.8.20; 宇都宮. 大会抄録集. p.467.

橋本美芽, 横井郁子, 笈淳夫, 須田眞史, 井上由起子, 三宅祥三, 石垣千秋, 小川美帆. 急性期病棟における転倒・転落予防, 環境対策の現状—用具と設備の視点から. 第8回日本看護管理学会年次大会. 2004.8.20; 宇都宮. 大会抄録集. p.489.

須田眞史, 横井郁子, 井上由起子, 橋本美芽, 三宅祥三, 笈淳夫. 急性期病棟における転倒・転落への物的対策に関する研究. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.04; 熊本. 病院管理 2004; 第41巻臨時増刊号: 179.

工藤真人, 笈淳夫, 中山茂樹. 治療プロセスという視点からみた施設環境のあり方に関する研究—精神科急性期病棟における治療段階と施設環境に関する研究2—. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.04; 熊本. 病院管理 2004; 第41巻臨時増刊号: 227.

笈淳夫, 工藤真人. 院内感染に関連する施設維持管理の現状について. 第42回日本病院管理学会学術総会; 2004.11.04; 熊本. 病院管理 2004; 第41巻臨時増刊号: 270.

小林健一. 建築計画の観点からみた外来分離の意義と可能性. 第33回日本医療福祉設備学会; 2004.11.17-18; 東京. 同学会予稿集. p.27.

毛利志保, 井上由起子, 谷口元. 施設入居に伴う介護者としての家族の生活の変容に関するケーススタディ 個室型特別養護老人ホームと小規模多機能居住を事例として. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, E-1. 2004. p. 309-10.

佐藤友彦, 井上由起子, 三浦研, 高田光雄. 既存特別養護老人ホームの居住環境改善のあり方に関する研究 その1. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概集, E-1. 2004. p. 315-6.

井上由起子, 佐藤友彦, 三浦研, 高田光雄. 既存特別養護老人ホームの居住環境改善のあり方に関する研究 その2. 日本建築学会 2004 年度大会; 2004.8.29-31; 札幌. 学術講演梗概



集, E-1, 2004. p. 317-8.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

寛淳夫, 中山茂樹, 工藤真人. 精神科急性期病棟における治療段階と施設環境に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業「精神科急性期病棟・リハビリテーション病棟等の在り方に関する研究」(主任研究者: 樋口輝彦, H15-障害004) 平成15年度総括・分担研究報告書. 2004. p.222-40.

寛淳夫, 井上由起子, 須田真史, 橋本美芽, 横井郁子. 患者タイプ分けに基づいた転倒・転落の物的対策に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療施設における療養環境の安全性に関する研究」(主任研究者: 三宅祥三, H15-医療040) 平成15年度研究報告書. 2004. p.115-40.

寛淳夫. 院内感染に資する医療機関内構造設備の管理手法に関する研究. 厚生労働科学特別研究事業「医療機関における院内感染対策の基盤整備に関する緊急特別研究」(主任研究者: 賀来満夫.) 平成15年度総括・分担研究報告書. 2004. p.187-224.

上野淳, 川島浩孝, 中山茂樹, 山下哲郎, 寛淳夫, 小林健一. まとめ・論考. 社団法人日本医療福祉建築協会平成15年度課題研究「戦後日本の病院建築の計画史に関する研究」(主任研究者: 上野淳.) 研究報告書. 2004. p.131-5.

寛淳夫, 井上由起子. 回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査報告書. 全国リハビリテーション病棟連絡協議会, 国立保健医療科学院施設科学部. 2004.

小林健一, 主任研究者. 厚生労働科学研究補助金医療技術評価総合研究事業「地震災害に対応した医療施設の配置計画に関する研究」(H15-医療013) 平成15年度総括研究報告書. 2004.

上野淳, 川島浩孝, 中山茂樹, 山下哲郎, 寛淳夫, 小林健一. 病院建築に関する計画研究の系譜. 社団法人日本医療福祉建築協会課題研究「戦後日本の病院建築の計画史に関する研究」(主任研究者: 上野淳). 平成15年度研究報告書. 2004. p.115-27.

小滝一正, 高橋公雄, 井上由起子, 他. 既存特別養護老人ホームでのユニットケア導入のための改修モデルに関する調査研究(中間報告). 老人保健健康増進等事業による調査平成15年度研究報告書. 日本医療福祉建築協会. 2004.

伊藤雅治, 秋葉都子, 井上由起子, 他. 老人保健健康増進等事業による報告書. ユニットにおけるケアのあり方と職員研修カリキュラムに関する研究・報告書. 医療経済研究機構. 平成15年度研究報告書. 2004.

井上由起子, 三浦研. 居住福祉型特別養護老人ホームにおけるケアと空間のあり方に関する研究. 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学研究事業(課題番号: H14-長寿027) 平成14-15年度報告書. 2004.

### 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

山下哲郎, 小林健一, 佐藤哲, 手塚昌宏, 三浦雅博, JIHaと医療福祉建築の半世紀. 社団法人日本医療福祉建築協会創立50周年記念企画展示; 2004.11.20-27; 東京.

## 研修企画部

### Department of Education Training Technology and Development

#### 学術雑誌に発表した原著論文

成清マサキ, 伊藤憲美, 吉橋和子, 福田良子, 石川房子, 西谷徳美, 伊藤順子, 加藤則子. 母乳栄養児の1歳までの発育過程—生後1カ月間の体重増加過少児について—. 小児保健研究 2004;63(4):381-388.

加藤則子, 他. 乳児期の母乳栄養が3歳までの身体発育に与える影響. 小児保健研究 2004;63(6):612-618.

加藤則子, 内山有子, 大木秀一, 高石昌弘. 双胎児における在胎期間別の体重発育に関する検討. 第14回 Auxology 研究会記録集 2004;10:45-47.

岡本悦司, 畑栄一. レセプト傷病分析の原理とシミュレーションによる妥当性の検証. 日本公衆衛生雑誌 2004; 50(12): 1135-1143.

谷畑健生, 藤田利治, 尾崎米厚, 黒沢洋一, 箕輪眞澄, 畑栄一. 自殺と社会背景としての失業. 厚生 の 指 標 2004; 50(8): 23-29.

#### 学術雑誌に発表した総説

加藤則子. 母子保健からみた思春期暴力. 思春期学

2004;22(1):58-59.

加藤則子, 村田光範, 河野美穂, 谷口隆, 大竹輝臣. 0歳から18歳までの身体発育基準について—「食を通じた子どもの健全育成のあり方に関する検討会」報告書より. 小児保健研究 2004;63(3):345-348.

加藤則子. デンバー 発達判定法(改訂版について). 東京小児科医会報 2004;23(1):414.

加藤則子. 最近の子育て支援プログラムとその評価に関する内外の動向. 公衆衛生 2004;68(9):717-720.

加藤則子. 子どもの発育・発達過程における食の特徴. 小児科臨床 2004;57(12):2417-2422.

加藤則子. 母子保健活動と生活習慣病予防. 思春期学 2004;21(4):353-356.

加藤則子. デンバー —新しい発達判定法—. 小児科 2004;45(12):2201-2206.

加藤則子. 0歳から18歳までの身体発育基準について—「食を通じた子どもの健全育成のあり方に関する検討会」報告書より—. 思春期学 2004;22(4):456-459.

加藤則子. 青少年暴力の母子保健からの接近. 保健医療科

学 2004;53(2):115-119.

### 著書

加藤則子. 小児の発育発達とチェックポイント. 身体発育. 武谷雄二, 他編. 助産学講座 4 基礎助産学 4 乳幼児の成長発達・新生児の管理. 東京: 医学書院; 2004. p.134-145.

### 抄録のある学会報告

加藤則子, 蓮桃子. 児童, 生徒及び幼児の年齢別身長別 BMI に関する検討. 第 107 回日本小児科学会学術集会; 2004.4; 岡山. 日本小児科学会雑誌 2004;108(2):192.

加藤則子, 渡辺久子, 村田光範. 0歳から18歳までの身体発育基準の作成. 第 107 回日本小児科学会学術集会; 2004.4; 岡山.

加藤則子, 村田光範. 0歳から18歳までの身体発育基準作成. 第23回日本思春期学会総会学術集会; 2004.8; つくば. 同学術集会抄録集. 2004. p.58.

加藤則子, 渡辺久子, 村田光範. 0歳から18歳までの身体発育基準について「食を通じた子どもの健全育成のあり方に関する検討会」報告書より一. 第 51 回日本小児保健学会; 2004.10; 盛岡. 同講演集. 2004. p.184-5.

久保秀一, 羽田明, 加藤則子, 林謙治, 山崎彰美. 子供をもつことをポジティブにみるかネガティブにみるか (2004 年少子化対策調査). 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):612.

村井やす子, 帖地美奈子, 伊藤和美, 十亀垂也香, 加藤華奈子, 井坂健二, 橘とも子, 加藤則子, 西田茂樹. 二次保健医療圏を基盤とした HIV に関する普及活動 (第 3 報). 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):838.

加藤則子, 村田光範. 0歳から18歳までの身体発育基準について「食を通じた子どもの健全育成のあり方に関する検討会」報告書より一. 第 15 回 AUXOLOGY (成長学) 研究会; 2004.11; 仙台. 同抄録集. 2004. p.18.

北村菜穂子, 木村佐和子, 相田潤, Masumo Ray, Kimani Simon K, Hikaaba Hichaambwa, Mwakatobe Jack, Daniel Lai, Malawo Dande, 岡本悦司, 畑栄一, 兵井伸行, 綿引信義. 在日外国人の保健医療サービスへのアクセスの現状と健康問題. 第 19 回日本国際保健医療学会; 2004.10.9-10; 東京. 同抄録集. 2004;19(増刊):250.

熊江隆, 荒川はつ子. 心拍スペクトル解析によるエネルギー消費量の変動要因の推定に関する基礎的研究. 第 58 回日本栄養・食糧学会大会; 2004.5.23; 仙台. 同抄録集. 2004. 3E-1a.

荒川はつ子, 熊江隆. 持久的運動が抗酸化能に及ぼす影響に関する研究 第 10 報 Brown-Norway 系ラットの肺胞洗浄液の抗酸化・酸化バランスに及ぼす強制運動の影響. 第 14 回体力・栄養・免疫学会; 2004.8.20-22; 東京. 体力・栄養・免疫学雑誌 2004;14(2):173-174.

熊江隆, 荒川はつ子. 運動負荷が免疫系と抗酸化機構に及ぼす影響に関する基礎的検討. 第 14 回体力・栄養・免疫学会; 2004.8.20-22; 東京. 体力・栄養・免疫学雑誌 2004;14(2):175-177.

荒川はつ子, 熊江隆. 持久的運動が抗酸化能に及ぼす影響に関する研究 第 12 報 成熟期からの運動負荷がラットの肺の免疫系と抗酸化機構に及ぼす影響. 第 59 回日本体力医学会大会; 2004.9.14-16; 埼玉. 体力科学 2004;53(6):726.

荒川はつ子, 熊江隆. 運動によるアレルギー発症リスクの低減に関する基礎的検討. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):924.

熊江隆, 荒川はつ子, 近藤雅雄, 田畑泉. 強制運動がラット肺胞マクロファージのサイトカイン分泌と肺の抗酸化機構に及ぼす影響. 第 63 回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):350.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

加藤則子. 全国データによる出生体重減少に関する解析. 児童環境づくり等総合調査研究事業「低出生体重児出生率増加の背景要因に関する検討」(主任研究者: 中村敬). 平成 15 年度報告書; 2004. p.48-62.

松田智大, 山口昌澄, 梅野裕子, 加藤則子. 小児期から思春期におけるメンタルヘルスプロブレム-原因, 対策と調査方法に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「思春期における暴力行為の原因究明と対策に関する研究」(主任研究者: 小林秀資, 林謙治). 平成 16 年度報告書. 2004.

岡本悦司, 畑栄一. PDM 法に関する丹後氏のコメントへの回答. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(6):461-462.

### Originals

Kato N. Reference birthweight range for multiple birth neonates in Japan. BMC Pregnancy and Childbirth 2004;4:2.

Kato N. Recent decelerated decline in perinatal mortality rate of unlike-sexed twins in Japan. Paediatric & Perinatal Epidemiology 2004;18(3):192-195.

Tango T, Fujita T, Tanihata T, Minowa M, Doi Y, Kato N, Kunikane S, Uchiyama I, Tanaka M, Uehata T. Risk of adverse reproductive outcomes associated with proximity to

municipal solid waste incinerators with high dioxin emission levels in Japan. Journal of Epidemiology 2004;14(3):73-77.

Okamoto E, Hata E. Estimation of disease-specific costs in health insurance claims: A comparison of three methods. Japanese Journal of Public Health 2004;51(11): 926-937.

Kumae T, Arakawa H. Development of a simple and reliable method to measure total anti-oxidative activity in human sera using a parallel luminometer. J Phys Fit Nutr Immunol 2004;14(2):87-97.

### Proceedings with Abstracts

Kato N, Uchiyama Y, Tanaka T. Discordant birthweight and perinatal death in Japanese twins. The 11th International Congress on Twin Studies; July 24 2004; Odense, Denmark.

Kato N, Uchiyama Y, Tanaka T. Optimal birthweight and gestational ages for twin and triplet neonates in Japan. The 11th International Congress on Twin Studies; July 24 2004; Odense, Denmark.

Kato N, Murata M, Takaishi M, Kawano M, Ohtake T. Growth reference for Japanese children from birth to 18 years of age. The 10th International Congress of Auxology; July 4-7 2004; Firenze, Italy.

Kato N, Takaishi M. Secular trend of growth in Japanese children from 1940 through 2000. The 10th International Congress of Auxology; July 4-7 2004; Firenze, Italy.

Kato N, Uchiyama Y, Tanaka T. BMI in Japanese children from 5 to 18 years of age: how is it affected by height? The 10th International Congress of Auxology; July 4-7 2004; Firenze, Italy.

Kumae T, Arakawa H. Effects of forced exercise started from different ages on chemiluminescent response and cytokine excretion of alveolar macrophage. 13th International Symposium on Bioluminescence & Chemiluminescence; August 2-6 2004; Yokohama.

### 研究情報センター

### Center for Information Research and Library

#### 学術雑誌に発表した原著論文

緒方裕光. 科学的根拠とリスク評価. 公衆衛生 2004; 68: 540-543.

馬替純二, 古川智春, 瀧景子, 川上泰, 緒方裕光. 培養細胞を用いた低線量・低線量率放射線のリスク評価. 産業創造研究所紀要 2004;24(2):11-17.

#### 学術雑誌に発表した総説

緒方裕光. 放射線と皮膚がん. 放射線科学 2004;47(12): 393-397.

緒方裕光. 米国疾病管理予防センター (CDC) における研究評価制度. 保健医療科学 2004 ; 53(4) : 271-275.

緒方裕光, 西村秋生, 伊藤弘人. 諸外国, 国際機関における研究評価制度—英国, OECD, EU および WHO における研究評価制度—. 保健医療科学 2004;53(4):276-285.

望月友美子. たばこ対策の今後の課題. 建築設備と配管工事 2004;42(7):81-85.

望月友美子. 新たに考えるたばこ対策情報 「国家百年の計」に参画しよう. 公衆衛生 2004;68(12):945-947.

加藤治文, 平野隆, 池田徳彦, 坪井正博, 大平達夫, 林和, 加藤靖文, 望月友美子. 肺癌は予防できるか. 成人病と生活習慣病 2004;34(5):619-623.

磯野威, 泉峰子. 図書館の100%活用法. 保健師ジャーナル 2004;60(2):134-137.

#### 著書

緒方裕光. リスク比とオッズ比. 縣俊彦, 編. 基本医学統計学. EBM・医学研究・SASへの応用 4版. 東京:中外医学社; 2004. p.57-61.

#### 抄録のある学会報告

緒方裕光, 古川智春, 川上泰, 馬替純二. 低線量ガンマ線に対する生物応答に関する統計学的モデル. 日本保健物理学会第38回研究発表会; 2004.4.22-23; 神戸. 同講演要旨集. p.68.

馬替純二, 古川智春, 川上泰, 緒方裕光. 新規線量率効果モデル, MOEモデルにおける修復遺伝子の影響について. 日本保健物理学会第38回研究発表会; 2004.4.22-23; 神戸. 同講演要旨集. p.67.

杉山英男, 寺田宙, 緒方裕光, 磯村公郎, 平田明日美, 櫻井さかね, 宮田昌弘, 後藤成生. 食品中の放射性核種濃度とリスク評価へのアプローチ. 日本薬学会第124年会; 2004.3.29-31; 大阪.

緒方裕光, 古川智春, 川上泰, 馬替純二. 低線量ガンマ線に対する生物応答に関する定量的リスク評価法. 日本放射線影響学会第47回大会; 2004.11.25-27; 長崎. 同講演要旨集. p.81.

馬替純二, 古川智春, 星裕子, 川上泰, 緒方裕光. 新規線量率効果モデル, MOEモデルにおける細胞特異性の検討. 日本放射線影響学会第47回大会; 2004.11.25-27; 長崎. 同講演要旨集. p.60.

川上泰, 馬替純二, 緒方裕光. 世代時間などを時定数とした線量率効果モデル. 日本放射線影響学会第47回大会; 2004.11.25-27; 長崎. 同講演要旨集. p.81.

緒方裕光. 健康危機管理情報の収集と評価について. 平成15年度厚生労働科学研究がん予防等健康科学総合研究成果発表会「安心・安全な社会を目指して」(シンポジウム); 2004.3; 東京. 同抄録集. p.10.

緒方裕光. 健康危機管理における情報の役割. 第17回公衆衛生情報研究協議会; 2004.1; 長崎. 同抄録集. p.31.

山口一郎, 緒方裕光. 陽電子断層撮影検査における放射線防護の必要性に関する検討. 第63回日本公衆衛生学会総会; 2004.10.27-29; 松江. 日本公衆衛生雑誌 2004;51(10 特別附録):919.

望月友美子. タバコと肺癌 Tobacco Free \* Japan ニッポンのたばこ政策への提言 「国家百年の計」に参画しよう. 肺癌 2004;44(5):304.

野添篤毅, 阿部信一, 磯野威, 裏田和夫, 山口直比古. メタアナリシスにおける文献検索. 医学情報サービス研究大会; 2004.7.3-4; 東京. 同大会抄録集 2004;21回: 14.

### その他学術報告（研究調査報告書含む）

土井徹. 健康危機管理職員研修に対するインターネットを用いた支援方法に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する調査研究」（主任研究者：緒方裕光）平成 15 年度総括研究報告書. 2004. p. 29-36.

緒方裕光. 健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する調査研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する調査研究」（主任研究者：緒方裕光）平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.1-4.

緒方裕光, 磯野威. 健康危機管理情報システムにおけるハザードマップに関する検討. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する調査研究」（主任研究者：緒方裕光）平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.57-60.

磯野威, 緒方裕光, 野添篤毅, 阿部信一, 裏田和夫. 健康危機管理情報の網羅的収集のケーススタディー. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する調査研究」（主任研究者：緒方裕光）平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.7-9.

緒方裕光. 環境要因の健康リスク評価におけるメタ・アナリシスの応用に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するためメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」（主任研究者：丹後俊郎）平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.56-62.

緒方裕光. 保健医療分野の政策決定における研究成果の効率的利用：世界保健機関（WHO）および欧州連合（EU）におけるアプローチ. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「国際的観点からみた保健医療分野における研究パフォーマンス評価に関する研究」（主任研究者：林謙治）平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004. p.17-81.

---

### Reviews

Matsubara J, Ogata H. Comments on “No lengthening of life span in mice continuously exposed to gamma rays at very low dose rates” by S.Tanaka et al. (Radiat. Res. 16, 376-379, 2003). Radiation Research 2004;161;746.

### Proceedings with Abstracts

Ogata H, Kawakami Y, Magae J. Modified exponential (MOE) models: Statistical models for risk estimation of low

dose rate radiation. The 11th International Congress of the International Radiation Protection Association; May 2004; Madrid. Abstracts. p.49.

Magae J, Furukawa C, Hoshi Y, Kawakami Y, Ogata H. Dose response model of biological reaction to low dose-rate gamma radiation. The 11th International Congress of the International Radiation Protection Association; May 2004; Madrid. Abstracts. p.24.